別冊

令和８年度
学校選択制に関する検証結果報告書

令 和 ８ 年 １ ０ 月

江別市教育委員会

目　　次

Ⅰ．学校選択制を導入した経緯と制度概要
１．学校選択制とは　・・・・・・・・・・　Ｐ１
２．導入の経緯　・・・・・・・・・・　Ｐ１
３．制度の概要　・・・・・・・・・・　Ｐ２

Ⅱ．学校選択制の実施状況等
１．学校選択制（特認入学含む）の入学者数の推移　・・・・・・・・　Ｐ４
２．学校選択制（特認入学含む）による入学者の学校別一覧　・・・・　Ｐ５

Ⅲ．学校選択制の検証について
１．学校選択制の検証について　・・・・・・・・・・　Ｐ６
２．アンケート調査の結果
（１）令和５～令和７年度に学校選択制により入学した児童生徒の保護者にアンケート　・・・・・・・・　Ｐ８
（２）江別第一小学校の児童の保護者に対する設問　・・・・・Ｐ２０
（３）令和５～令和７年度に選択制を利用せず入学した児童生徒の保護者に対するアンケート　・・・・・・・・・Ｐ２５
（４）今後小学校に入学予定の子どもの保護者に対するアンケート　・・・・・・・・・・Ｐ４１
（５）学校選択制に関する学校アンケート　・・・・・・・・・Ｐ４８

Ⅰ．学校選択制を導入した経緯と制度概要

１．学校選択制とは

入学する小中学校は、学校教育法施行令第５条により、住所によって定められた通学区域に基づき指定されています。

学校選択制とは、住所によって定められた指定校以外の学校に通学することを希望する場合に、これを認める制度です。

学校選択を希望しない場合は、これまでどおり通学区域の指定校へ入学することになります。

２．導入の経緯

平成１５年３月３１日に「学校教育法施行規則」の一部改正があり、就学校指定の際、あらかじめ、保護者の意見を聴取することができるものとするとともに、意見の聴取について必要な事項を定め、これを公表するものとし、市町村教育委員会の判断によって、公立の小中学校で学校選択制を導入できることが法令上明確化されました。

それを受け、平成１５年の７月、８月の江別市定例教育委員会で審議を行った結果、いわゆる学校選択制導入の是非について検討する必要があると判断されました。その後、平成１５年９月２４日に江別市通学区域審議会に導入の是非を含め、学校選択制の基本的な考え方等について諮問をしました。

江別市通学区域審議会では、平成１５年９月２４日から平成１６年２月１０日まで諮問内容の審議を１０回行いました。その間並行して、江別市教育委員会でも保護者アンケート調査や意見交換会、教育タウンミーティングなどを行い、そこで出された意見などは審議会に報告して、導入の是非についての審議をしていただきました。

それらの審議の経過を経て、平成１６年２月１０日の第１０回江別市通学区域審議会において、「子供の個性や希望に応じた学校選択の推進」を図る必要があること、またそのことにより「学校の活性化」及び「保護者が学校に積極的に関わる意識や責任感の向上」などが期待されることから、学校選択制を導入すべきである、との答申を得ました。

この答申を踏まえて、平成１６年２月２６日に江別市定例教育委員会を開催し、学校選択制の基本的な考え方を決定しました。その後、導入の時期、対象児童生徒、選択できる学校の範囲などについて、５月２７日に決定を行っております。

３．制度の概要

（１）実施時期

平成１７年４月

（２）対象となる児童生徒

①江別市立小・中学校に入学する新１年生

②江別市外から江別市立小・中学校に転入する児童生徒

（②は令和２年４月から実施）

（３）選択できる学校の範囲

隣接する校区の学校の中から１校を希望することができます。隣接する学校が１校のみの場合は、近隣の学校を追加して、必ず複数校を選択できるようにしています。（表－１のとおり）

（４）受け入れ人数

各学校においてあらかじめ保有教室と児童生徒数の見込み数をもとに受け入れ可能数を決め、各学校の受け入れ人数の範囲内で希望者の受け入れをします。

（５）受け入れ人数を超えた場合

入学希望者が受け入れ人数を超えた学校は、公開抽選により入学者を決定する場合があります。抽選に漏れた場合は、通学区域の指定校に入学することになります。補欠登録は行いません。

（６）学校情報のお知らせ

①学校の公開

毎年２回（６月と１０月）学校一斉公開を実施しています。

※令和３年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止しました。

②学校案内

各学校の概要や特色を掲載した学校案内を入学予定者に配布しています。

③学校ホームページ

各学校で制作したホームページをインターネット上で公開しています。

（７）申請の時期

８月の下旬に、制度案内、希望申請書、受け入れ人数一覧、学校案内を入学予定者全員に配布いたします。

１１月の中旬まで、希望申請書を受け付け、結果通知を１２月中旬に行います。

（８）学校選択する際の留意点

①入学後は、卒業まで同じ学校に通学することになります。

②学校への通学は、徒歩が原則となります。

表－１　選択できる学校の範囲

【小　学　校】

通学区域の学校（指定校）		選　択　で　き　る　学　校					
1	江別第一小学校	江別太小	対雁小	中央小	北光小	いずみ野小	上江別小
2	江別第二小学校	対雁小	東野幌小	中央小	大麻泉小	野幌若葉小	
3	豊幌小学校	江別第一小	江別太小				
4	江別太小学校	江別第一小	豊幌小	上江別小	北光小		
5	大麻小学校	大麻東小	大麻西小	文京台小			
6	対雁小学校	江別第一小	江別第二小	大麻東小	中央小	大麻泉小	いずみ野小
7	野幌小学校　【特認校】	東野幌小	野幌若葉小	上江別小			
8	東野幌小学校	江別第二小	中央小	野幌若葉小	上江別小		
9	大麻東小学校	大麻小	対雁小	大麻泉小			
10	大麻西小学校	大麻小	文京台小				
11	中央小学校	江別第一小	江別第二小	対雁小	東野幌小	いずみ野小	上江別小
12	大麻泉小学校	江別第二小	対雁小	大麻東小	野幌若葉小		
13	野幌若葉小学校	江別第二小	東野幌小	大麻泉小			
14	北光小学校	江別第一小	いずみ野小	江別太小			
15	文京台小学校	大麻小	大麻西小				
16	いずみ野小学校	江別第一小	対雁小	中央小	北光小		
17	上江別小学校	江別第一小	江別太小	東野幌小	中央小		

【中　学　校】

通学区域の学校（指定校）		選　択　で　き　る　学　校					
1	江別第一中学校	江別第三中	野幌中	江陽中	中央中		
2	江別第二中学校	野幌中	大麻東中	中央中			
3	江別第三中学校	江別第一中	江陽中	中央中			
4	野幌中学校	江別第一中	江別第二中	中央中			
5	大麻中学校	江別第二中	大麻東中				
6	大麻東中学校	江別第二中	大麻中	中央中			
7	江陽中学校	江別第一中	江別第三中				
8	中央中学校	江別第一中	江別第二中	江別第三中	野幌中	大麻東中	

（注）・　選択できる学校の中から１校を希望することができます。

・　野幌小学校（特認校）は、市内全域から入学が希望できます。

Ⅱ．学校選択制の実施状況等

１．学校選択制（特認入学含む）の入学者数の推移

表－２　過去６年間の入学者数の推移

（単位：人、％）

年度	小学校			中学校			計		
	入学者数	うち選択者数	割合	入学者数	うち選択者数	割合	入学者数	うち選択者数	割合
令和３年度	878	54	6.2	939	54	5.8	1,817	108	5.9
令和４年度	894	56	6.3	887	60	6.8	1,781	116	6.5
令和５年度	900	65	7.2	960	65	6.8	1,860	130	7.0
令和６年度	958	69	7.2	985	74	7.5	1,943	143	7.4
令和７年度	903	79	8.7	959	69	7.2	1,862	148	7.9
令和８年度	861	48	5.6	1,011	82	8.1	1,872	130	6.9
平均	899	62	6.9	957	67	7.0	1,856	129	6.9

表－２の過去６年間の選択制による入学者の割合を見ると、小学校・中学校ともに５～８％台、全体では５～７％台を推移しています。

年度によって入学者数にばらつきがあるものの、学校選択制による入学者の割合は概ね横ばい傾向にあります。

２．学校選択制（特認入学含む）による入学者の学校別一覧

表－３　過去６年間の入学者の学校別一覧

（単位：人）

学校名	選択制・特認校制度による希望者							他校選択による減						
	R3	R4	R5	R6	R7	R8	計	R3	R4	R5	R6	R7	R8	計
江別第一小学校	5	2	4	9	8	4	32	2	5	6	4	8	4	29
江別第二小学校	8	5	7	12	10	11	53	3	4	8	6	11	4	36
豊幌小学校	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	4
江別太小学校	0	1	0	0	2	0	3	2	1	3	3	2	1	12
大麻小学校	7	10	7	6	8	6	44	4	3	0	0	2	0	9
対雁小学校	4	7	8	13	12	4	48	4	1	0	0	1	1	7
野幌小学校(特認)	14	13	12	12	12	5	68	0	0	0	0	1	0	1
東野幌小学校	3	4	7	3	2	2	21	10	9	8	9	5	9	50
大麻東小学校	1	1	1	2	1	0	6	4	8	6	6	8	6	38
大麻西小学校	2	3	0	0	3	1	9	3	2	2	3	1	1	12
中央小学校	3	3	3	1	4	2	16	9	7	8	17	23	7	71
大麻泉小学校	2	4	2	2	4	1	15	2	3	4	5	1	1	16
野幌若葉小学校	4	1	9	5	8	9	36	5	4	9	2	3	5	28
北光小学校	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	2	1	2	10
文京台小学校	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	1	7
いずみ野小学校	1	2	3	2	4	3	15	2	5	6	8	7	3	31
上江別小学校	0	0	2	2	1	0	5	0	1	2	3	2	2	10
小計	54	56	65	69	79	48	371	54	56	65	69	79	48	371
江別第一中学校	6	17	15	12	11	17	78	6	8	7	7	10	13	51
江別第二中学校	14	16	13	15	7	11	76	6	5	4	6	8	3	32
江別第三中学校	10	10	11	5	8	14	58	8	9	13	16	18	19	83
野幌中学校	3	1	3	4	6	0	17	4	12	9	10	6	6	47
大麻中学校	10	7	11	15	11	17	71	1	2	1	1	0	2	7
大麻東中学校	6	4	3	5	1	4	23	11	7	12	17	17	19	83
江陽中学校	0	0	0	2	0	0	2	3	5	3	4	2	9	26
中央中学校	5	5	9	16	25	19	79	15	12	16	13	8	11	75
小計	54	60	65	74	69	82	404	54	60	65	74	69	82	404
合計	108	116	130	143	148	130	775	108	116	130	143	148	130	775

表－３の過去６年間の入学者の学校別一覧を見ると、選択希望による増と他校選択による減の上位３校は、次のとおりとなっています。

（選択希望による増）

小学校：野幌小学校６８人　江別第二小学校５３人　対雁小学校４８人

中学校：中央中学校７９人　江別第一中学校７８人　江別第二中学校７６人

（他校選択による減）

小学校：中央小学校△７１人 東野幌小学校△５０人 大麻東小学校△３８人

中学校：江別第三中学校△８３人　大麻東中学校△８３人　中央中学校△７５人

Ⅲ. 学校選択制の検証について

１．学校選択制の検証について

（１）検証の目的

学校選択制は平成１７年度に制度が導入され、導入後は原則として３年毎、平成２８年度からは５年毎に制度検証を行うこととしており、制度導入後２２年目の今年度については、６回目の検証になります。

検証にあたっては、学校選択制により入学した児童生徒の保護者に対して選択した動機などアンケート調査を実施しているほか、選択制を利用せずに指定校に入学した児童生徒の保護者や、今後小学校に入学予定の子を持つ保護者などを対象として広くアンケート調査を行いました。

これにより、学校選択制の課題や問題点を整理し、学校選択制をよりよい方向に進めていくため検証作業を実施します。

（２）検証の方法

①学校選択を利用した児童生徒の保護者へのアンケート

学校選択制についての考えや、入学後の学校生活などについてアンケートを行いました。

調査対象者	令和5～7年度に選択制により入学した児童生徒の保護者 372人
調査方法	配付：郵送　回答：WEB
調査期間	令和8年2月2日から令和8年2月28日まで
回答者数	216名
回答率	58.1%

②学校選択制を利用せず入学した児童生徒の保護者へのアンケート

指定校に入学した理由や選択制の隣接校方式、選択できる学年などについての調査を行いました。

調査対象者	令和5～7年度に選択制を利用せず入学した児童生徒の保護者　1,000人 江別第一小学校の児童の保護者　100人
調査方法	配付：郵送　回答：WEB
調査期間	令和8年2月2日から令和8年2月28日まで
回答者数	448人
回答率	40.7%

③今後小学校に入学予定の子どもの保護者に対するアンケート

学校選択制の認知状況や選択制の隣接校方式、選択できる学年などについての調査を行いました。

調査対象者	0歳～6歳の未就学児の保護者 500人
抽出方法	上記の中から、学年別、男女別、学校区別に無作為抽出
調査方法	配付：郵送　回収：郵送
調査期間	令和8年2月2日から令和8年2月28日まで
回答者数	228人
回答率	45.6%

④学校選択制に関する学校アンケート

市内小中学校長に対して、選択制のメリットやデメリット、隣接校方式、選択できる学年、制度導入による変化などについての調査を行いました。

調査対象者	市内全小中学校
調査方法	配付：郵送　回答：WEB
調査期間	令和8年2月2日から令和8年2月28日まで
回答者数	25校
回答率	100%

令和5年度以降に学校選択制により入学した児童生徒の保護者に対するアンケート調査結果

令和８年２月実施

【アンケートの内容について】
○目的
　学校選択制の課題や問題点を整理し、今後の制度の在り方について検証する（前回令和３年）。
○調査対象
　令和５年度以降に学校選択制を利用せずに入学した児童生徒の保護者３７２名
○回答者数
　２１６名（全体の５８．１%）

問１　（１）お子さんの現在通っている学校はどちらですか。

区分	人数	割合
小学校	134	62.0%
中学校	82	38.0%
合計	216	100.0%

（２）問１で中学校を選択した方へ伺います。
　お子さんが通っていた出身小学校を選択してください。

学校名	人数	割合
江別第一小学校	12	14.6%
江別第二小学校	15	18.3%
豊幌小学校	0	0.0%
江別太小学校	2	2.4%
大麻小学校	10	12.2%
対雁小学校	3	3.7%
野幌小学校	4	4.9%
東野幌小学校	8	9.8%
大麻東小学校	4	4.9%
大麻西小学校	0	0.0%
中央小学校	8	9.8%
大麻泉小学校	5	6.1%
野幌若葉小学校	2	2.4%
北光小学校	0	0.0%
文京台小学校	0	0.0%
いずみ野小学校	5	6.1%
上江別小学校	4	4.9%
合計	82	100.0%

問２　お子さんは何年生ですか。（複数回答可）

区分	学年	人数	割合（区分別）	割合(全体)
小学校	１年生	40	21.3%	13.9%
	２年生	44	23.4%	15.3%
	３年生	35	18.6%	12.2%
	４年生	19	10.1%	6.6%
	５年生	27	14.4%	9.4%
	６年生	23	12.2%	8.0%
	小計	188	100.0%	65.5%
中学校	１年生	36	36.4%	12.5%
	２年生	36	36.4%	12.5%
	３年生	27	27.3%	9.4%
	小計	99	100.0%	34.5%
合計		287	-	100.0%

問３　あなたの年齢はどの区分に該当しますか。

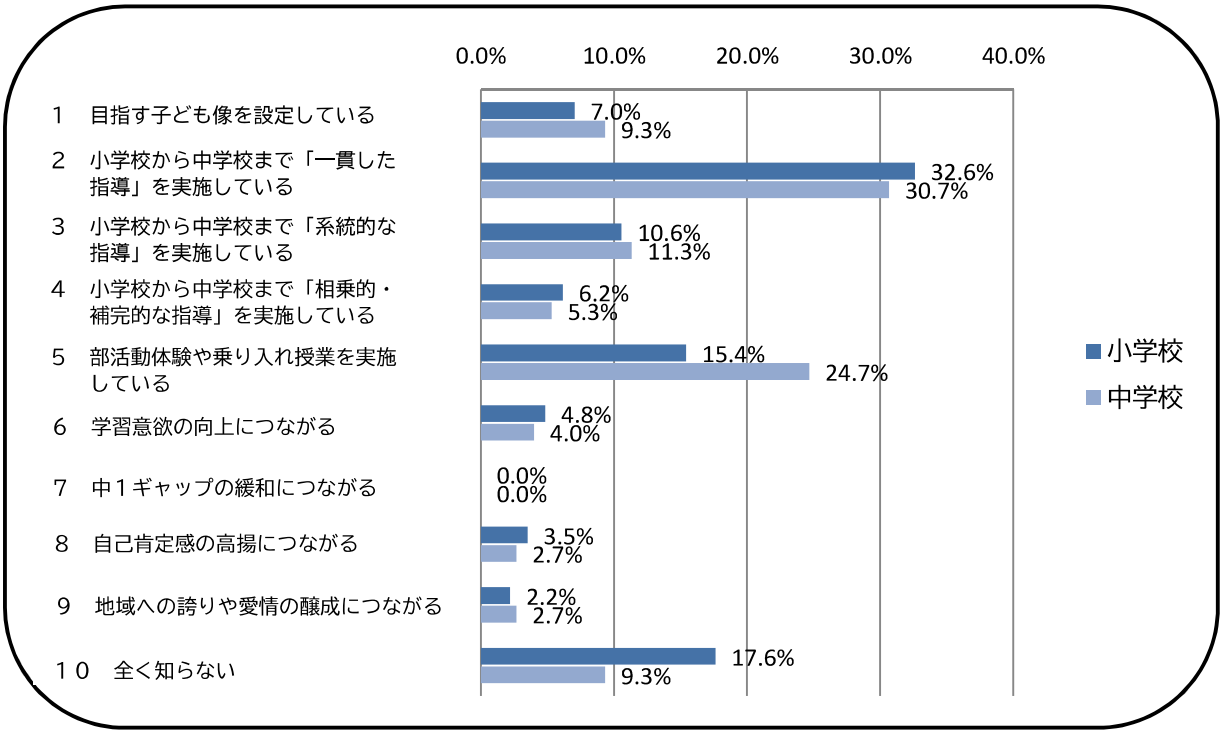
区分	人数	割合(全体)
２９歳以下	1	0.5%
３０～３９歳	65	30.1%
４０～４９歳	125	57.9%
５０～５９歳	25	11.6%
６０歳以上	0	0.0%
合計	216	100.0%

問４　お住まいの地区はどちらですか。

区分	人数	割合
江別地区	85	39.4%
野幌地区	89	41.2%
大麻地区	42	19.4%
合計	216	100.0%

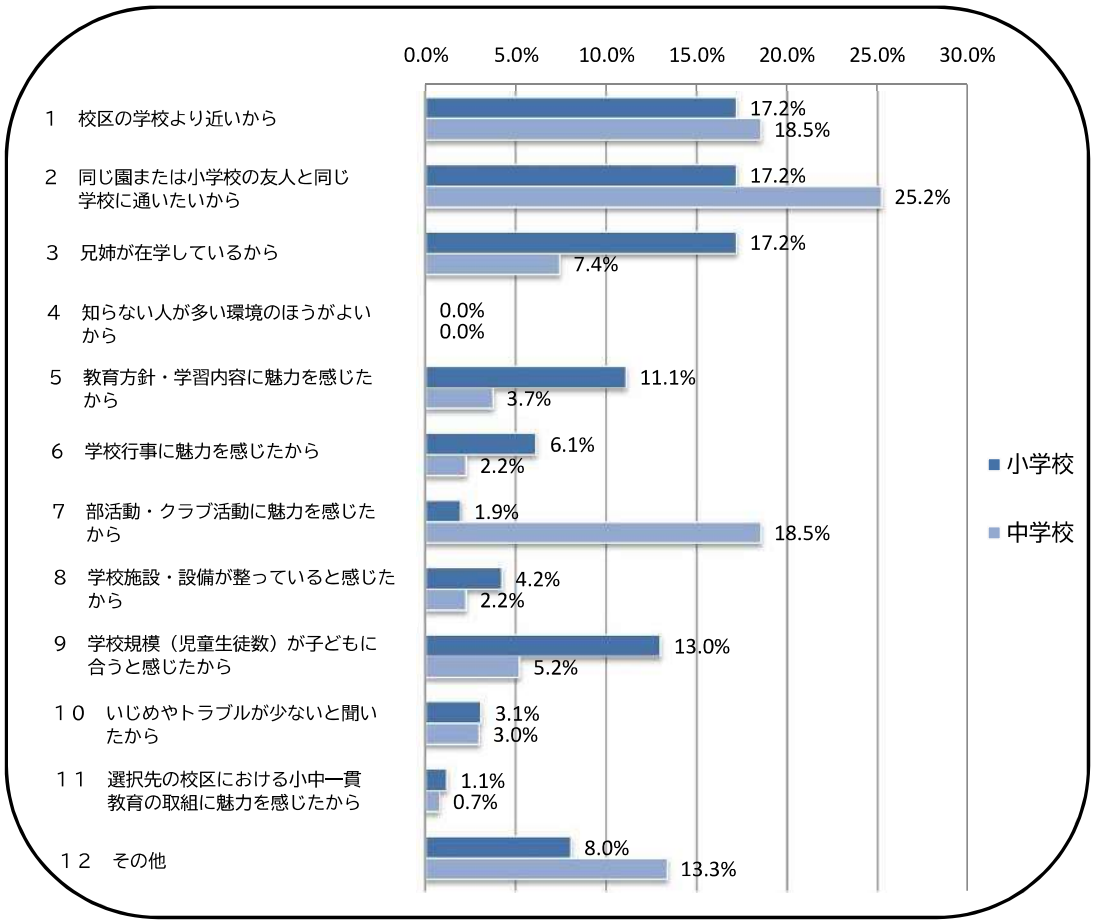
問５　令和５年度から市内全小中学校に導入した「小中一貫教育」について、知っている取組や効果を選択してください。（複数回答可）

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
１　目指す子ども像を設定している	30	8.0%	16	7.0%	14	9.3%
２　小学校から中学校まで「一貫した指導」を実施している	120	31.8%	74	32.6%	46	30.7%
３　小学校から中学校まで「系統的な指導」を実施している	41	10.9%	24	10.6%	17	11.3%
４　小学校から中学校まで「相乗的・補完的な指導」を実施している	22	5.8%	14	6.2%	8	5.3%
５　部活動体験や乗り入れ授業を実施している	72	19.1%	35	15.4%	37	24.7%
６　学習意欲の向上につながる	17	4.5%	11	4.8%	6	4.0%
７　中１ギャップの緩和につながる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
８　自己肯定感の高揚につながる	12	3.2%	8	3.5%	4	2.7%
９　地域への誇りや愛情の醸成につながる	9	2.4%	5	2.2%	4	2.7%
１０　全く知らない	54	14.3%	40	17.6%	14	9.3%
合　　計	377	100.0%	227	100.0%	150	100.0%



問６　学校選択制を利用した理由を教えてください。（複数回答可）

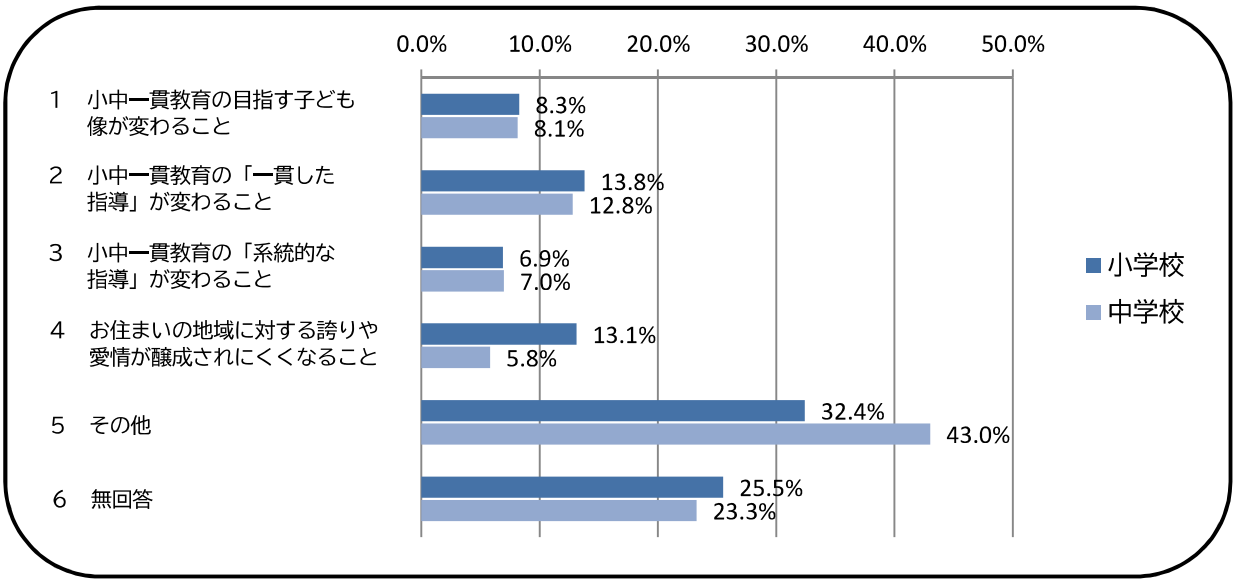
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
１　校区の学校より近いから	70	17.6%	45	17.2%	25	18.5%
２　同じ園または小学校の友人と同じ学校に通いたいから	79	19.9%	45	17.2%	34	25.2%
３　兄姉が在学しているから	55	13.9%	45	17.2%	10	7.4%
４　知らない人が多い環境のほうがよいから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
５　教育方針・学習内容に魅力を感じたから	34	8.6%	29	11.1%	5	3.7%
６　学校行事に魅力を感じたから	19	4.8%	16	6.1%	3	2.2%
７　部活動・クラブ活動に魅力を感じたから	30	7.6%	5	1.9%	25	18.5%
８　学校施設・設備が整っていると感じたから	14	3.5%	11	4.2%	3	2.2%
９　学校規模（児童生徒数）が子どもに合うと感じたから	41	10.3%	34	13.0%	7	5.2%
１０　いじめやトラブルが少ないと聞いたから	12	3.0%	8	3.1%	4	3.0%
１１　選択先の校区における小中一貫教育の取組に魅力を感じたから	4	1.0%	3	1.1%	1	0.7%
１２　その他	39	9.8%	21	8.0%	18	13.3%
合　　計	397	100.0%	262	100.0%	135	100.0%



～その他の主な意見～
・本人が希望したため。
・校区の学校よりも、学童保育（施設数、預かり時間）が充実していたため。
・共働きのため、祖父母の家（隣接校区内）で預かってもらうため。
・親と同じ学校に通わせたかったため。
・校区の学校と同じくらいの距離だったが、通学路がより安全だと思えたため。
・友人関係のトラブルがあったため。
・スキー搬入や行事参加、送迎等を考慮し、親の職場と同じ方向にしたかったため。
・学校見学時に、生徒と先生の関係が良好であったため。
・校区の学校に希望する部活動はあるが、部員数が少なかったため。
・市外から転入する際、知り合いがいたため。
・引っ越し予定があったため。
・校区の学校の説明会があまりにもひどい内容であったため。

問７　学校選択制を利用した際の懸念点について選択してください。（複数回答可）

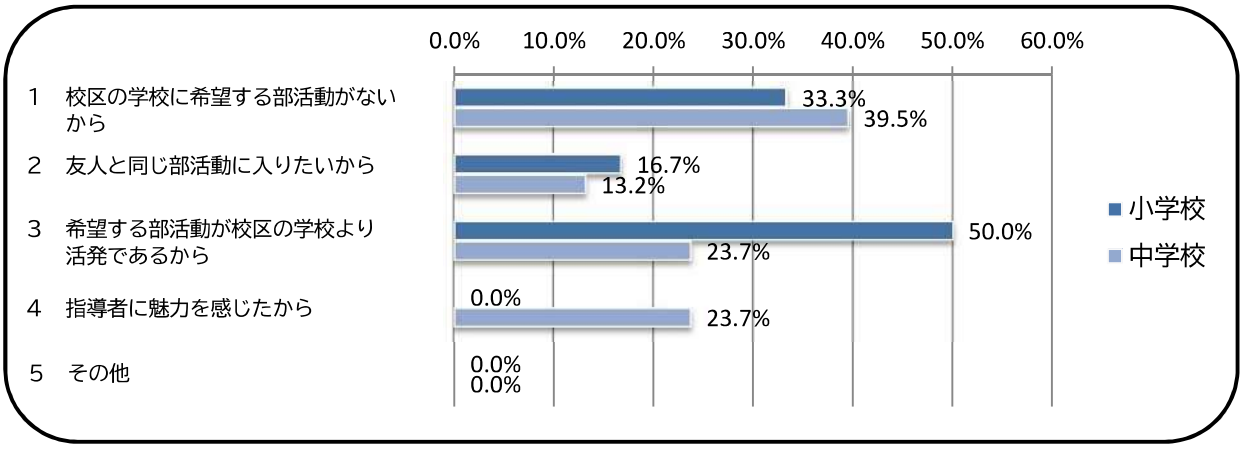
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　小中一貫教育の目指す子ども像が変わること	19	8.2%	12	8.3%	7	8.1%
2　小中一貫教育の「一貫した指導」が変わること	31	13.4%	20	13.8%	11	12.8%
3　小中一貫教育の「系統的な指導」が変わること	16	6.9%	10	6.9%	6	7.0%
4　お住まいの地域に対する誇りや愛情が醸成されにくくなること	24	10.4%	19	13.1%	5	5.8%
5　その他	84	36.4%	47	32.4%	37	43.0%
6　無回答	57	24.7%	37	25.5%	20	23.3%
合　　計	231	100.0%	145	100.0%	86	100.0%



～その他の主な意見～
・人間関係や学校の雰囲気に馴染むことができるか。
・近所に同じ学校の友人が少なく、放課後に遊ぶことが難しいこと。
・近所の友人との関係を継続することができるか。
・自転車通学が認められておらず、親の送迎が必要になること。
・通学距離が長くなり、体への負担や登下校時の安全面に不安があること。
・地域とのつながりが薄くなることに多少懸念はあるが、特認校の良さを優先した。
・これまでとは規模が異なる（人数が増える／減る）こと。
・中学校進学時に改めて選択制を使うかどうか。
・学童保育を利用できるか。
・保護者が新しい環境に馴染めるか。
・小中一貫教育については気にしてなかった。
・懸念点はなかった。

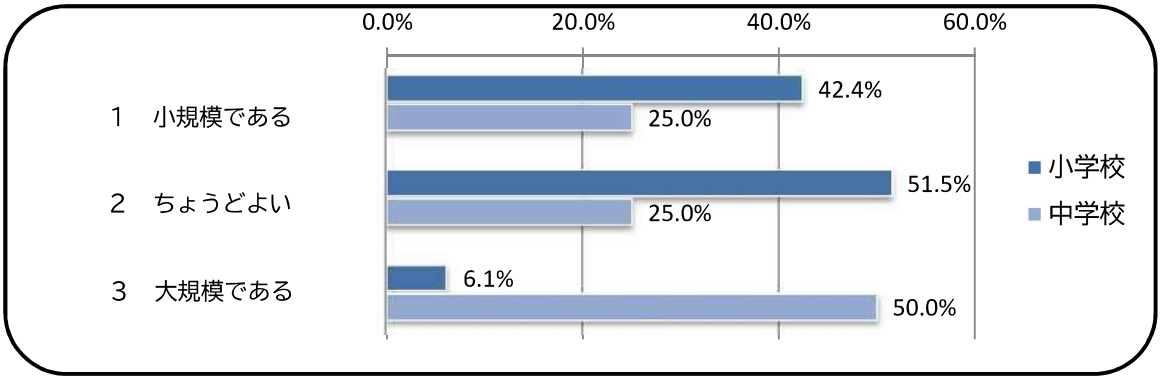
問８　問６で「部活動・クラブ活動に魅力を感じたから」を選択した方に伺います。
部活動・クラブ活動に魅力を感じた理由を選択してください。（複数回答可）

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　校区の学校に希望する部活動がないから	17	38.6%	2	33.3%	15	39.5%
2　友人と同じ部活動に入りたいから	6	13.6%	1	16.7%	5	13.2%
3　希望する部活動が校区の学校より活発であるから	12	27.3%	3	50.0%	9	23.7%
4　指導者に魅力を感じたから	9	20.5%	0	0.0%	9	23.7%
5　その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合　　計	44	100.0%	6	100.0%	38	100.0%



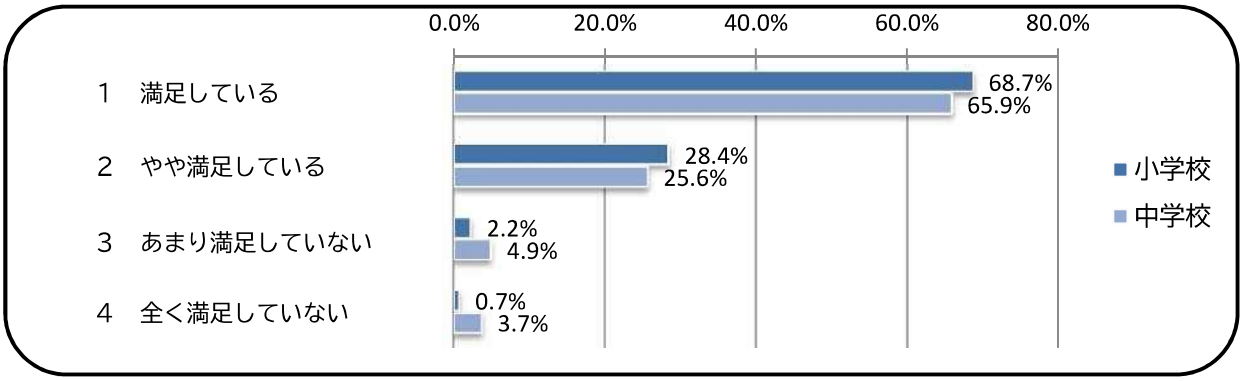
問９　問６で「学校規模（児童生徒数）が子どもに合うと感じるから」を選択した方に伺います。
学校規模（児童生徒数）が子どもに合うと感じた理由を選択してください。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　小規模である	16	39.0%	14	42.4%	2	25.0%
2　ちょうどよい	19	46.3%	17	51.5%	2	25.0%
3　大規模である	6	14.6%	2	6.1%	4	50.0%
合　　計	41	100.0%	33	100.0%	8	100.0%



問１０ 学校を選択した結果、どのように感じていますか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
１　満足している	146	67.6%	92	68.7%	54	65.9%
２　やや満足している	59	27.3%	38	28.4%	21	25.6%
３　あまり満足していない	7	3.2%	3	2.2%	4	4.9%
４　全く満足していない	4	1.9%	1	0.7%	3	3.7%
合　　計	216	100.0%	134	100.0%	82	100.0%



～問１０の回答を選択した主な理由～

１　満足している
・自宅から近い学校で、安心して通わせることができるため（通学路、通学距離）。
・小学校では不登校であったが、学校選択して中学校から通えるようになったため。
・学校見学時の良い印象が、そのままであったため。
・希望する部活動に参加できたため。
・レベルの高い環境で部活動に参加でき、高校の部活動推薦につながったため。
・仲の良い友人が多く、子どもが楽しく充実した学校生活を送れているため。
・小学校時代に転居したが、通っていた小学校の友達と同じ中学校へ進学できたため。
・選択した学校が子どもに合っていると感じるため。
・学習指導がとても熱心な学校であると感じるため。
・学校生活、学童保育ともに充実しているため。
・子どもの希望を優先できたため。
・祖父母の協力を得ることができるため。
・素敵な友人、担任に出会えたため。
・クラス替えなどを通して、多くの友達と関わりを持てるため。
・少人数の学校で、どの子にも活躍の機会があるため。

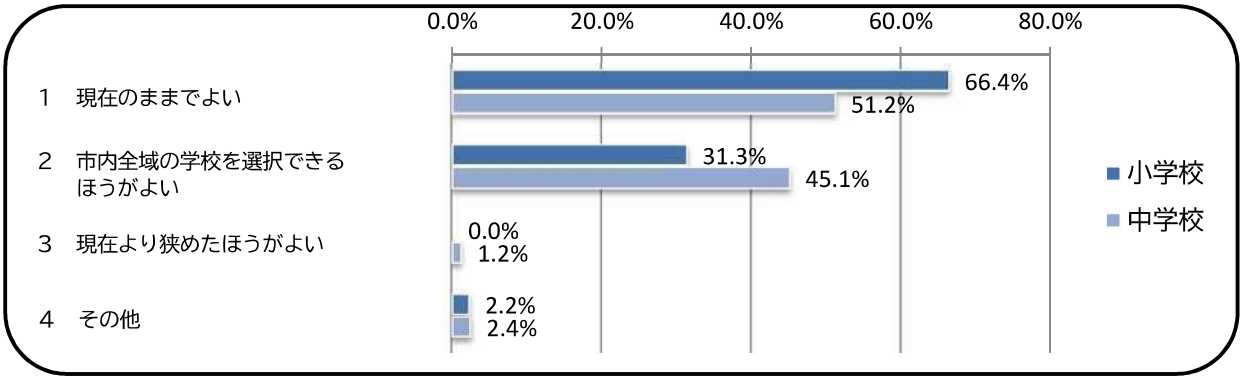
２　やや満足している
・コロナ禍後は、小規模特認校の良さが半減したと感じるため。
・校区の学校よりは、部活動の種類が多い学校に入学できたため。
・下校訓練時に校区外の児童は親の迎えが必須であるため。
・子どもは満足しているが、親は送迎による負担が大きいため。
・一緒に登校する友達、近所で遊ぶ友達が見つけにくいため。
・学校行事には大変満足しているが、特別支援学級がない中、配慮が必要な子どもがいるため。
・子どもが自ら選んだものの、同じ学校の友人と住む地域が異なるため。
・登下校時の見守りに少し不安があるため。
・小規模校を選択したが、大人数での集団生活への耐性に不安が出てきたため。
・小学校時代の中学校体験では、校区の中学校しか体験できなかったため。

３　あまり満足していない
・近所に友達がおらず、放課後に遊べないため。
・部活動の顧問が代わったため。
・周りに知ってる子がおらず転校生のような扱いで、子どもが不安そうであったため。

４　全く満足していない
・教員の働き方改革により、その学校特有の行事が縮小したため。
・子どもが環境の違いに馴染めず、不登校になったため（教員の対応には満足している）。

問１１ 江別市では、選択できる学校の範囲として、通学時の安全面や地域との連携の観点等から、校区と隣接する地域の学校（隣接校方式）としていますが、この方式をどう思いますか。

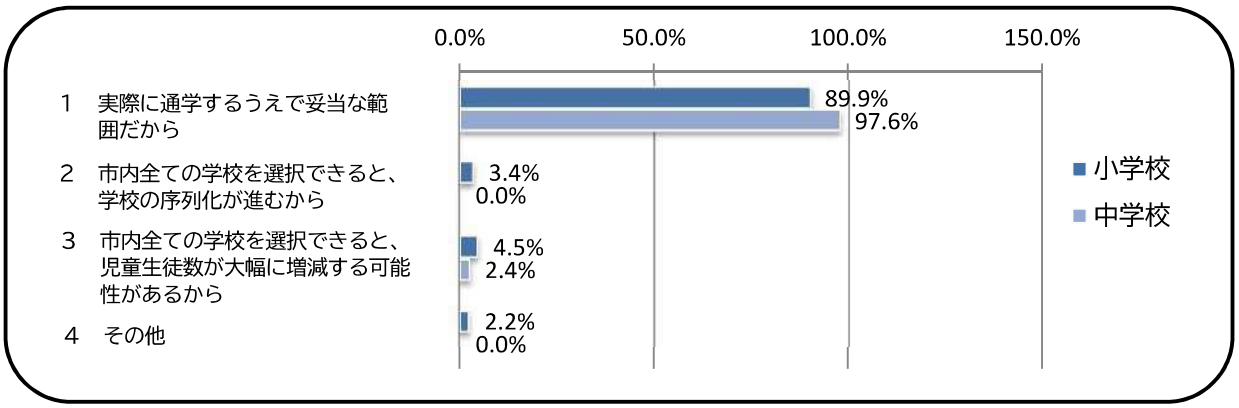
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　現在のままでよい	131	60.6%	89	66.4%	42	51.2%
2　市内全域の学校を選択できるほうがよい	79	36.6%	42	31.3%	37	45.1%
3　現在より狭めたほうがよい	1	0.5%	0	0.0%	1	1.2%
4　その他	5	2.3%	3	2.2%	2	2.4%
合　　計	216	100.0%	134	100.0%	82	100.0%



～その他の主な意見～
・選択できる範囲の前に、校区を見直したほうがよいエリアがあると考えている。

問１２ 問１１で「現在のままでよい」と回答した方に伺います。
「現在のままでよい」と思う理由を選択してください。

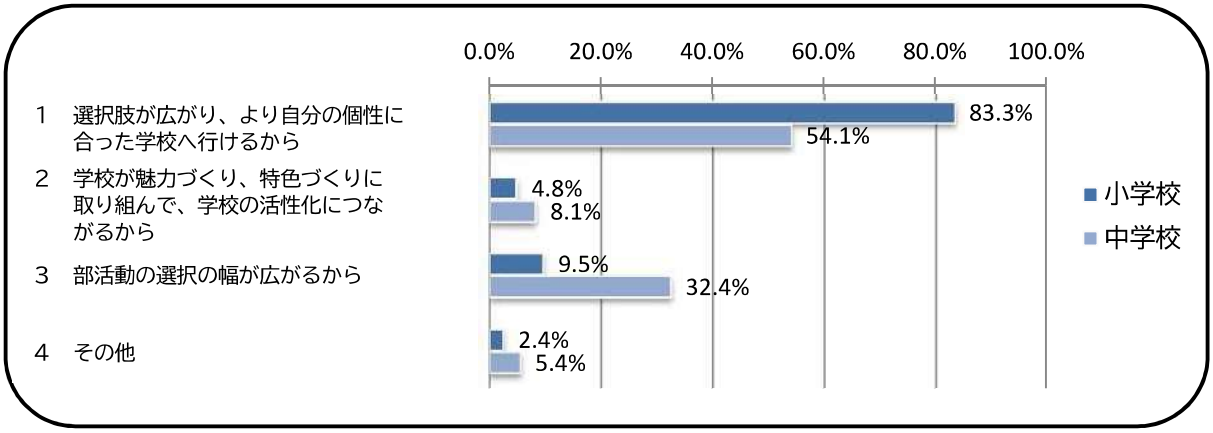
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　実際に通学するうえで妥当な範囲だから	121	92.4%	80	89.9%	41	97.6%
2　市内全ての学校を選択できると、学校の序列化が進むから	3	2.3%	3	3.4%	0	0.0%
3　市内全ての学校を選択できると、児童生徒数が大幅に増減する可能性があるから	5	3.8%	4	4.5%	1	2.4%
4　その他	2	1.5%	2	2.2%	0	0.0%
合　　計	131	100.0%	89	100.0%	42	100.0%



～その他の主な意見～
・小規模特認校のみ市内全域から選択できればよいと考えるため。

問１３ 問１１で「市内全域の学校を選択できるほうがよい」と回答した方に伺います。
「市内全域の学校を選択できるほうがよい」と思う理由を選択してください。

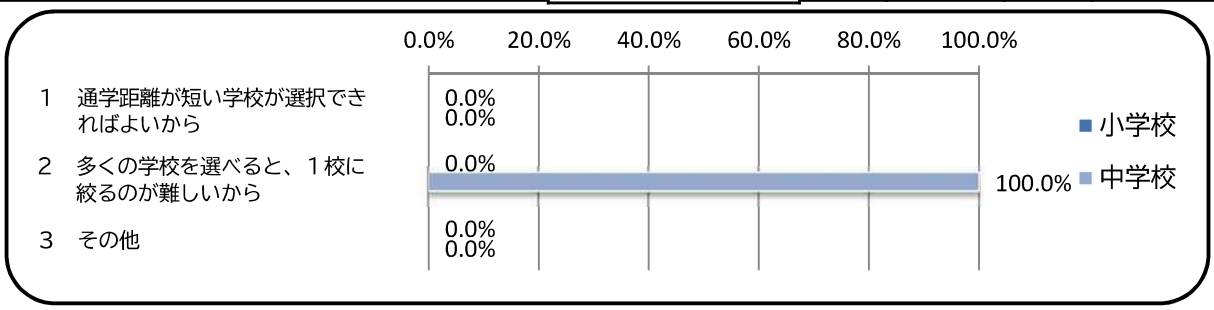
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　選択肢が広がり、より自分の個性に合った学校へ行けるから	55	69.6%	35	83.3%	20	54.1%
2　学校が魅力づくり、特色づくりに取り組んで、学校の活性化につながるから	5	6.3%	2	4.8%	3	8.1%
3　部活動の選択の幅が広がるから	16	20.3%	4	9.5%	12	32.4%
4　その他	3	3.8%	1	2.4%	2	5.4%
合　　計	79	100.0%	42	100.0%	37	100.0%



～その他の主な意見～
・時代の変化とともに、家庭環境にも変化があるため、柔軟に対応してほしい。
・子どもたちにも環境を変えるチャンスや選択肢は多いほうがよい。

問１４ 問１１で「現在より狭めたほうがよい」と回答した方に伺います。
「現在より狭めたほうがよい」と思う理由を選択してください。

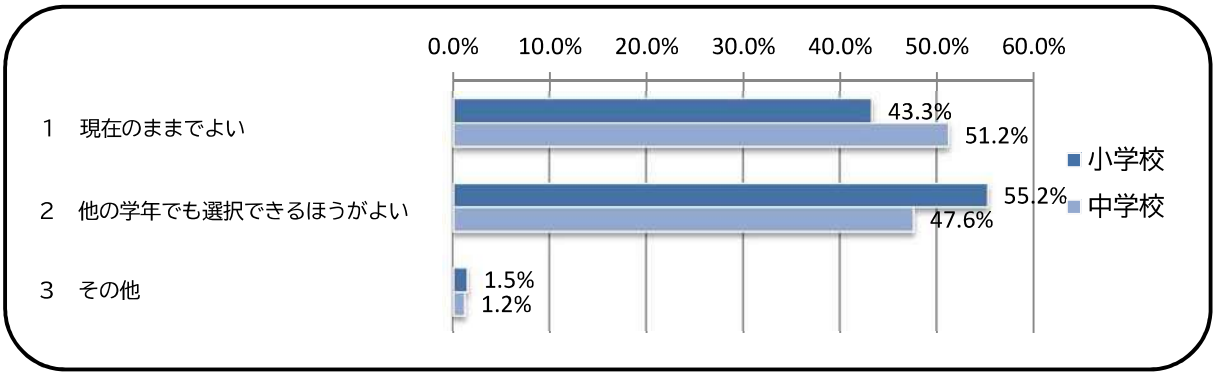
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　通学距離が短い学校が選択できればよいから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2　多くの学校を選べると、１校に絞るのが難しいから	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%
3　その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合　　計	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%



※その他･･･なし

問１５ 現在、学校選択制を利用できる学年は、毎年のクラス編成等の学年運営の関係から、小学校または中学校に入学する新１年生、あるいは市外からの転入時のみとしていますが、選択できる学年についてどう思いますか。

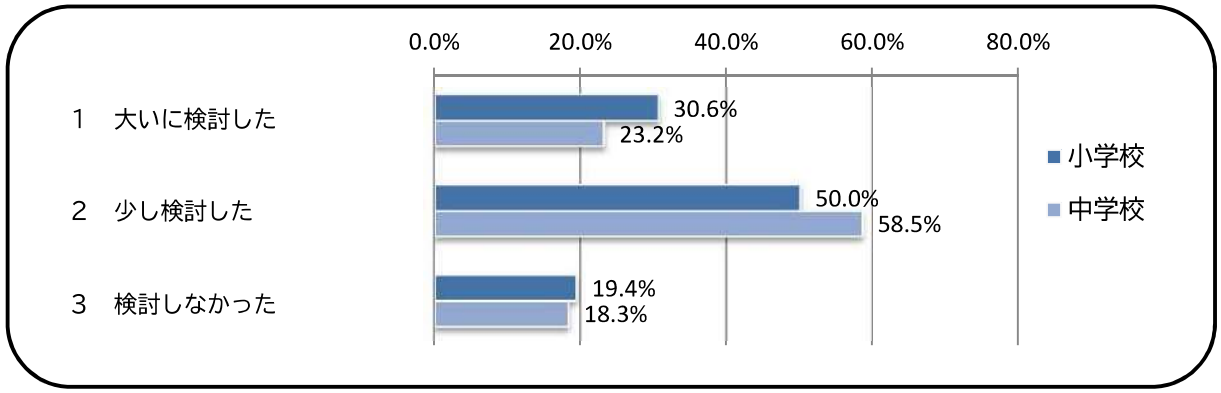
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
１　現在のままでよい	100	46.3%	58	43.3%	42	51.2%
２　他の学年でも選択できるほうがよい	113	52.3%	74	55.2%	39	47.6%
３　その他	3	1.4%	2	1.5%	1	1.2%
合　　計	216	100.0%	134	100.0%	82	100.0%



～その他の主な意見～
・基本的には現在のままでよいが、例外（いじめ等を理由とする）があってもよいと考える。

問１６ 入学前に校区内外を問わず学校に関心を持ち、その学校について検討してみたことがありますか。

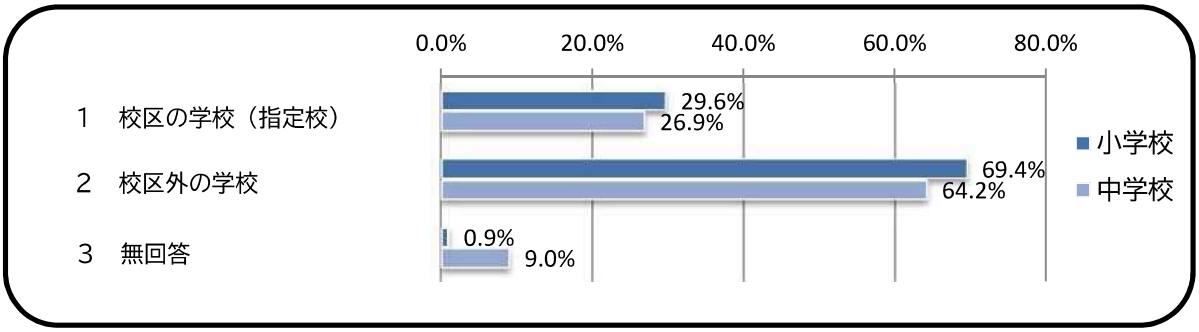
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
１　大いに検討した	60	27.8%	41	30.6%	19	23.2%
２　少し検討した	115	53.2%	67	50.0%	48	58.5%
３　検討しなかった	41	19.0%	26	19.4%	15	18.3%
合　　計	216	100.0%	134	100.0%	82	100.0%



問１７ 問１６で「大いに検討した」「少し検討した」と回答した方に伺います。

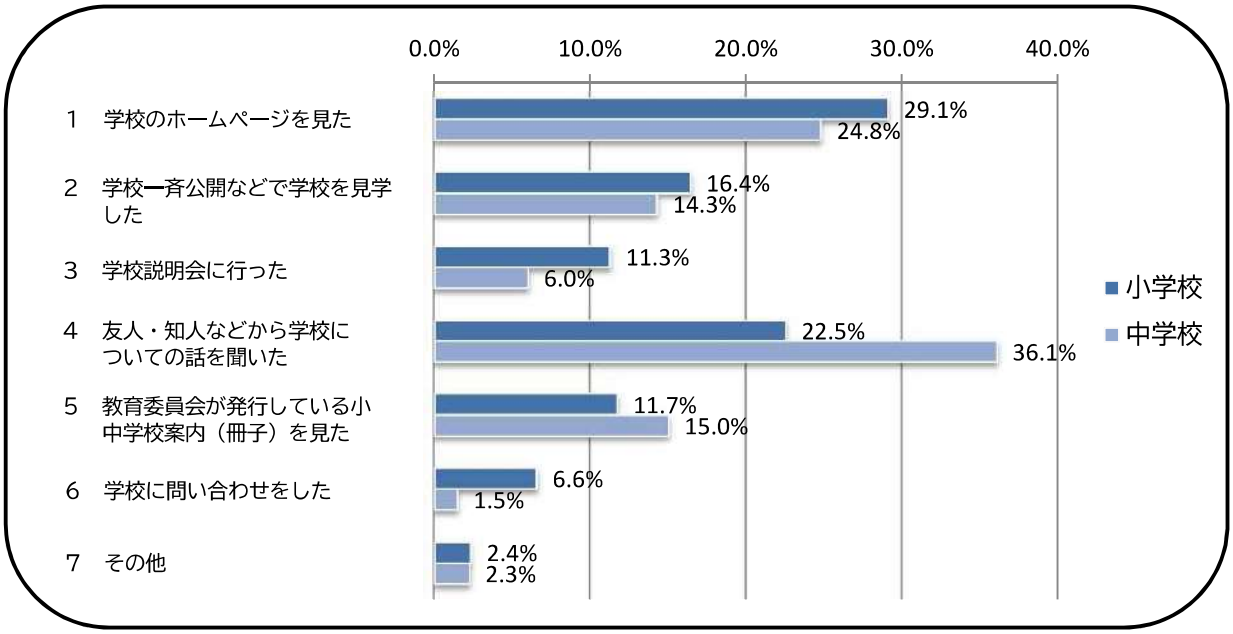
（１）関心を持った学校はどの学校ですか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　校区の学校（指定校）	50	28.6%	32	29.6%	18	26.9%
2　校区外の学校	118	67.4%	75	69.4%	43	64.2%
3　無回答	7	4.0%	1	0.9%	6	9.0%
合　　計	175	100.0%	108	100.0%	67	100.0%



（２）具体的にどのようなことをしましたか。（複数回答可）

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校のホームページを見た	95	27.5%	62	29.1%	33	24.8%
2　学校一斉公開などで学校を見学した	54	15.6%	35	16.4%	19	14.3%
3　学校説明会に行った	32	9.2%	24	11.3%	8	6.0%
4　友人・知人などから学校についての話を聞いた	96	27.7%	48	22.5%	48	36.1%
5　教育委員会が発行している小中学校案内（冊子）を見た	45	13.0%	25	11.7%	20	15.0%
6　学校に問い合わせをした	16	4.6%	14	6.6%	2	1.5%
7　その他	8	2.3%	5	2.4%	3	2.3%
合　　計	346	100.0%	213	100.0%	133	100.0%

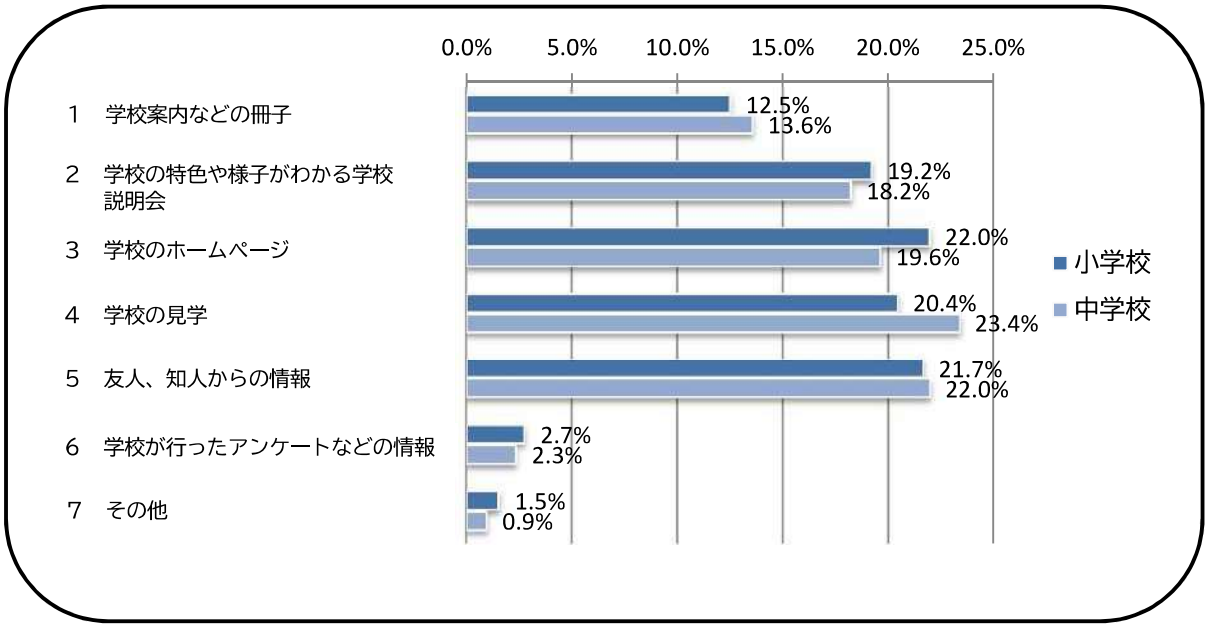


～その他の主な意見～

・個別に学校へ問い合わせ、見学に行った。
・部活動の体験に行った。
・実際に歩いて、登校にかかる時間を測った。
・学童保育の情報を調べた。

問１８ 学校の選択を検討する場合に、重要と思われる情報を選択してください。（複数回答可）

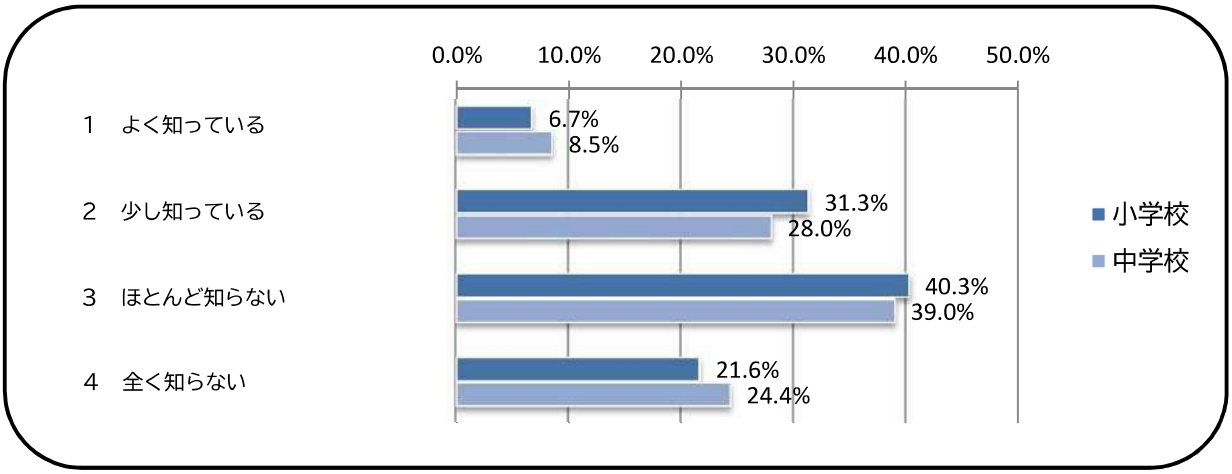
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校案内などの冊子	70	12.9%	41	12.5%	29	13.6%
2　学校の特色や様子がわかる学校説明会	102	18.8%	63	19.2%	39	18.2%
3　学校のホームページ	114	21.0%	72	22.0%	42	19.6%
4　学校の見学	117	21.6%	67	20.4%	50	23.4%
5　友人、知人からの情報	118	21.8%	71	21.7%	47	22.0%
6　学校が行ったアンケートなどの情報	14	2.6%	9	2.7%	5	2.3%
7　その他	7	1.3%	5	1.5%	2	0.9%
合　　計	542	100.0%	328	100.0%	214	100.0%



～その他の主な意見～
・学校通信など、教育方針がわかる資料。
・在学生や保護者の声、アンケートなど。
・自宅からの距離。

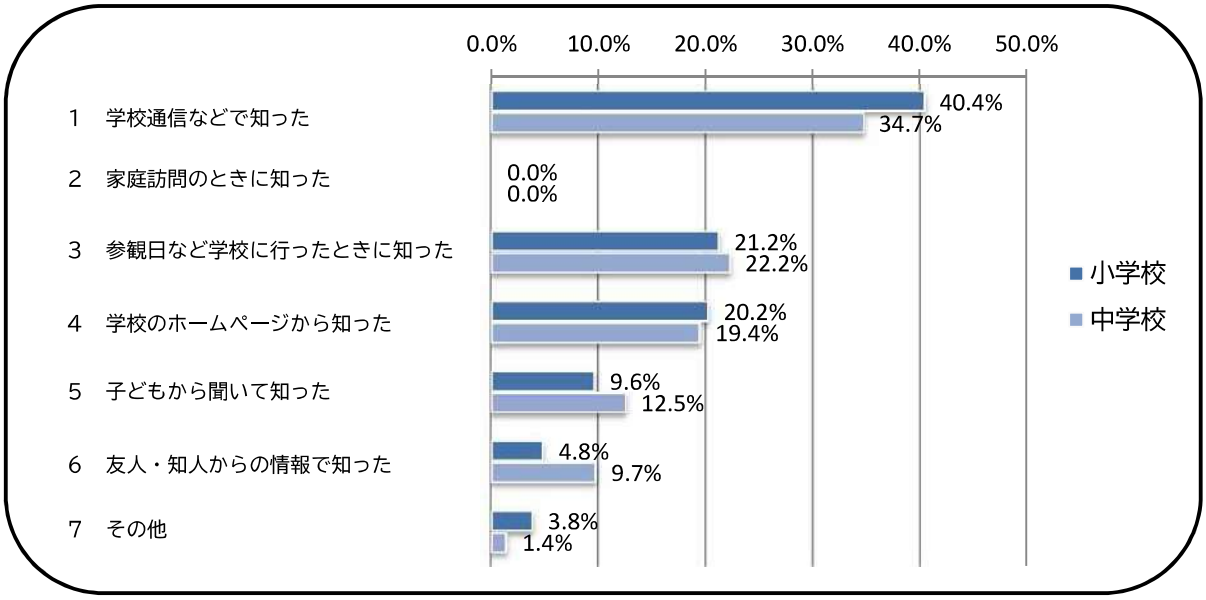
問１９ 各小中学校では、「顔づくり事業」をはじめ、魅力づくり・特色づくりに取り組んでいますが、今通っている学校ではどのような魅力づくりや特色づくり活動を行っているか知っていますか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　よく知っている	16	7.4%	9	6.7%	7	8.5%
2　少し知っている	65	30.1%	42	31.3%	23	28.0%
3　ほとんど知らない	86	39.8%	54	40.3%	32	39.0%
4　全く知らない	49	22.7%	29	21.6%	20	24.4%
合　　計	216	100.0%	134	100.0%	82	100.0%



問２０ 問１９で「よく知っている」「少し知っている」と回答した方に伺います。
（１）どのような手段で、そのことを知りましたか。（複数回答可）

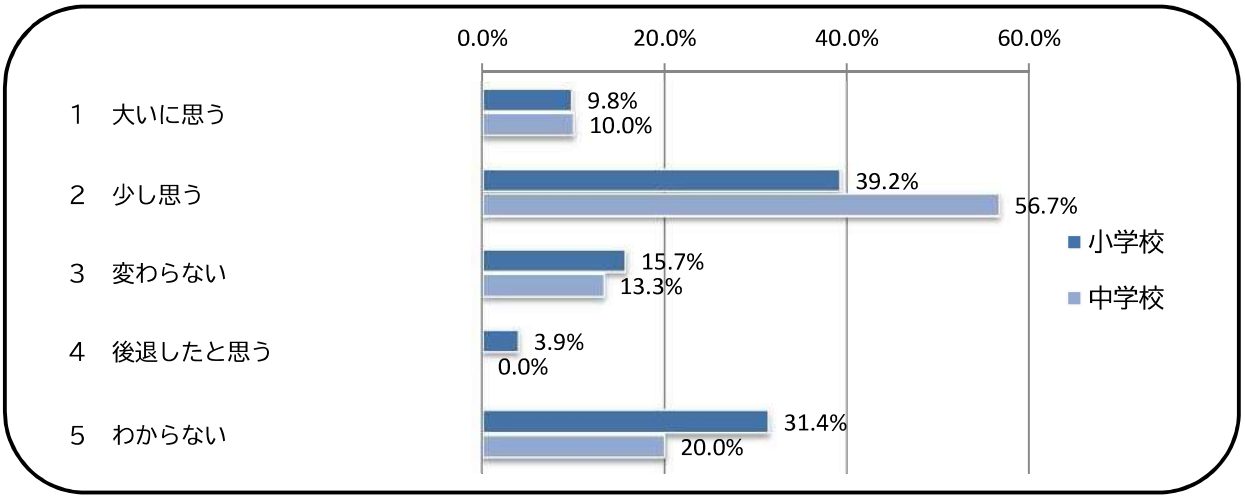
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校通信などで知った	67	38.1%	42	40.4%	25	34.7%
2　家庭訪問のときに知った	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3　参観日など学校に行ったときに知った	38	21.6%	22	21.2%	16	22.2%
4　学校のホームページから知った	35	19.9%	21	20.2%	14	19.4%
5　子どもから聞いて知った	19	10.8%	10	9.6%	9	12.5%
6　友人・知人からの情報で知った	12	6.8%	5	4.8%	7	9.7%
7　その他	5	2.8%	4	3.8%	1	1.4%
合　　計	176	100.0%	104	100.0%	72	100.0%



～その他～
・学級便りで知った。
・ＰＴＡの学校の魅力ＰＲ隊を務めて知った。
・地域の回覧版で知った。
・子どもの部活動を通じて知った。

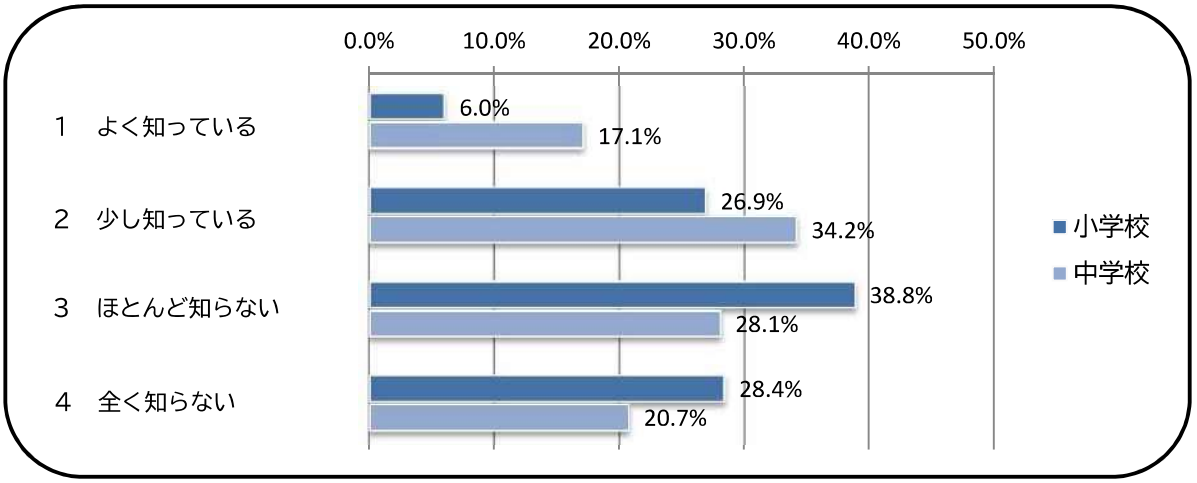
（２）学校選択制により、学校の魅力づくり・特色づくり活動は以前より進んだと思いますか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　大いに思う	8	9.9%	5	9.8%	3	10.0%
2　少し思う	37	45.7%	20	39.2%	17	56.7%
3　変わらない	12	14.8%	8	15.7%	4	13.3%
4　後退したと思う	2	2.5%	2	3.9%	0	0.0%
5　わからない	22	27.2%	16	31.4%	6	20.0%
合　　計	81	100.0%	51	100.0%	30	100.0%



問２１　学校選択制とは別に、やむを得ない理由（在学中に転居し指定校が変わったが従前の学校を希望する場合、指定校への就学が精神的に負担となる場合など）があれば、許可を受け校区外の学校へ通学できる制度（区域外通学制度）があることを知っていますか。

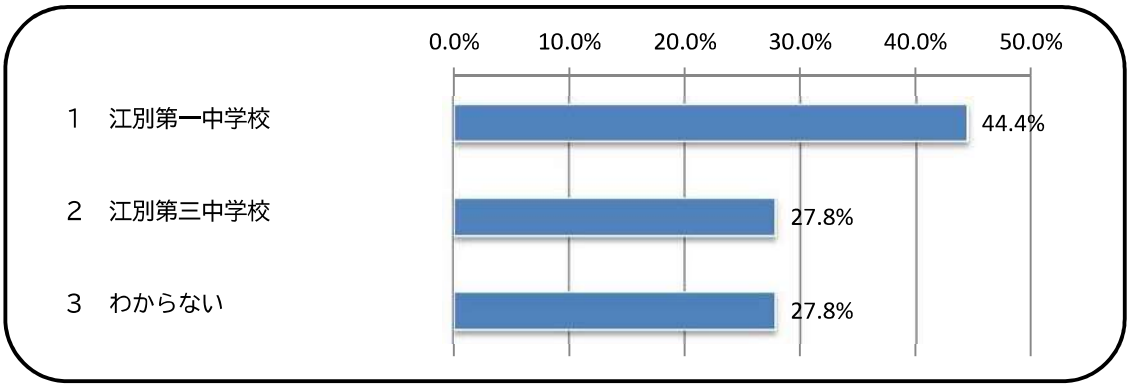
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　よく知っている	22	10.2%	8	6.0%	14	17.1%
2　少し知っている	64	29.6%	36	26.9%	28	34.2%
3　ほとんど知らない	75	34.7%	52	38.8%	23	28.1%
4　全く知らない	55	25.5%	38	28.4%	17	20.7%
合　　計	216	100.0%	134	100.0%	82	100.0%



【分散進学に関する設問　問２２～２５】　※江別第一小学校の児童の保護者にのみ伺います。

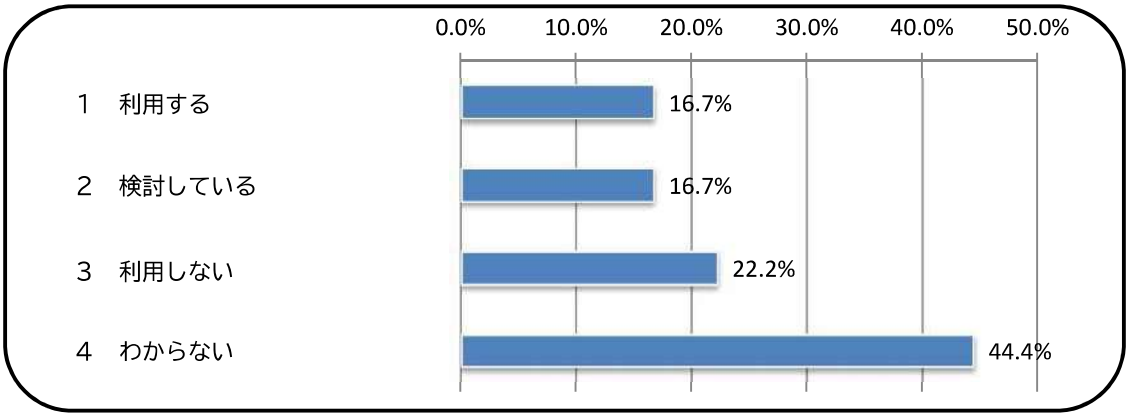
問２２　江別市内で唯一、進学先の中学校が複数に分かれている現状があります。
現在の通学区域における進学先を選択してください。

区分	人数	割合
1　江別第一中学校	8	44.4%
2　江別第三中学校	5	27.8%
3　わからない	5	27.8%
合　　計	18	100.0%



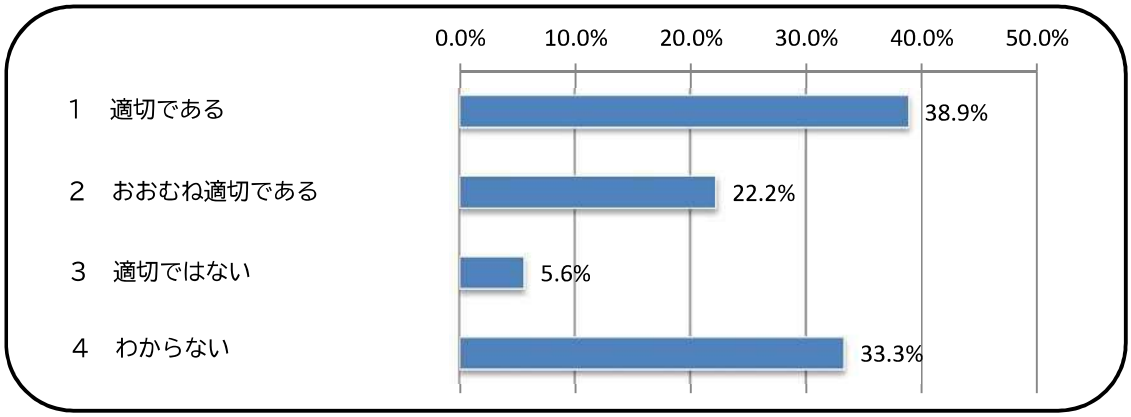
問２３ 中学校進学時に学校選択制を利用する予定はありますか。

区分	人数	割合
1　利用する	3	16.7%
2　検討している	3	16.7%
3　利用しない	4	22.2%
4　わからない	8	44.4%
合　　計	18	100.0%



問２４ 現状の中学校の通学区域について、どのように思いますか。

区分	人数	割合
1　適切である	7	38.9%
2　おおむね適切である	4	22.2%
3　適切ではない	1	5.6%
4　わからない	6	33.3%
合　　計	18	100.0%



問２５ 問２４で回答を選択した理由を教えてください。

～適切である、おおむね適切である～
・同じ町内で校区が分かれているため、統一してもよいのではないかと思うものの、選択制を利用できることで、申請の手間はあるものの、あまり不便とは感じていません。

～適切ではない～
・交通費の補助について検討すべきである。

問２６ 学校選択制に関するご意見、ご要望等ございましたら、自由に入力してください。（自由記載）

～主な意見～
・学校選択制があることで、とても助かった。
・子どもたちの選択肢を増やすために、このまま継続してほしい。
・子どもが自分の意志で決めることができてよい。
・子どもが行きたい学校へ行けるよう制度を整えてほしい。
・子どもが保育園や幼稚園に在籍している時から、積極的な情報発信をしてほしい。
・選択できる学校の範囲を広げてほしい。
・選択時に通学手段が懸念点となるため、市内に周遊バスや子育てタクシーを設置してほしい。
・学校選択制を利用する場合、自転車通学を認めてほしい。
・実際に入学してからでないと、学校の雰囲気などは分からない。

以下、全回答内容

1	この制度があって本当に助かりました。
2	やむを得ない事情という範囲をもう少し柔軟に話を聞いて対応していただける、子どものことを最優先で対応していただけるとありがたいです。
3	子どもが自分の意志で学校を選択し、自ら決めた環境で学ぶというプロセスが、充実した学校生活に繋がったと感じます。この制度のおかげで納得感のある進路選択ができたことに感謝しています。
4	現在の小学校を卒業すると、継続した小中一貫教育ではない中学校のほうが近いため、そちらへ入学を考えているが、既にある友人グループに馴染むことができるか心配しています。 校区外の小学校へ通学しているが、毎日の送迎が大変です。通学支援をしてくださる制度があると助かります。もしくは、タクシー会社等に協力してもらって、子育てタクシーのようなものを作ってほしいです。共働き世帯が多く、需要があると思います。子どもコミュニケーション講座を受けた、江別市が認める子育てタクシーライセンスがある運転手だと、安心して利用することができます。
5	申請受付期間が１０月末頃までだと記憶しており、我が家は学校選択制を申請していましたが、卒業までの間に、友人とのトラブル等から不登校になり、卒業式にも出席することができませんでした。そのため、学校選択制を利用していて本当によかったと思いました。しかし、そういった事態は予測できないため、申請していない場合にも急遽変更できたらよいのにと思いました。
6	江別市外の学校も選択できるとよい。
7	個別の事情に合わせて学校を選択できるのがよい。
8	子どもが自由に選択できるような制度であると選択肢が広がり、子どもたちが自分の好きなことを見つけられると思います。
9	自分で選択する余地があることで、自分の将来について考え、意思を持って行動し、自分で責任をもつように成長したため、我が家にとってはよかったと思います。
10	ある程度、自由に選べるようになってほしい。
11	小中一貫教育を進めるならば、なおさら校区そのものの見直しが必要だと思います。
12	少子化と部活動数の減少が、ますます子どもたちの学校生活に影響してくると思っています。なりたい自分を目指すことや、目標に向けて活動したいと考える子どもたちのために、行きたい学校を選べる学校選択制は、今後も必要な制度だと感じています。
13	制限付きで選択肢が増えることはよいと思います。無制限に自由にすると大変ですが…。区域外通学制度はよい制度だと思いました。
14	学校での過ごし方だけでなく、学校外の生活、つまり放課後や児童クラブの利用の問題、土日の過ごし方も学校選択制が大きく影響することを情報として発信したほうがよいと思います。親は学校の様子に関するメリットばかりを考えてしまいますが、子どもの生活は学校だけではないことも考えたうえで、学校選択制を利用するようにするべきだと９年間を通して感じました。
15	学校選択制について、保育園や幼稚園の年少時からこのような制度があると積極的な情報発信があるとよい。その際には、利用した保護者(や児童生徒)の感想や意見、メリット・デメリットみたいな声があると、親も踏み込んで検討ができるかなと思いました。特に問題は抱えてなくても、園での友人関係によって、校区内か校区外か悩まれる方も多いと思います。皆さん後悔はしたくないですし、制度自体がある事に気づかなかった方もいると思いますし、聞ける知り合いが居ない方もいるため、周知の現状がわからず書いてしまっており恐縮ですが、そのような事を思いました。

16	近所の方から校区の中学校が遠いと聞いていたため、学校選択制が利用できて、とても感謝しています。ありがとうございました。
17	子どもたちの可能性を広げていくためにも、制度は残してあげたほうがよいと思います。
18	我が家は学校選択制があることで、江別市に転入してきました。いろいろな事情のある子や部活動で頑張りたい子にとって、学校を選択できることはよいことです。学校選択制は江別市の魅力でもあると思いますので、このまま継続してほしいと思います。
19	なにより子どもが楽しく通えることが大事だと思います。大人にはわからない子どもの世界があり、環境を変えたい子にはよい制度だと思います。部活動や自分に合った学校を選択できたのがありがたいですし、感謝しています。
20	子どもでも精神的な問題で学校へ行けない人もいる時代なので、自分が行きたい学校へ行ければよいと思います。
21	今後も継続したほうがよいと思います。
22	いつも子どもたちのために、色々と動いていただきありがとうございます。 学校選択制があることで、通いたい学校に通うことができて本当によかったです。子どもたちも、この制度のことを理解しており、現在の学校に通えてよかったと言っております。これからも未来の子どもたちのために、本制度を活用して、みんなが楽しく通えることを願っております。
23	選択できることはとてもよいが、やはり通学が大変になる。それを覚悟しての選択であろうが、子どもも親の負担も増えるため、可能であれば市内を周遊するバス等があると助かる人はかなり多いと思う。
24	特定の中学校の部活動が強いという理由で、その中学校に生徒が集中する現象が数年前は多数あったと思います。隣接校方式のため、大麻中や江陽中など市の端に位置する場合は選択できる学校数が少なく、中心部に近い学校ほど選択肢が多くなり、羨ましかったです。 隣接校以外に通いたい場合、親戚の住所に住民票を異動させる人がいたため、市内どこでも選択できるようにしてあげてもよいのではと思ったことがあります。もちろん、通学方法など保護者が責任をとれる家庭に限りますが。
25	指定校が遠く、同じ保育園から入学する友人もおらず、学校選択制を利用しましたが、入学してからでないとわかりにくい学校の雰囲気や規模感なども自分の子どもには合っており、利用してよかったと感じています。
26	学校選択制があって本当によかったです。どの小学校から進学する子の割合が多いかによって、中学校の雰囲気は変わると感じています。自由で元気な子が多い学校がよいと感じる子もいれば、落ち着いた静かな環境の学校がよいと感じる子もいます。選択肢は多いほどよいと思う。 現在、同じ学年に何人か不登校や休みがちな子がいるが、新学年や新学期から他の中学に編入も可能であれば、また学校に行けるようになる子もいるのではないかと思う。一度ついたイメージやキャラを覆すのは難しいが、新しい環境なら、もう一度やり直しができる子もいると思う。大人も会社において、異動願いを出すことができるのだから、子どもたちにも環境を変え、再出発するチャンスを与えてあげてほしい。
27	自転車通学を認めてほしいです。
28	学校選択制はとてもよい制度だと思います。私の経験としてですが、子どもを産み、家を建てるときにはこの制度を知りませんでした。なるべく小学校の近くに建てたにもかかわらず、入学前に選択できることを知り、結果として、選択した小学校から距離があったことから、もっと前から知ることができたらよかったなと思いました。中学校も同様に、友人と一緒に通うために校区外を選択することになったため、このときも早めに知れていたらと思いました。
29	学校選択制によって通学距離が遠くなった場合、自転車通学をできるよう検討してほしい。
30	学校選択ができてよかったです。通学路に関して、毎年除雪できていない箇所があり心配しています。上江別地区の踏切付近は、学区の境目ですが通学路として利用している児童生徒が何名もいるので除雪して頂きたいです。通学路だということを周知いただきたいです。
31	子どもが歩いて通える範囲の学校が基本だと思います。
32	小学校で校区外の学校を選択した場合、小中一貫教育の関係で選択した学校の進学先の中学校へ通えるのか気になりますので、明確なアナウンスが欲しいです。
33	学校選択制はこのまま残してほしいです。そして、小中学校の入学前に色々な学校に見学に行ける一斉公開日もぜひこのまま続けてほしいです。
34	野幌若葉小学校は宅地造成の関係で、学校選択の受入人数に影響があるのか気になりました。小中学校のうちは、どの学校のレベルが高いなどは、さほど気にしなくてもよいと考えております。いつも大変な中、親子が快適に学校へ通えるよう尽力いただき感謝しています。
35	不登校になったとき、別の学校に転校できるようにしてほしい。

36	もし子どもが学校でいじめに遭い、心身の不調をきたしたり、学校へ行けなくなったりした場合、通学する学校を変える必要があると思います。教職員でいじめに対応するのは限界がありますし、解決を待つと被害を受けている子どもの学習が保障されません。子どもが学び続けられる仕組みを作ってください。
37	学校選択制によって希望する学校に行けてよかった。
38	隣接校以外にも通えるようにしてほしい。やりたい部活動ができないことは子どもの将来を狭めることにつながり、かわいそうである。
39	この制度があることで、とても助かりました。
40	学校選択制があることは、我が家にとって非常によいことだと考えています。もし、選択制がなければ引っ越し等も検討していたかもしれません。
41	とてもよい制度だと思いますので頑張ってください。
42	我が家のような理由がある家庭の場合、この制度があることで大変助かりました。
43	学校選択制をさらに広げ、利用しやすくしてほしいです。選択時の懸念材料として、学校選択制の利用人数が少なく、校区外から登校してる児童生徒が浮くことが挙げられます。日本の国民性として、少数派を特別視する傾向があると思います。若年層は特に、仲間外れやいじめに繋がりやすいこともあり、少し懸念しました。我が子の場合、保育園時代の友人がいたため、その懸念は緩和されましたが、選択制を利用してる児童生徒がもっといて、校区内外の違和感が減ってくれると安心します。 また、親の職場の関係で、電車通学しているご家族がいるようですので、不可能ではないと思います。都内の私立学校では、電車通学などもありますので、範囲が広がれば狭い江別市内でも個人に合った学校が選べたり、家族環境にあった選び方ができると思います。
44	学校選択制を利用する前に、選択できる学校での説明会を実施してほしい。情報が少ないまま、決めなければならないという現状がある。小学校の先生も学校選択制について、あまり情報を持っていなかった。

令和5年度以降に学校選択制を利用せずに入学した児童生徒の保護者に対するアンケート調査結果

令和８年２月実施

【アンケートの内容について】
○目的
　学校選択制の課題や問題点を整理し、今後の制度の在り方について検証する（前回令和３年）。
○調査対象
　令和５年度以降に学校選択制を利用せずに入学した児童生徒の保護者１，１００名
○回答者数
　４４８名（全体の４０．７%）

問１　（１）お子さんの現在通っている学校はどちらですか。

区分	人数	割合
小学校	353	78.8%
中学校	95	21.2%
合計	448	100.0%

（２）問１で中学校を選択した方へ伺います。
　　お子さんが通っていた出身小学校を選択してください。

学校名	人数	割合
江別第一小学校	5	5.3%
江別第二小学校	7	7.4%
豊幌小学校	0	0.0%
江別太小学校	6	6.3%
大麻小学校	2	2.1%
対雁小学校	10	10.5%
野幌小学校	1	1.1%
東野幌小学校	15	15.8%
大麻東小学校	6	6.3%
大麻西小学校	6	6.3%
中央小学校	6	6.3%
大麻泉小学校	4	4.2%
野幌若葉小学校	9	9.5%
北光小学校	2	2.1%
文京台小学校	4	4.2%
いずみ野小学校	3	3.2%
上江別小学校	9	9.5%
合計	95	100.0%

問２　お子さんは何年生ですか。（複数回答可）

区分	学年	人数	割合（区分別）	割合(全体)
小学校	１年生	76	16.8%	13.1%
	２年生	78	17.2%	13.4%
	３年生	58	12.8%	10.0%
	４年生	81	17.9%	13.9%
	５年生	84	18.5%	14.4%
	６年生	76	16.8%	13.1%
	小計	453	100.0%	77.8%
中学校	１年生	47	36.4%	8.1%
	２年生	40	31.0%	6.9%
	３年生	42	32.6%	7.2%
	小計	129	100.0%	22.2%
合計		582	-	100.0%

問３　あなたの年齢はどの区分に該当しますか。

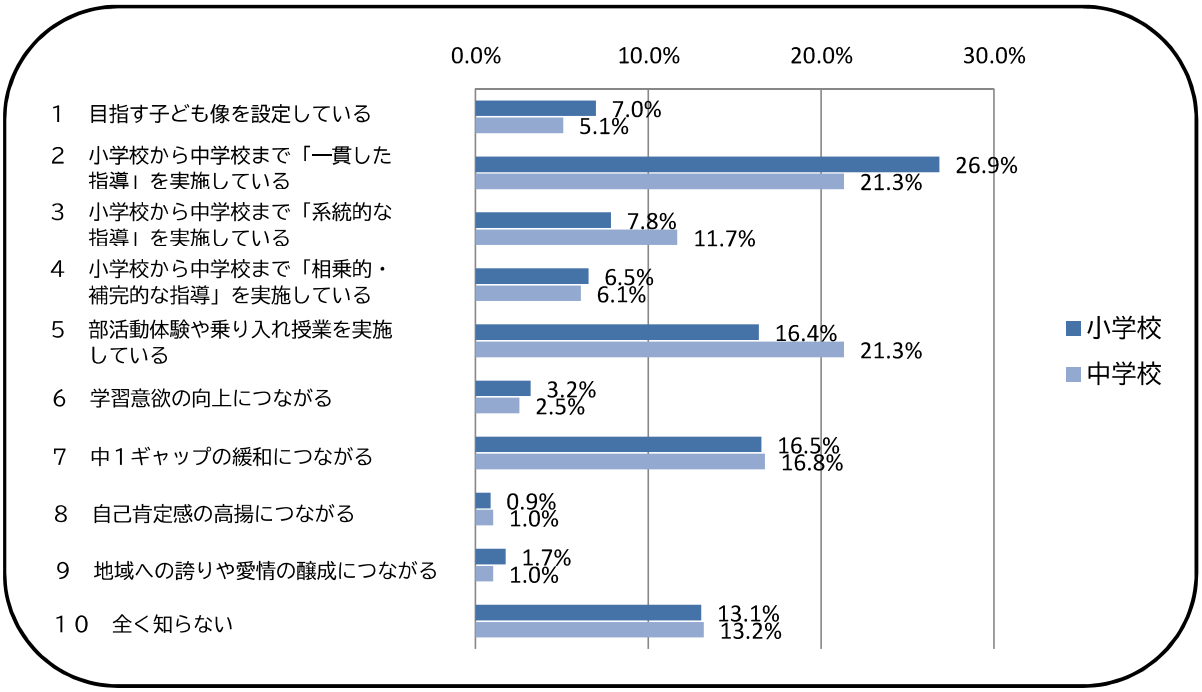
区分	人数	割合(全体)
２９歳以下	6	1.3%
３０～３９歳	135	30.1%
４０～４９歳	241	53.8%
５０～５９歳	62	13.8%
６０歳以上	4	0.9%
合計	448	100.0%

問４　お住まいの地区はどちらですか。

区分	人数	割合
江別地区	183	40.9%
野幌地区	160	35.7%
大麻地区	105	23.4%
合計	448	100.0%

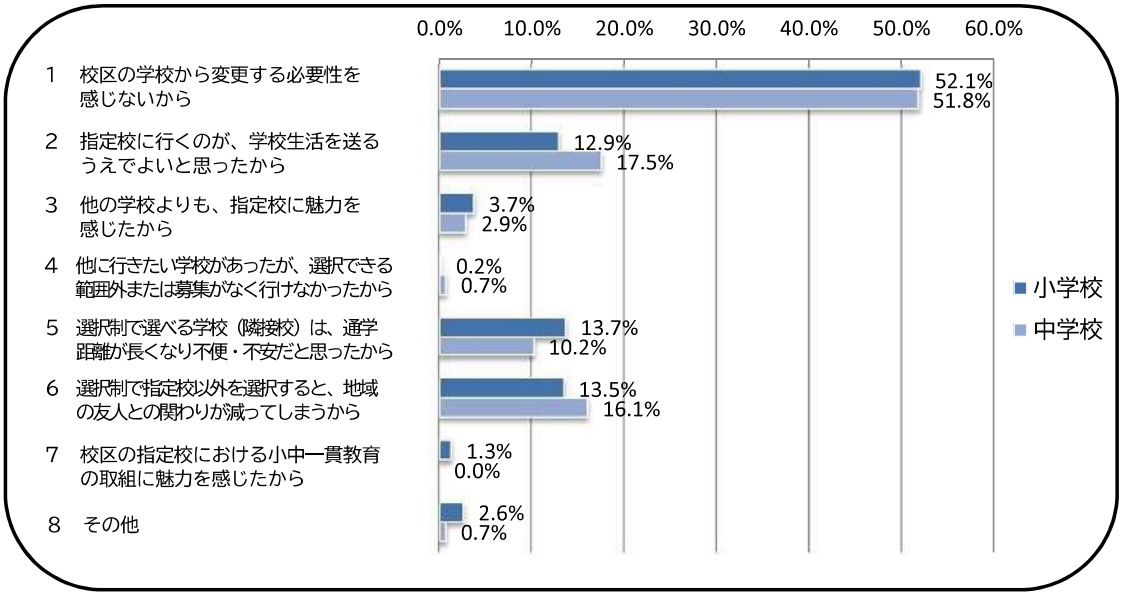
問５　令和５年度から市内全小中学校に導入した「小中一貫教育」について、知っている取組や効果を選択してください。（複数回答可）

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　目指す子ども像を設定している	58	6.6%	48	7.0%	10	5.1%
2　小学校から中学校まで「一貫した指導」を実施している	227	25.6%	185	26.9%	42	21.3%
3　小学校から中学校まで「系統的な指導」を実施している	77	8.7%	54	7.8%	23	11.7%
4　小学校から中学校まで「相乗的・補完的な指導」を実施している	57	6.4%	45	6.5%	12	6.1%
5　部活動体験や乗り入れ授業を実施している	155	17.5%	113	16.4%	42	21.3%
6　学習意欲の向上につながる	27	3.1%	22	3.2%	5	2.5%
7　中１ギャップの緩和につながる	147	16.6%	114	16.5%	33	16.8%
8　自己肯定感の高揚につながる	8	0.9%	6	0.9%	2	1.0%
9　地域への誇りや愛情の醸成につながる	14	1.6%	12	1.7%	2	1.0%
１０　全く知らない	116	13.1%	90	13.1%	26	13.2%
合　　計	886	100.0%	689	100.0%	197	100.0%



問６　学校選択制を利用しなかった理由を教えてください。（複数回答可）

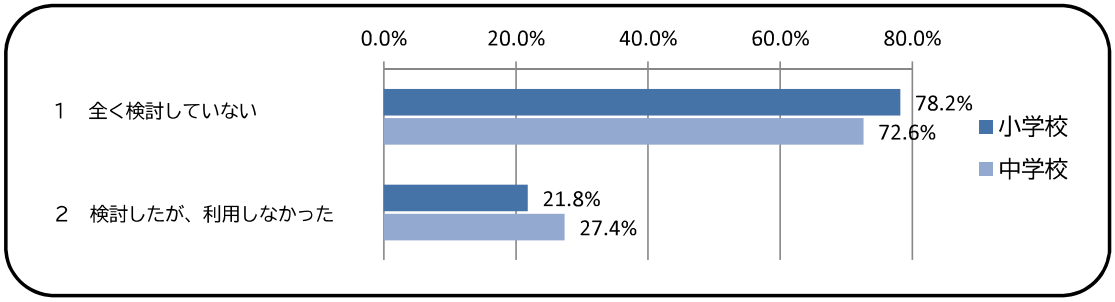
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　校区の学校から変更する必要性を感じないから	349	52.0%	278	52.1%	71	51.8%
2　指定校に行くのが、学校生活を送るうえでよいと思ったから	93	13.9%	69	12.9%	24	17.5%
3　他の学校よりも、指定校に魅力を感じたから	24	3.6%	20	3.7%	4	2.9%
4　他に行きたい学校があったが、選択できる範囲外、または募集がなく行けなかったから	2	0.3%	1	0.2%	1	0.7%
5　選択制で選べる学校（隣接校）は、通学距離が長くなり不便・不安だと思ったから	87	13.0%	73	13.7%	14	10.2%
6　選択制で指定校以外を選択すると、地域の友人との関わりが減ってしまうから	94	14.0%	72	13.5%	22	16.1%
7　校区の指定校における小中一貫教育の取組に魅力を感じたから	7	1.0%	7	1.3%	0	0.0%
8　その他	15	2.2%	14	2.6%	1	0.7%
合　　計	671	100.0%	534	100.0%	137	100.0%



～その他の主な意見～
・特認校（野幌小学校）へ入学することを決めていたため。
・本人から希望がなかったため。
・制度を知らなかったため。
・仲のよい友人が校区の学校へ行くため。
・校区の学校の近くに放課後児童クラブがあるため。
・通級がある学校へ通いたく、通級のある学校の地域へ転入したため。

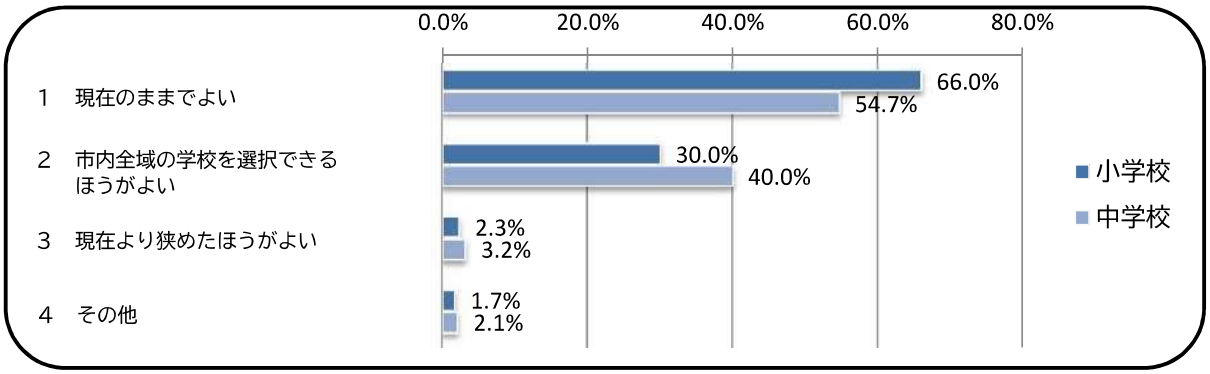
問７　学校選択制の利用を検討しましたか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　全く検討していない	345	77.0%	276	78.2%	69	72.6%
2　検討したが、利用しなかった	103	23.0%	77	21.8%	26	27.4%
合　　計	448	100.0%	353	100.0%	95	100.0%



問８　江別市では、選択できる学校の範囲として、通学時の安全面や地域との連携の観点等から、校区と隣接する地域の学校（隣接校方式）としていますが、この方式をどう思いますか。

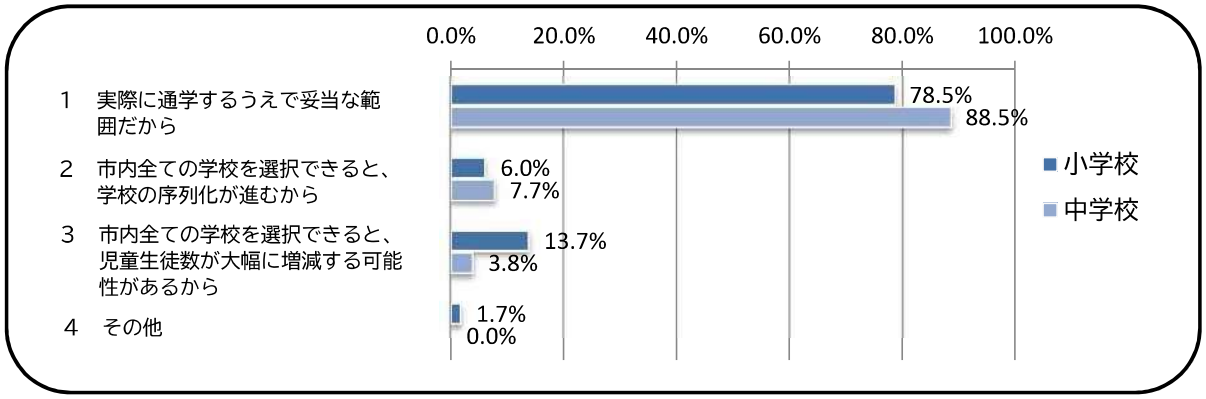
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　現在のままでよい	285	63.6%	233	66.0%	52	54.7%
2　市内全域の学校を選択できるほうがよい	144	32.1%	106	30.0%	38	40.0%
3　現在より狭めたほうがよい	11	2.5%	8	2.3%	3	3.2%
4　その他	8	1.8%	6	1.7%	2	2.1%
合　　計	448	100.0%	353	100.0%	95	100.0%



※その他･･･意見なし

問９　問８で「現在のままでよい」と回答した方に伺います。
「現在のままでよい」と思う理由を選択してください。

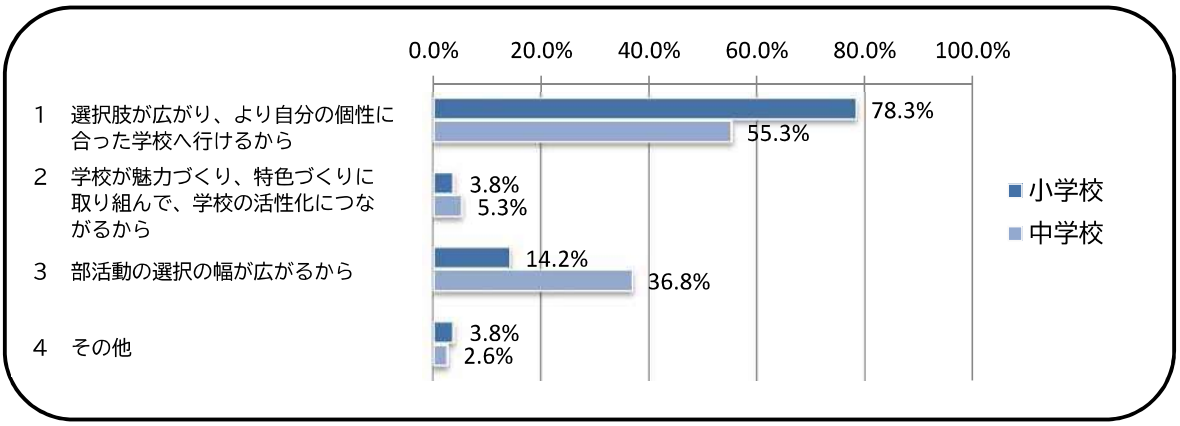
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　実際に通学するうえで妥当な範囲だから	229	80.4%	183	78.5%	46	88.5%
2　市内全ての学校を選択できると、学校の序列化が進むから	18	6.3%	14	6.0%	4	7.7%
3　市内全ての学校を選択できると、児童生徒数が大幅に増減する可能性があるから	34	11.9%	32	13.7%	2	3.8%
4　その他	4	1.4%	4	1.7%	0	0.0%
合　　計	285	100.0%	233	100.0%	52	100.0%



～その他の主な意見～
・学校選択制を利用する予定がないため。
・通学時間や手段も子どもたちにとっては大切な学びであると考える。保護者の送迎なしでは通えないという状況は好ましくないと考えるため。
・子どもが安心・安全に通学できるかどうかは、家庭環境や発達の差にもより、通ってからでなければ分からないこともあるため。選択後のフォローを強化した方が現実的である。

問１０ 問８で「市内全域の学校を選択できるほうがよい」と回答した方に伺います。
「市内全域の学校を選択できるほうがよい」と思う理由を選択してください。

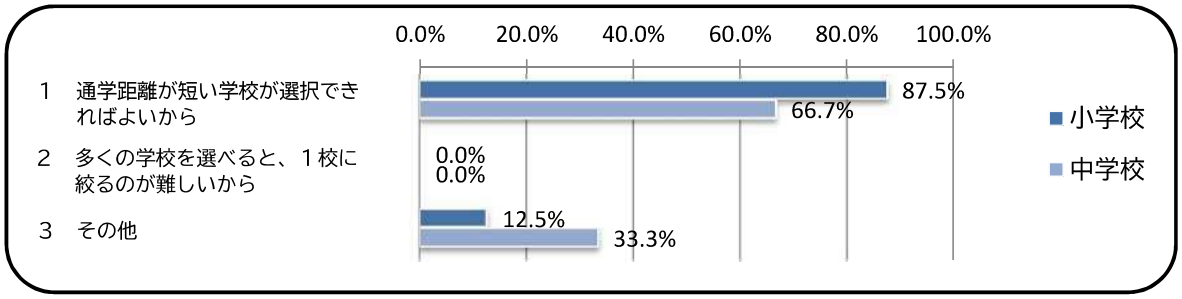
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　選択肢が広がり、より自分の個性に合った学校へ行けるから	104	72.2%	83	78.3%	21	55.3%
2　学校が魅力づくり、特色づくりに取り組んで、学校の活性化につながるから	6	4.2%	4	3.8%	2	5.3%
3　部活動の選択の幅が広がるから	29	20.1%	15	14.2%	14	36.8%
4　その他	5	3.5%	4	3.8%	1	2.6%
合　　計	144	100.0%	106	100.0%	38	100.0%



～その他の主な意見～
・いじめ等があった場合は、遠くの学校を選択したいと考えるため。
・いずれ引越しする場合には、現在住んでいなくても選択できると助かるため。
・どの学校を選んだとしても色濃く特色がある訳でもないと思うので、選択肢は広い方が選ぶ子どもや親にとってもよいと思う。
・全く知らない環境で、ゼロからスタートしたい子もいると思うため。

問１１ 問８で「現在より狭めたほうがよい」と回答した方に伺います。
「現在より狭めたほうがよい」と思う理由を選択してください。

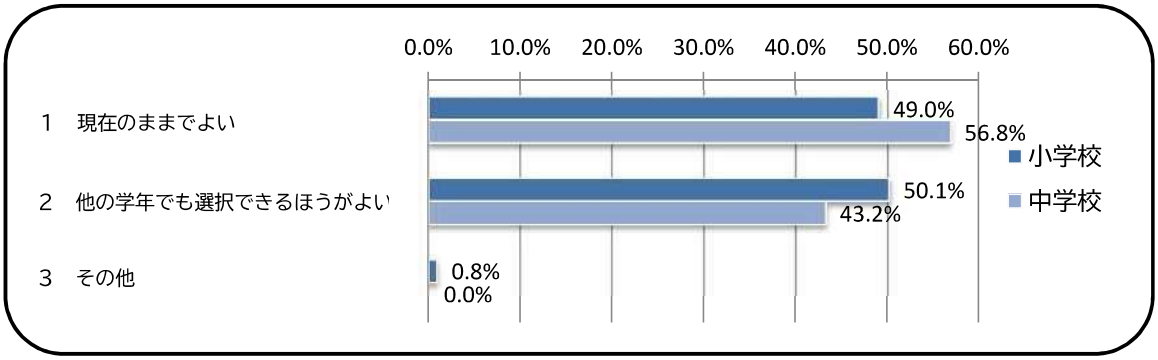
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　通学距離が短い学校が選択できればよいから	9	81.8%	7	87.5%	2	66.7%
2　多くの学校を選べると、１校に絞るのが難しいから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3　その他	2	18.2%	1	12.5%	1	33.3%
合　　計	11	100.0%	8	100.0%	3	100.0%



～その他の主な意見～
・学校選択制と特認校のバランスが保たれていないと思うため。
・いじめ等での学校選択は致し方ないと思うが、スポーツ＝中央中という理由はなし。

問１２ 現在、学校選択制を利用できる学年は、毎年のクラス編成等の学年運営の関係から、小学校または中学校に入学する新１年生、あるいは市外からの転入時のみとしていますが、選択できる学年についてどう思いますか。

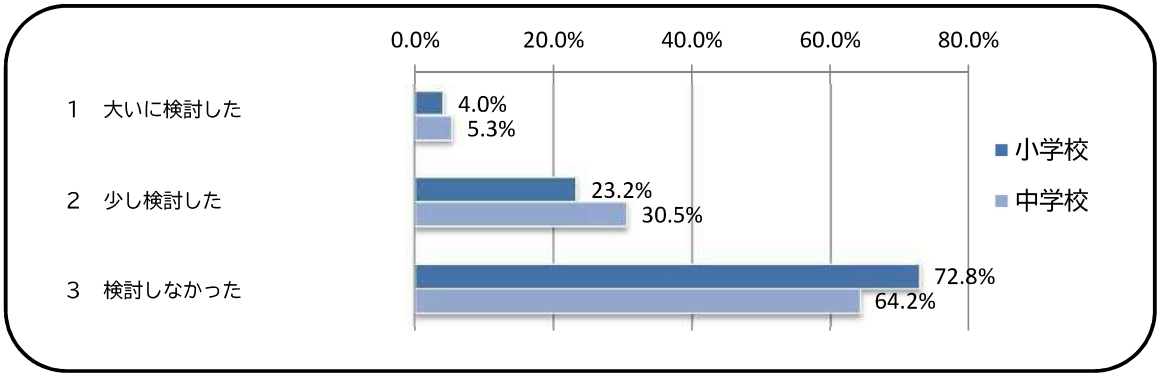
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　現在のままでよい	227	50.7%	173	49.0%	54	56.8%
2　他の学年でも選択できるほうがよい	218	48.7%	177	50.1%	41	43.2%
3　その他	3	0.7%	3	0.8%	0	0.0%
合　　計	448	100.0%	353	100.0%	95	100.0%



～その他の主な意見～
・例外規定（いじめ等を理由とする転校）があるのであれば、現在のままでよい。

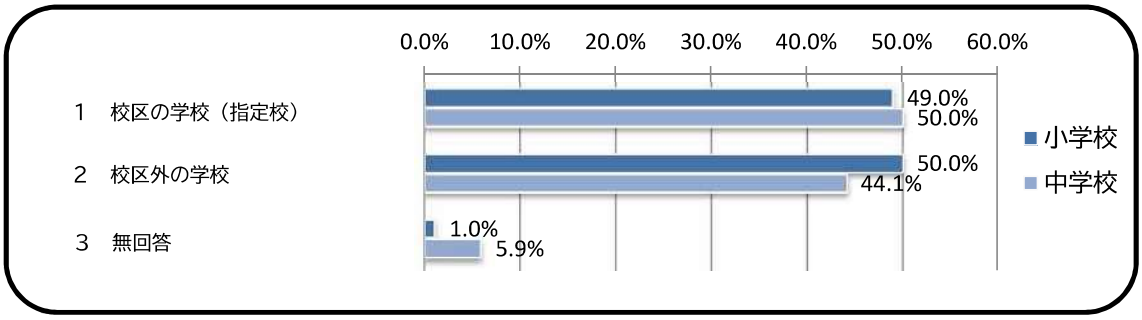
問１３ 入学前に校区内外を問わず学校に関心を持ち、その学校について検討してみたことがありますか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　大いに検討した	19	4.2%	14	4.0%	5	5.3%
2　少し検討した	111	24.8%	82	23.2%	29	30.5%
3　検討しなかった	318	71.0%	257	72.8%	61	64.2%
合　　計	448	100.0%	353	100.0%	95	100.0%



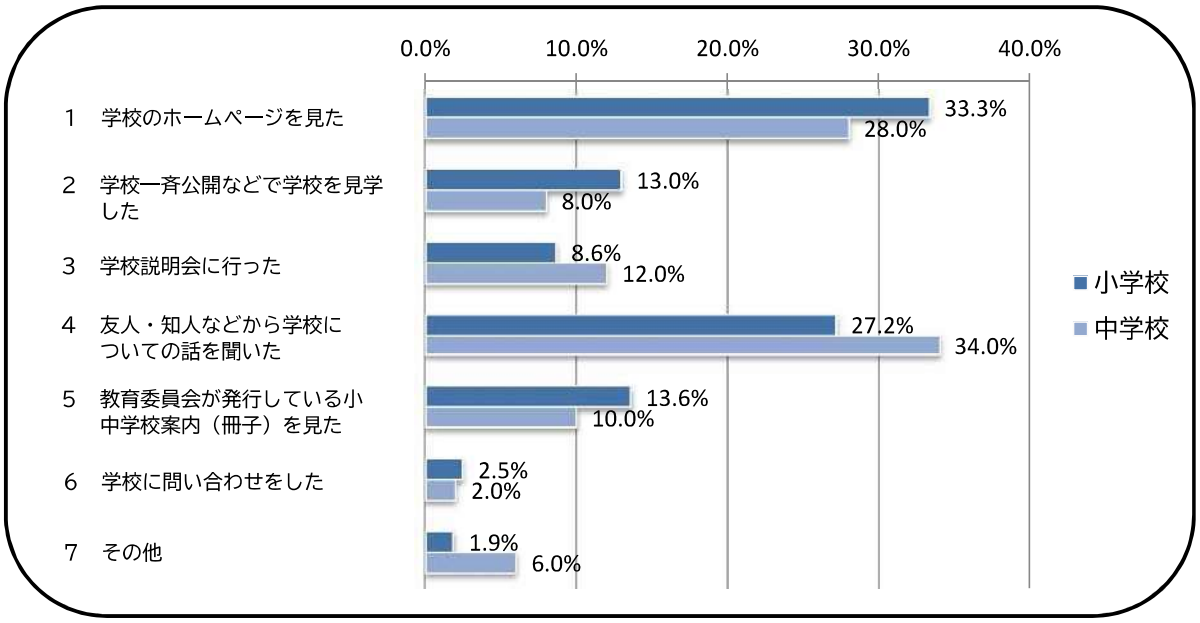
問１４ 問１３で「大いに検討した」「少し検討した」と回答した方に伺います。
（１）関心を持った学校はどの学校ですか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　校区の学校（指定校）	64	49.2%	47	49.0%	17	50.0%
2　校区外の学校	63	48.5%	48	50.0%	15	44.1%
3　無回答	3	2.3%	1	1.0%	2	5.9%
合　　計	130	100.0%	96	100.0%	34	100.0%



（２）具体的にどのようなことをしましたか。（複数回答可）

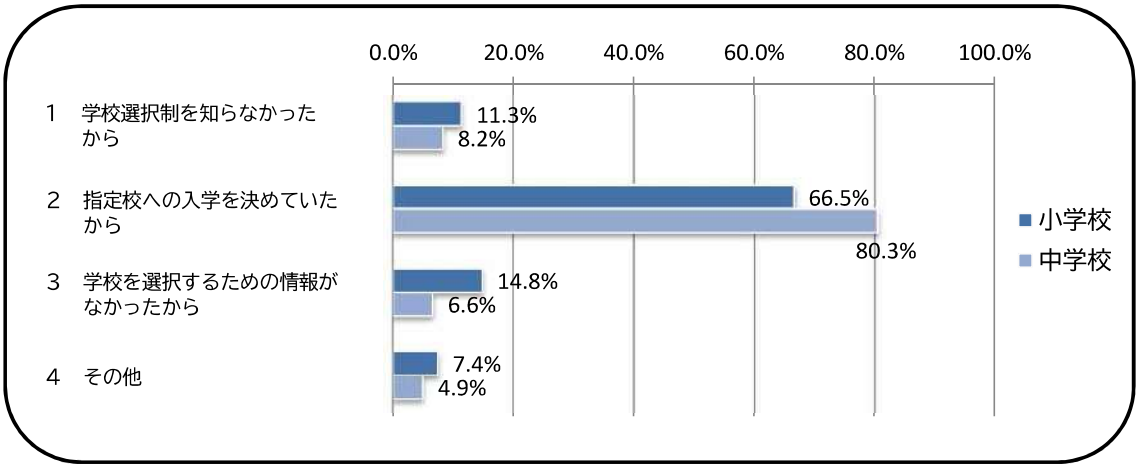
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校のホームページを見た	68	32.1%	54	33.3%	14	28.0%
2　学校一斉公開などで学校を見学した	25	11.8%	21	13.0%	4	8.0%
3　学校説明会に行った	20	9.4%	14	8.6%	6	12.0%
4　友人・知人などから学校についての話を聞いた	61	28.8%	44	27.2%	17	34.0%
5　教育委員会が発行している小中学校案内（冊子）を見た	27	12.7%	22	13.6%	5	10.0%
6　学校に問い合わせをした	5	2.4%	4	2.5%	1	2.0%
7　その他	6	2.8%	3	1.9%	3	6.0%
合　　計	212	100.0%	162	100.0%	50	100.0%



～その他の主な意見～
・特別支援学級の充実度を聞いた。
・知人から部活動の状況を聞いた。
・インターネット上の口コミを見た。
・部活動の見学へ行った。

問１５ 問１３で「検討しなかった」と回答した方に伺います。
小学校または中学校の入学先を決めるにあたり、検討をしなかった理由を選択してください。

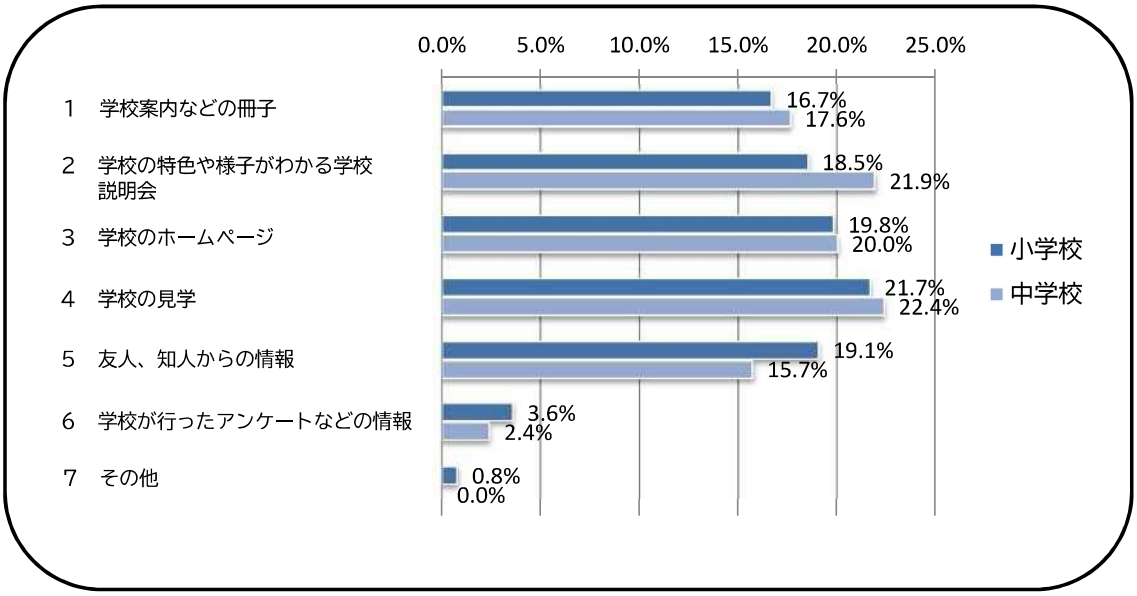
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校選択制を知らなかったから	34	10.7%	29	11.3%	5	8.2%
2　指定校への入学を決めていたから	220	69.2%	171	66.5%	49	80.3%
3　学校を選択するための情報がなかったから	42	13.2%	38	14.8%	4	6.6%
4　その他	22	6.9%	19	7.4%	3	4.9%
合　　計	318	100.0%	257	100.0%	61	100.0%



～その他の主な意見～
・市外からの転入時、市内に友人知人がおらず学校の事前情報が何もなかったため。
・どの学校でもいじめやトラブルは発生するため。
・どこを選択しても指定校より遠くなるため。
・公立小中学校の中で選択することによる環境変化に意味を感じないため。
・近所に住む子どもと同じ学校がよいと思ったため。
・私立中学校に興味があるため。
・学校ごとの違いがよく分からないため。

問１６ 学校の選択を検討する場合に、重要と思われる情報を選択してください。（複数回答可）

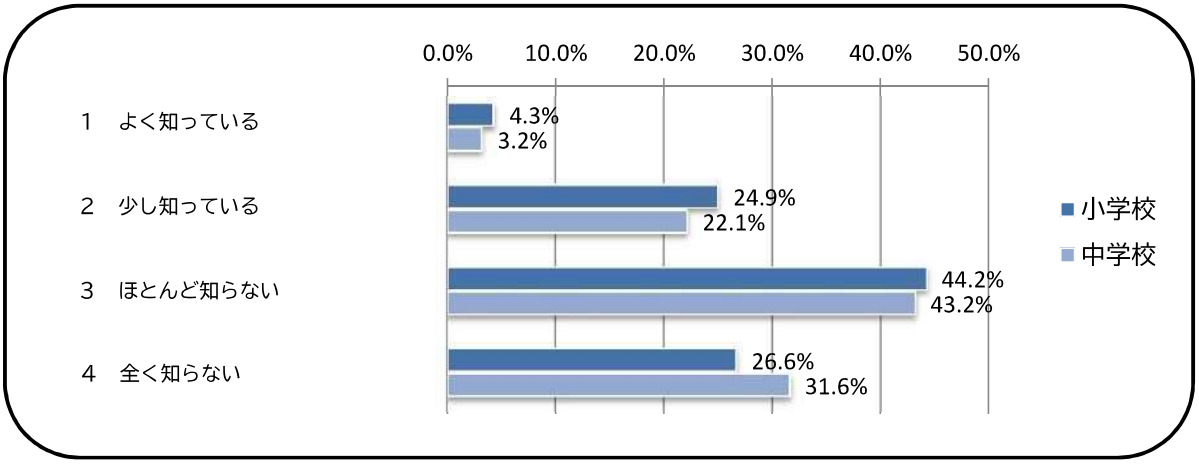
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校案内などの冊子	191	16.8%	154	16.7%	37	17.6%
2　学校の特色や様子がわかる学校説明会	217	19.1%	171	18.5%	46	21.9%
3　学校のホームページ	225	19.8%	183	19.8%	42	20.0%
4　学校の見学	247	21.8%	200	21.7%	47	22.4%
5　友人、知人からの情報	209	18.4%	176	19.1%	33	15.7%
6　学校が行ったアンケートなどの情報	38	3.4%	33	3.6%	5	2.4%
7　その他	7	0.6%	7	0.8%	0	0.0%
合　　計	1,134	100.0%	924	100.0%	210	100.0%



～その他の主な意見～
・全学校の特色がわかる一覧のような資料。
・いじめの件数、対応・対処の状況、公表されたかが分かるような資料。
・学校選択制の利用状況。
・希望する部活動の有無や大会成績。
・自宅からの距離。
・独自性があればカリキュラム内容、校舎設備。
・教職員の発達障害に関する知識や意識。

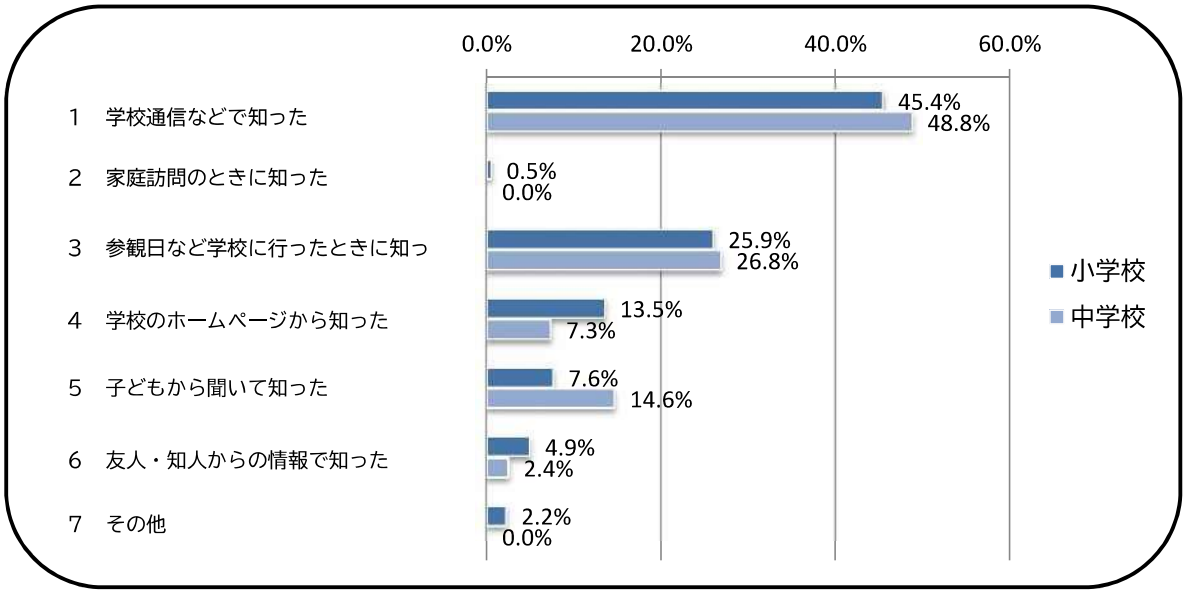
問１７ 各小中学校では、「顔づくり事業」をはじめ、魅力づくり・特色づくりに取り組んでいますが、今通っている学校ではどのような魅力づくりや特色づくり活動を行っているか知っていますか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　よく知っている	18	4.0%	15	4.3%	3	3.2%
2　少し知っている	109	24.3%	88	24.9%	21	22.1%
3　ほとんど知らない	197	44.0%	156	44.2%	41	43.2%
4　全く知らない	124	27.7%	94	26.6%	30	31.6%
合　　計	448	100.0%	353	100.0%	95	100.0%



問１８ 問１７で「よく知っている」「少し知っている」と回答した方に伺います。
（１）どのような手段で、そのことを知りましたか。（複数回答可）

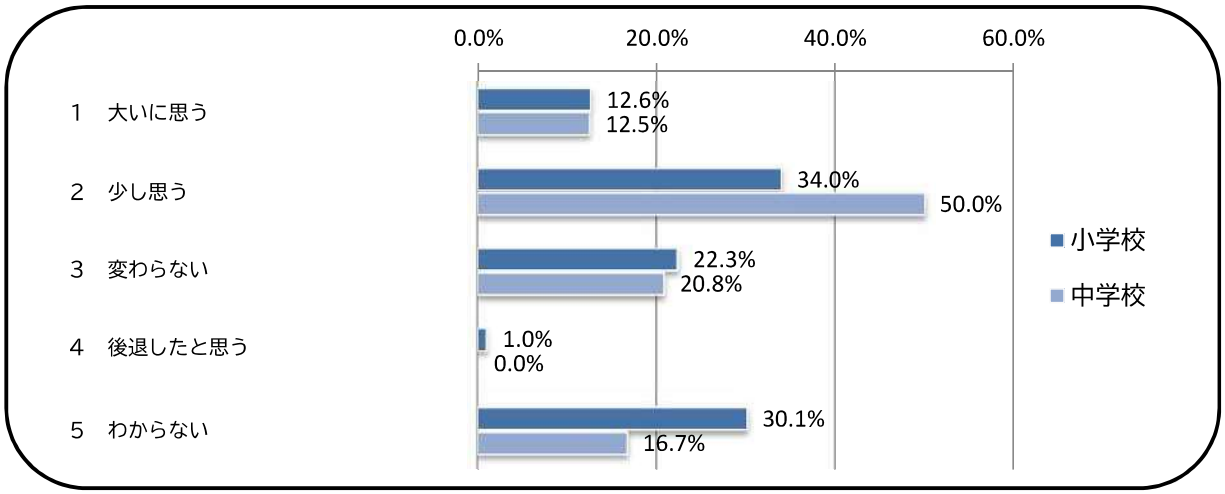
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　学校通信などで知った	104	46.0%	84	45.4%	20	48.8%
2　家庭訪問のときに知った	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
3　参観日など学校に行ったときに知った	59	26.1%	48	25.9%	11	26.8%
4　学校のホームページから知った	28	12.4%	25	13.5%	3	7.3%
5　子どもから聞いて知った	20	8.9%	14	7.6%	6	14.6%
6　友人・知人からの情報で知った	10	4.4%	9	4.9%	1	2.4%
7　その他	4	1.8%	4	2.2%	0	0.0%
合　　計	226	100.0%	185	100.0%	41	100.0%



～その他の主な意見～
・ＰＴＡ役員をしていたため。
・学校に携わるボランティアをしていたため。

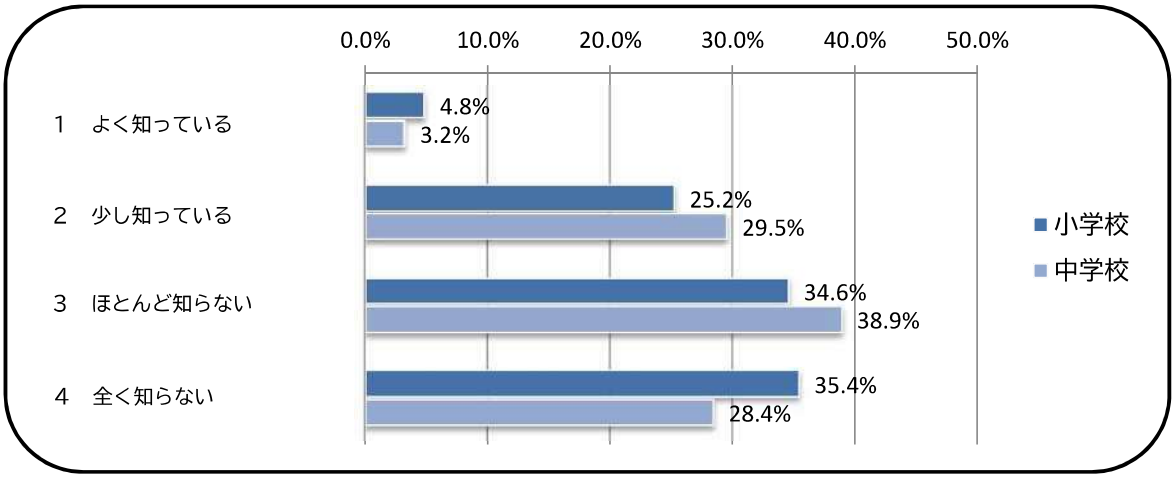
（２）学校選択制により、学校の魅力づくり・特色づくり活動は以前より進んだと思いますか。

区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　大いに思う	16	12.6%	13	12.6%	3	12.5%
2　少し思う	47	37.0%	35	34.0%	12	50.0%
3　変わらない	28	22.0%	23	22.3%	5	20.8%
4　後退したと思う	1	0.8%	1	1.0%	0	0.0%
5　わからない	35	27.6%	31	30.1%	4	16.7%
合　　計	127	100.0%	103	100.0%	24	100.0%



問１９　学校選択制とは別に、やむを得ない理由（在学中に転居し指定校が変わったが従前の学校を希望する場合、指定校への就学が精神的に負担となる場合など）があれば、許可を受け校区外の学校へ通学できる制度（区域外通学制度）があることを知っていますか。

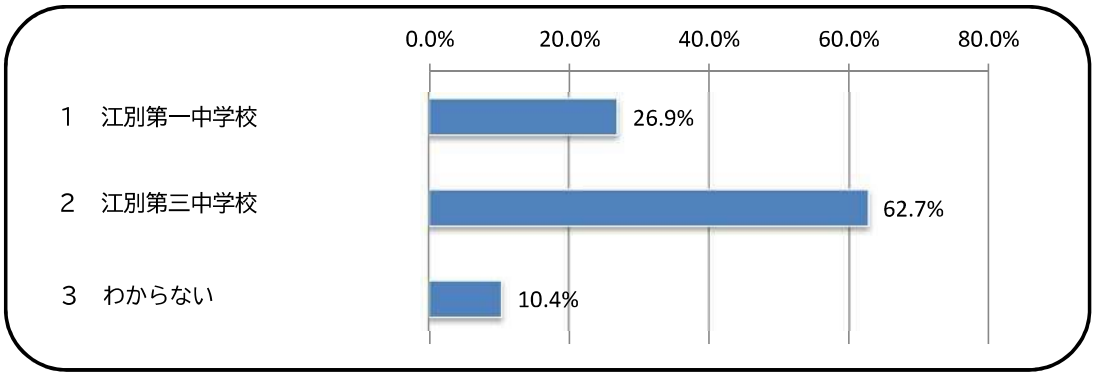
区分	人数	割合	小学校（割合）		中学校（割合）	
1　よく知っている	20	4.5%	17	4.8%	3	3.2%
2　少し知っている	117	26.1%	89	25.2%	28	29.5%
3　ほとんど知らない	159	35.5%	122	34.6%	37	38.9%
4　全く知らない	152	33.9%	125	35.4%	27	28.4%
合　　計	448	100.0%	353	100.0%	95	100.0%



【分散進学に関する設問　問２０～２３】　※江別第一小学校の児童の保護者にのみ伺います。
江別市内で唯一、進学先の中学校が複数に分かれている現状があります。

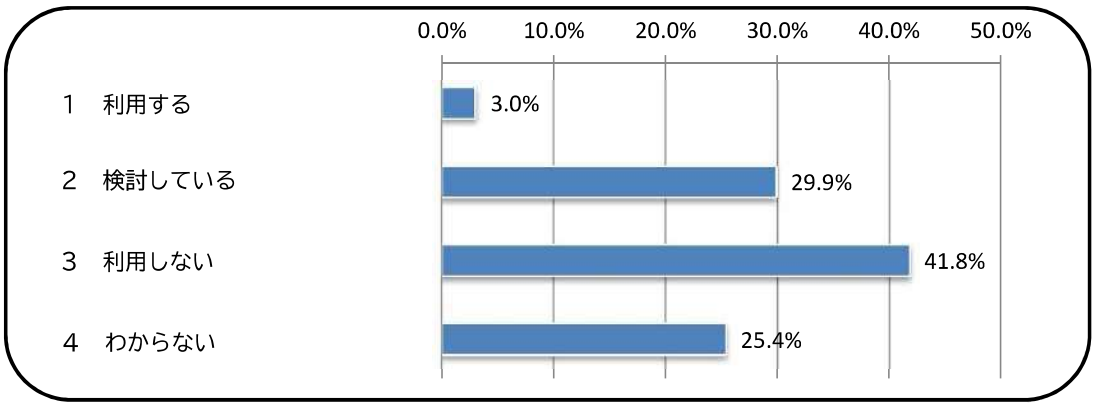
問２０ 現在の通学区域における進学先を選択してください。

区分	人数	割合
1　江別第一中学校	18	26.9%
2　江別第三中学校	42	62.7%
3　わからない	7	10.4%
合　　計	67	100.0%



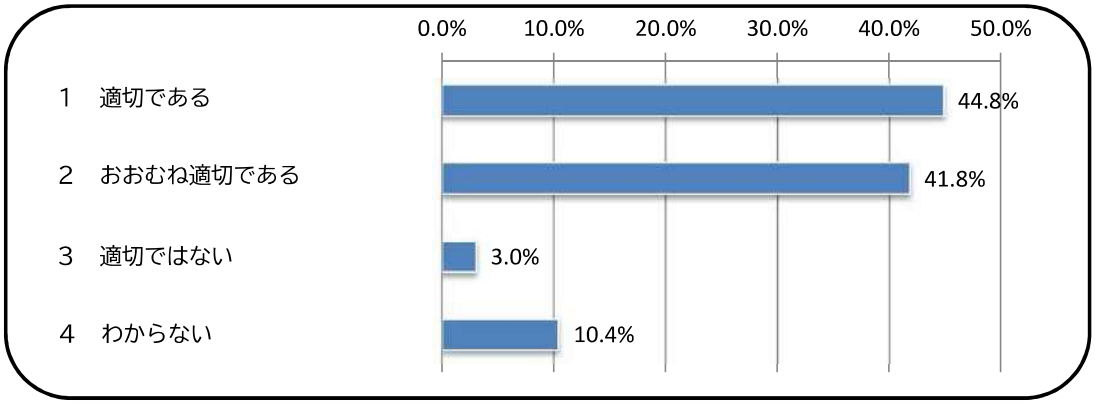
問２１ 中学校進学時に学校選択制を利用する予定はありますか。

区分	人数	割合
1　利用する	2	3.0%
2　検討している	20	29.9%
3　利用しない	28	41.8%
4　わからない	17	25.4%
合　　計	67	100.0%



問２２ 現状の中学校の通学区域について、どのように思いますか。

区分	人数	割合
1　適切である	30	44.8%
2　おおむね適切である	28	41.8%
3　適切ではない	2	3.0%
4　わからない	7	10.4%
合　　計	67	100.0%



問２３ 問２２で回答を選択した理由を教えてください。

～適切である、おおむね適切である～
・天候に左右されず、距離的に子どもが一人で通える範囲であるため。
・大きな道路を渡らずに通学できるため。

～適切ではない～
・冬に排雪されていない道が通学路になっているため。かなり狭く、車１台分程度しかない。

問２４ 学校選択制に関するご意見、ご要望等ございましたら、自由に入力してください。（自由記載）

～主な意見～
・今後も継続してほしい。
・子どもと保護者にとって、選択肢が多いことはよいことである。
・子どもにいじめやトラブル等があったときに、学校選択制があることで救われる。
・各校のＰＴＡ活動について分かると、学校選択しやすくなる。
・冬季以外は自転車通学を許可してほしい。
・冬は自転車利用ができないため、スクールバス等あると便利である。
・部活動を理由とするものではなく、特別な理由（いじめ等）のみを対象としたほうがよい。
・学校ごとに多少の違いはあると思うが、公立である以上、大きな差はないと感じる。
・（転入時を含めて）制度についてもっと周知して、情報格差がないようにしてほしい。
・校区よりも近い市外の学校にも通えるようにしてほしい。
・入学前の時点で、学童に関する説明や情報が少ない。学校選択にも影響がある。
・制度の運用、工夫次第では、もっと多くの子どもたちに寄り添える制度になる。
・小中一貫教育と併せて考えるのであれば、小学校入学前の段階で、中学校の情報に触れる機会があるとよい。
・部活動に関する情報（設置有無、大会成績、廃部予定など）を公開してほしい。
・進学先について考える機会となるため、子どもにとってよいことである。
・部活動に限っては、他の学校の活動に参加できるようにしてほしい。
・野幌小学校の特認入学を継続してほしい。
・私立中学に進学する子どもがいるのと同様に、行きたい学校へ行けるほうがよい。
・いじめや不登校を理由とする場合には、新１年生以外でも利用できるとよい。

以下、全回答内容

1	学校選択に関してではありませんが、前期後期の二学期制ではなく、三学期制にしてほしい。夏休みを挟んだ後の期末範囲が広すぎて子どもが辛そうです。 また小中一貫教育とは全く思えない。中央小から中央中に進学しましたが、転入生かのように周りに仲のよい子はおらず、子どもの性格等配慮されず仲良かった子と離れてしまい、馴染めずに学校へ行きたくないと不登校になった時期がありました(今は何とか行ってます)。 学習内容もいきなりハードルが上がったそうで、ついていけないみたいです。 そういった理由から、二期制に全く魅力を感じませんし、親の私も辛いです。(秋休みとか)
2	学校選択制はよい制度だと思いますが、特に中学校入学時に、少年団の繋がりで部活動の強い中学校を希望する子の受け入れは不公平があるように思います。強豪校・市にはメリットがあるのかもしれませんが、少年団に入っていなかった子たちが、なかなかレギュラーになれなかったりするのではないでしょうか。小学校などでのいじめが原因で、校区外で再出発を検討してる子や家庭の事情のみの子どもが対象のほうがよいと思います。
3	いじめがどこの学校にもあり、ちゃんとした対応・対処がされていない時点で意味がない。 小学生・中学生が通学にスマホ等は必要ない。弄りながら通学・下校を推奨してる時点でありえない。そこからやり直しをした方がいいと思います。
4	大変素晴らしい制度だと思います。現在通っている学校で子どもがいじめにあっていました。このような学校選択制があれば、中学校は原因となる子どもがいない学校を選択できるため、精神面にとても救われます。このような制度を作っていただき、本当に感謝しております。
5	引っ越してきて学校に馴染むことができませんでした。何度か話し合いの場を持つなど対応していただいております。根本解決にはなりませんが学校選択制があると助かります。親子共々地域に馴染むために役立つため、ＰＴＡ活動なども事前に分かると助かります。
6	距離が遠いと夏場は自転車利用で通学することもできるが、冬の通学が大変で学校選択のハードルが高い。バスなどがあると便利だと思います。

7	長男が小学校へ入学した頃、指定校に特別支援学級がなく、近隣の小学校をかなり見学しました。昔の事ですが、現在よりも特別支援学級に理解がなかったと思いますし、放課後デイも数少なく、選べる状況ではありませんでした。長男の入学直前に指定校に特別支援学級が開設されると聞き、指定校へ入学しました。 いろいろな特別支援学級を見学しましたが、支援の厚さに幅があるなと感じました。そのため、市内全域で学校選択できたら、子どもに合った学校に行けるのではと考えます。指定校に新規開設される特別支援学級に悩みながらも進学したのは、少しでも長男が知ってる友達がいるところ、長男のことを知ってくれてる友達がいるところ、自分の足で通えるところにするためで、それで良かったと思えています。 新規の特別支援学級は学校側も手探りで、本当に特別支援学級の先生かな…と思う先生で大変でしたが、乗り越えました。今後も子どもたちの為にいろいろ選べる学校であって欲しいなと思います。
8	行きたい人が行きたいところへ通えるなら、現在の制度のままでよいと思います。
9	選択肢があることはよいことだと思います。市内全域にしたほうが、よりよいと感じます。
10	通学距離が近い学校やスポーツを極めたい人、不登校になってしまった人、転居前の学校を希望する人が選択できることはとてもよいと思います。 ただ、それ以外の児童生徒は当たり前のように校区の学校へ行って、与えられた環境の中で、もがくことが未来に活きる大切なことなのではないかと思います。
11	第一子が入学するときに、地域の人が訪問できる学校公開日があることを知らなかったため、知る機会があればよかったです。
12	学校選択制については、是非続けて欲しい。市内全域の学校が選択できるようになってほしい。学校ごとに個性的な特徴、特色があり、それを紹介する取り組みがあれば、もっと選択しやすい。また、通いやすいようにスクールバスの運行もあれば、生徒にとってもっと自由な教育を受けることができるのではないだろうか。 　昔に比べて、人間的にオールラウンダーな教諭が減っているような感覚がある。専門色の強い教諭たちを市内で再構成し、より特色のある学校作りをすれば、生徒たちにとっては魅力があり、入学前イメージとの不一致を防げるのではないか。
13	もっと周知徹底するとよいと思います。
14	いじめ、嫌がらせ、不登校の問題があるので、学校選択のみならず「ホームスクーリング」の選択肢もあったらよいです。（タブレットで紙ドリルの内容をやらせるのではなく、オンラインで授業に参加し登校とみなす等）
15	子どもが既に中学生なので、制度については興味がありません。
16	自宅から校区の大麻中学校が遠く、札幌市立厚別中学校のほうが近いため、そのような理由があれば市外でも通えるようにしてほしい。
17	放課後の過ごし方(学童、児童クラブ等）について、もう少し具体的な説明が入学前にあるといいと思った。児童クラブが隣接している学校なので、下校時にそのまま行くことができると思っていたら、一度帰宅する必要があると知り、他の地区に家を構えれば良かったと思った。仕方なく仕事の時間を調整して、子どもの帰宅時間に合わせていました。 また、トイレとプールを改修してほしいです。特に毎日使うトイレは入学前の保護者からしても気になる点だと思います。いまは和式のトイレ自体が少ないので、入学前に練習するのに探しました。本当にトイレは洋式に変えてください。
18	学校選択制については、学力や通学距離だけでなく、子ども一人ひとりの特性や人間関係への適応状況も考慮できる制度であってほしいと考えています。 現在の学校環境の中には、集団でのコミュニケーションが苦手な子どもや、人間関係のつまずきから孤立してしまう子どもが一定数存在します。そうした子どもたちは、学習意欲や能力とは関係なく、学校に居場所を見い出せず、不登校へとつながってしまうケースも少なくありません。 学校選択制が、単なる人気校への集中や成績による振り分けではなく、少人数教育、個別支援が充実している学校、安心して通える環境を選べる仕組みとして機能すれば、これまで救いきれなかった子どもたちの選択肢を広げることができるのではないかと感じています。 特に、対人関係に不安を抱える子どもや、これまでの学校生活で傷ついた経験を持つ子どもが、再び学校とつながるきっかけとなるような選択肢の提示を期待します。学校を「合わない場所」として諦めるのではなく、「自分に合う場所を選べる」制度として検討していただきたいです。 子どもたちが安心して学び、自分らしく成長できる環境づくりの一助となる学校選択制になることを強く望みます。
19	必要となれば調べて使用する制度だと思うので、利用する人にとってはよいと思います。この機会に知れて良かったと思います。

20	それについての情報に触れる機会が皆無だったので、選択という概念を持たずに入学したような感じです。 小学校より中学校に上がるときの方が学校選択という土俵にあがるケースが多い気がするし、我が家も部活動をはじめ校舎などの過ごす環境を比較して検討を始めてますが、小中一貫を目標にするならば、小学校に上がる段階で中学校の情報に触れる機会があっても良かったなと思いました。 また、小中一貫教育というのを見聞きした最初が入学後学校からの情報だったので、時すでに遅しでした。今後スタンダードにする予定のもの、そのためにいつ誰に情報を伝えるべきなのかを明らかにして、子育て世代に情報格差や機会ロスを起こさないようにしてほしいなと思いました。
21	学校選択制は現代において、学校の特色に合わない子どもや通ってみて人間関係につまづいたり、不登校になってしまった子どもの助けになる一つだと思いますので今後も継続して欲しいです。
22	学校選択制は現状、ほとんどの子どもや保護者にあまり利点がないように思う。各校の特色はほとんど同じで、この学校に行けばこのような体験や学習が出来る等の格差がほとんどなく、どの学校へ行っても学習内容も体験も同じであると感じる。環境を変えた方がよい事情の家庭でない限り、ほとんど選択制を利用しようとはならない気がする。 公立で差別化は難しいのかもしれないけれど、休んでもオンラインで授業が受けられる等の整備が広まって行ったら選択制も利用しようか？という方向で考える家庭も増えるのかもしれない。
23	指定校に希望する部活動がなく、指定校以外の学校を検討しました。入学する２年前に、何の知らせもなく廃部になってしまいました。中学校での部活動を見込んで始めた少年団（サッカー）でした。廃部にする際はせめて、これから中学校に入学する小学校高学年にも情報提供、検討の機会が欲しかったです。 部活動の活動費は全生徒のための費用であるのに、上記の理由で帰宅部を選んだ生徒は何の還元もなく、予定していた部活にも入れず、民間の団体に所属することになり、予定外の出費も発生しました。部活動の地域展開は理解しますが、情報提示など、もう少しオープンに公平性を持って進めていただきたいです。
24	我が家の場合は、学校選択制を利用したいかどうかを検討する理由として、部活動の有無や成績であったため、部活動が地域展開するかどうかが選択制を利用するかどうかのポイントとなります。また、学校選択制を利用したときに、隣接校区であった場合の登校方法は自転車やバス通学を選べるようにして欲しい。
25	我が家の場合、指定校である野幌中学校は街の外れにあり、通学距離が非常に遠くなるため、第二中との比較検討でとても悩みました。結果的に制度は使用しませんでしたが、この制度のおかげで解消できる各家庭の事情もあると思います。とても素晴らしい制度だと思いますので、これからも継続していただけることを願っています。
26	学校選択制に関しては、大変よい制度だと思っています。現在、子どもは問題なく学校へ通っていますが、万が一いじめなどにより学校に通えなくなってしまった場合、他の学校に通えるという選択肢があるという事はとても有難い事です。また、中学校入学時にも部活動や友人関係等で指定校以外の学校を選択できるという点も選択肢が広がりとてもよい事だと思います。 子どもが成長するうえで、環境というのはとても重要な事だと考えております。子どもも生活や考え方は十人十色です。学校選択制がある事でその子にあった環境で学ぶことができるのは大変よい事だと思います。ぜひ今後も続けて欲しいです。
27	学校選択制があるなら、市内小中学校の情報提供をもっとしてもよいのではないだろうか。学校の特色や部活動などを知ることができなければ、選択しにくいと思います。
28	部活動に限って、他の学校に参加することはできないのでしょうか。札幌市ではできると聞きました。
29	学校選択制でネックになったのは、通学の負担でした。スクールバスの運行や、公共交通機関の利用補助を検討してほしいです。親の送迎可否で選択肢が狭まらないようになればありがたいです（予算の厳しさもあると思いますが）。
30	学校選択制、小中一貫教育などについて掲げる目標はわかるが、それが子どもたちにとって実際にメリットがあるのかどうかわからない。
31	選択の自由があることは、子どもたちにとってとてもよいことだと思います。我が子はスポーツをやっているので、部活をやる場合に、習っているスポーツの部活動が指定校になければ、他の学校を選択したいと思うでしょうし、現在の学校とは違うところに行きたいと悩んでいる子に対しての対策は必要です。現行のまま学校選択制を続け、叶うのであれば選択できる学校が広がるとよいのではないでしょうか。
32	２～３年前、小学校への入学を検討して見学に行った保護者に対し、当時の主幹教諭か教頭が児童生徒数が多いことを理由に、他の学校を検討することを薦めたという話を聞きました。せっかく入学を検討してくれている保護者に対し、そういった対応がされていることにショックを受けました。児童生徒数が増えると教員の負担が増えるのでしょうか？

33	野幌小学校の特認校を継続してほしいです。
34	部活動の種類が少なく、やりたい部活のために学校を選択する子どもも多くいるので、隣接校との合同部活動などを実施して、指定校以外を選ばなくても選択肢が多くある環境を作って欲しい。
35	学校によってテストの回数や教科が異なったり、評定のとりやすい学校や厳しい学校など、どの学校に入学・進学するかによって進路に大きく影響がある。また、部活動の選択肢が少ない学校、やりたい部活が他校にある等、個人によって学校に求めるものは様々である。中学受験する子どももいるのだから、通学の負担があっても行きたい学校に行くことは悪いことではないと思う。もっと選択肢が広くあってほしいと思う。
36	学校選択制は悪いことだとは思いませんが、学校は子どもが資本です。子どもが指定校以外の場所を選択し、楽しいと感じてくれることを親は望んでいます。全ての子どもがというのも難しいのかもしれませんが、子どものために頑張っている親もたくさんいると思うので、部活動など指定校では難しい場合も少子化の影響であるので、子どもたちの可能性のためにも、工夫し実践していくことが必要であると思います。
37	学校選択できることで学校の特色が出ると思っているようですが、公立である以上、ほとんど変わらないと思います。大胆な違いを生み出せるほどの自由度があるのかなと思います。特色を打ち出すのではなく、いじめや家庭の事情等での異動のしやすさ、教員も異動がしやすい環境を整える方がよいのではないかと思います。
38	選択の自由は、子どもの可能性を広げます。伸び伸びと成長できる環境づくりを大人が用意できるよう、柔軟な考えや対応をお願いします。
39	制度をよく知りませんでした。市内の学校にそこまで違いや特色もあるか分かりません。どの学校に通ってもあまり違いがないのであれば、校区の学校でよいと感じる。いじめなどの場合は校区の学校以外を選択するメリットはあると思う。
40	学校選択以前に、登下校の安全が第一だと思う。そのため、学校は近いほうがよい。どうしても現在通っている学校へ行けなくなった場合には転校できるほうがよい。
41	中学生は部活動で学校を選択する子が多いと思うが、一つの学校に部員数が偏ってしまうため、その対策を考えてほしい。学校全体で校区外から来れる人数を決めるとか、その設定した人数より多くなってしまったら審査して厳選するなど。
42	新１年生以外でも進級時に必要な子どもは学校選択制を利用できたらよいと思う。不登校児童生徒の話も聞くので、心機一転というかリスタートして頑張れる機会があるなら、制度に幅を持たせてもよいと思う。
43	我が子は利用しませんでしたが、学校の選択肢があることはよいと思います。
44	学校選択できることにより、自分のこれからの道を考える機会ができたり、自分に合った環境を選べることはよいことだと思います。これに携わる方々は大変かと思いますが、親としてはありがたいです。
45	校区の中学校が遠いため、学校選択制を視野に入れています。今後も試行錯誤しながら続けてほしいと考えております。次年度に小学校へ入学するため、７年後もこの制度が精査され、続いていることを願っております。
46	市外からの転入時に、転入届を書いているときに職員から「転入先の学校はどちらにしますか」と聞かれ、「何のこと」と思いながら、自宅から一番近い学校へ入学しました。その後、下の子の新入学時に江別市が学校選択制を導入していることを知りました。 転入前に考える時間があればよかったなと思いました。江別市が学校選択制を導入している情報を市外の人にもっと広めて欲しい、転入時に市職員から学校選択制について説明が欲しかったです。
47	転入時に、学校選択制の話は詳しくされませんでした。後から選択することができたと知り、我が家は問題ありませんでしたが、特に転入時は選択できると考えもしない人もいると思うため、きちんと説明をしたほうがよいと思います。
48	児童生徒がいじめなどにより、その学校に通うことが難しいのであれば、その子に合った学校へ転校する機会があるのはよいと思う。

49	小学校から続けてきたスポーツの部活動が校区の中学校や隣接校にないことを理由に、私立中学校に行く子どもや全く未経験の部活動に加入する子どももいる。部活動の地域展開が進んでも、練習場までの送迎等で親の負担が増えるのは必須と考えられる。部活動の種類が少ない学校には魅力を感じなくなりそうである。地域に働きかけて文化部(囲碁棋士・合唱・書道・ボランティア)などが増えて欲しい(部活動よりもサークル活動として地域のボランティア講師を募るなど)。 学校選択制に伴い、通学の自転車利用を認めべきだと思う(夏場だけでも自転車で登下校してくれれば親はとても助かる)。 受け入れ枠を無くしたらよいと思う(サッカーをしていた子が校区内の中学校にはサッカー部がなく、隣接校に行く行かないで散り散りになった。募集枠から落ちたら困るから結局身を引いた子もいた)。
50	子どもがサッカーを続けており、校区の中学校にサッカー部がないことを理由に、隣接校も検討していました。しかし、隣接校に進学すると多くの友達と離れることになるため、校区の中学校へ入学することに決めました。進学後は札幌のクラブチームでサッカーを続けています。友達か、サッカーかを選択しなければならず、友達を選び、我が家はクラブチームに入りましたが、そうできなかった子もいたと思います。校区の中学校に通っていても、隣接校の部活動に参加できるなど、何か対策を考えていただきたいです。クラブチームの送迎ができる家庭ばかりではないと思うので、スポーツを続けてたい子どもが続けられる環境を望みます。
51	校区外の学校を選択した場合はスクールバス等がないと、送迎必須になるから難しいのではないのでしょうか。それが一番のネックであり、我が家もそれで結果的に校区内を選択しました。
52	やりたい部活動の関係で校区外の学校を選択するケースは大いにあると感じますが、通学する手段に悩むことが一番の懸念点です。自転車通学の可否や冬の通学手段など。車の送迎は、家庭によってでいない場合もあります。通学手段に課題がないのであれば、子どもに自由に選択させてあげたいです。
53	野幌小学校に通学していたことを理由とした野幌中学校への区域外通学に関して、学校選択制と混同している人が多いと思います。書類の提出などに関して、特に先生方に周知してほしいです。
54	みんな様々な理由があって学校を検討したいときに、本当に素晴らしい制度だと思います。これからも継続してほしいので頑張ってください。

未就学児童の保護者に対するアンケート調査結果

令和８年２月実施

【本アンケートについて】
○目的
　学校選択制の課題や問題点を整理し、今後の制度の在り方について検証する（前回令和３年）。
○調査対象
　今後、小学校入学時に学校選択制の対象となる子ども（０～６歳）の保護者５００名
○回答者数
　２２８名（全体の４５．６%）

問１　お子さんの年齢を選択してください。（複数回答可）

区分	人数	割合
０歳	20	6.9%
１歳	31	10.7%
２歳	43	14.8%
３歳	43	14.8%
４歳	61	21.0%
５歳	54	18.6%
６歳	39	13.4%
合　計	291	100.0%

問２　あなたの年齢はどの区分に該当しますか。

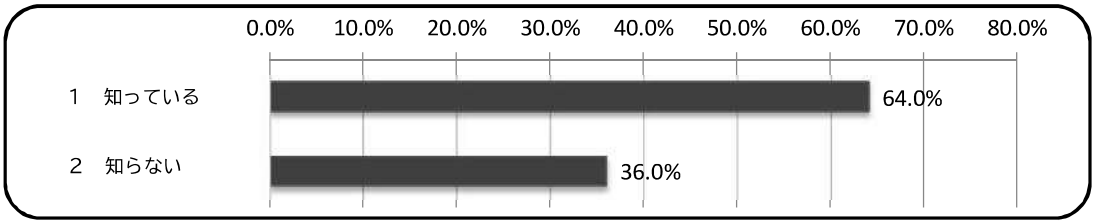
区分	人数	割合
２９歳以下	18	7.9%
３０～３９歳	146	64.0%
４０～４９歳	64	28.1%
５０～５９歳	0	0.0%
６０歳以上	0	0.0%
合　計	228	100.0%

問３　お住まいの地区はどちらですか。

区分	人数	割合
江別地区	81	35.5%
野幌地区	86	37.7%
大麻地区	61	26.8%
合　計	228	100.0%

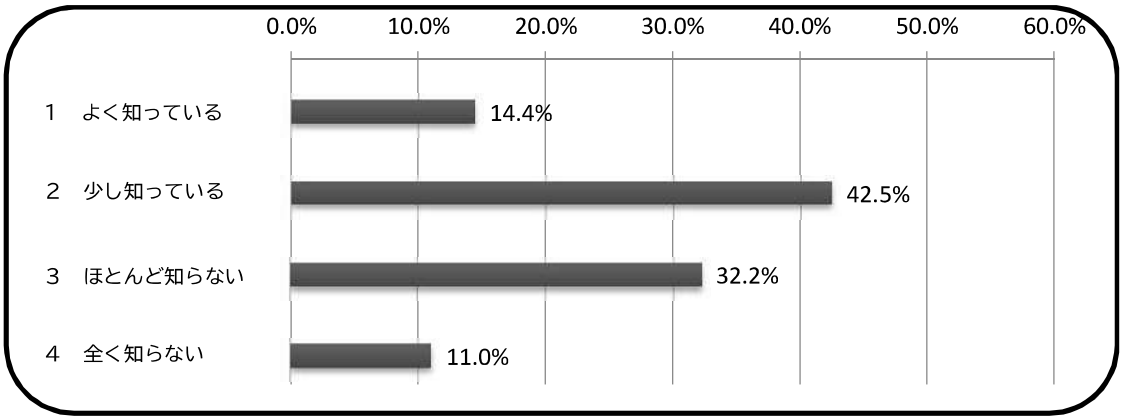
問４　江別市で学校選択制を導入していることを知っていましたか。

区分	人数	割合
1　知っている	146	64.0%
2　知らない	82	36.0%
合 計	228	100.0%



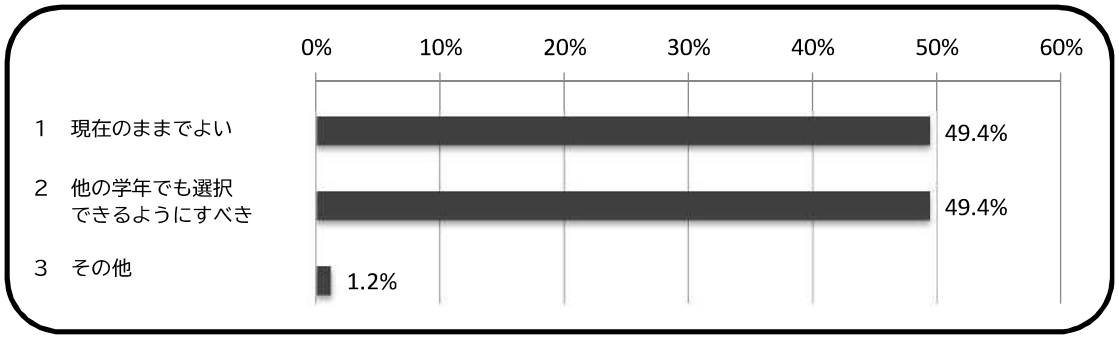
問５　問４で「知っている」と回答した方に伺います。
学校選択制の制度内容（選択できる学校の範囲、選択できる時期など）を知っていますか

区分	人数	割合
1　よく知っている	21	14.4%
2　少し知っている	62	42.5%
3　ほとんど知らない	47	32.2%
4　全く知らない	16	11.0%
合　計	146	100.0%



問６　問５で「よく知っている」「少し知っている」と回答した方に伺います。
現在、学校選択制を利用できる学年は、毎年のクラス編成等の学校運営の関係から、小学校または中学校に入学する新１年生、あるいは市外からの転入時のみとしていますが、選択できる学年についてどのように思いますか。

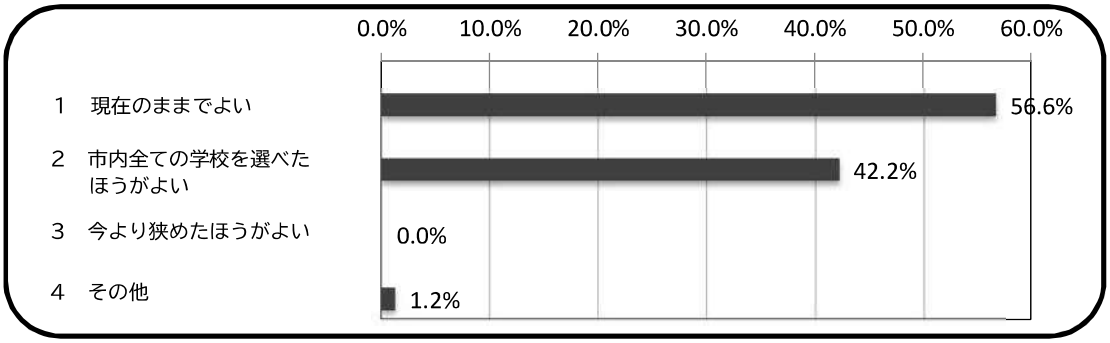
区分	人数	割合
1　現在のままでよい	41	49.4%
2　他の学年でも選択できるようにすべき	41	49.4%
3　その他	1	1.2%
合 計	83	100.0%



～その他の意見～
・いじめ被害者などの事情がある場合には、年度ごとに選択できるとよい。

問７　問５で「よく知っている」「少し知っている」と回答した方に伺います。
江別市では、選択できる学校の範囲として、通学時の安全面や地域との連携の観点等から、校区と隣接する地域の学校（隣接校方式）としていますが、この方式をどう思いますか。

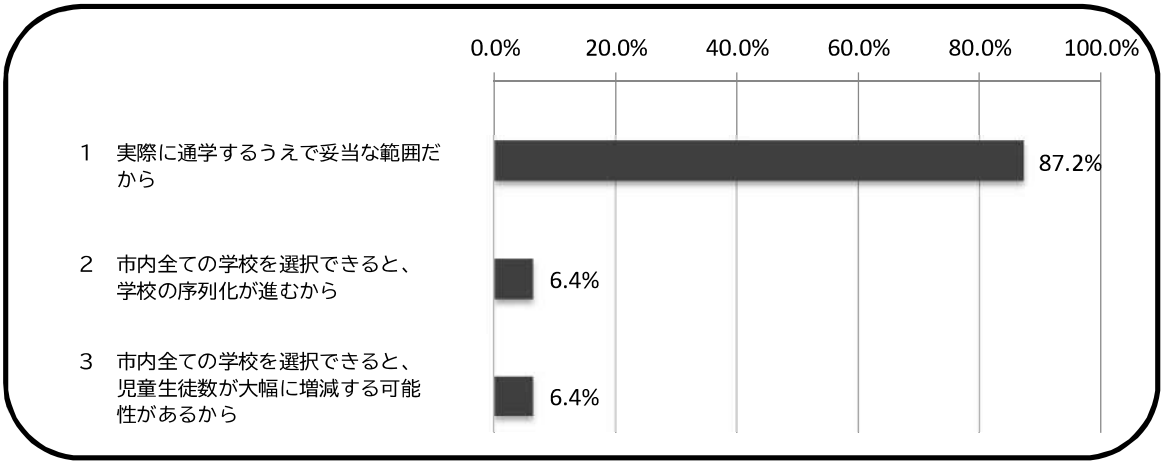
区分	人数	割合
1　現在のままでよい	47	56.6%
2　市内全ての学校を選べたほうがよい	35	42.2%
3　今より狭めたほうがよい	0	0.0%
4　その他	1	1.2%
合 計	83	100.0%



～その他の意見～
・いじめがあった場合などは、市内全ての学校を選択できるようにすべき。

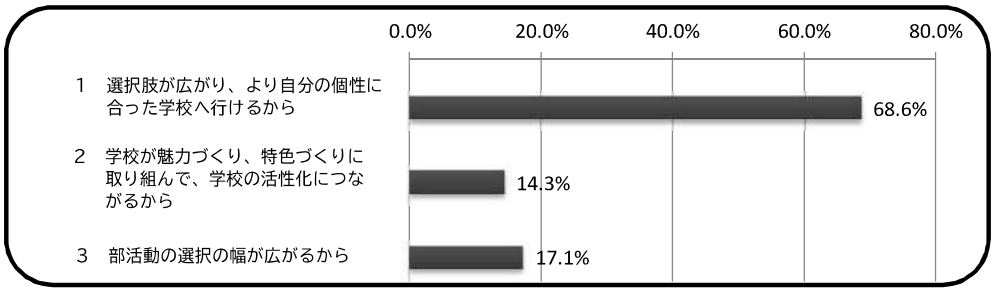
問８　問７で「現在のままでよい」と回答した方に伺います。
「現在のままでよい」と思う理由を教えてください。

区分	人数	割合
1　実際に通学するうえで妥当な範囲だから	41	87.2%
2　市内全ての学校を選択できると、学校の序列化が進むから	3	6.4%
3　市内全ての学校を選択できると、児童生徒数が大幅に増減する可能性があるから	3	6.4%
合計	47	100.0%



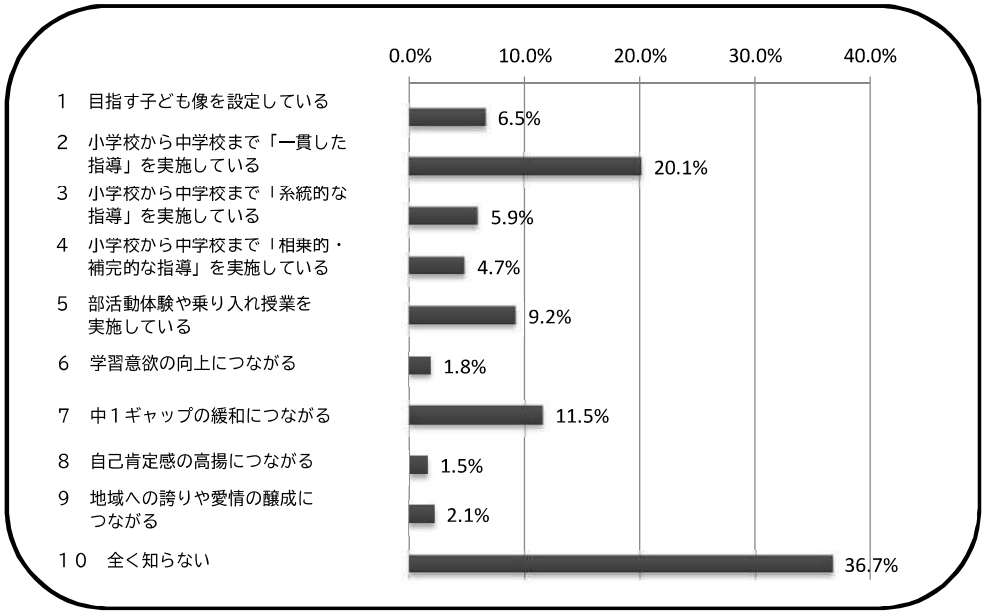
問９　問７で「市内全ての学校を選べたほうがよい」と回答した方に伺います。
「市内全ての学校を選べたほうがよい」と思う理由を教えてください。

区分	人数	割合
１　選択肢が広がり、より自分の個性に合った学校へ行けるから	24	68.6%
２　学校が魅力づくり、特色づくりに取り組んで、学校の活性化につながるから	5	14.3%
３　部活動の選択の幅が広がるから	6	17.1%
合計	35	100.0%



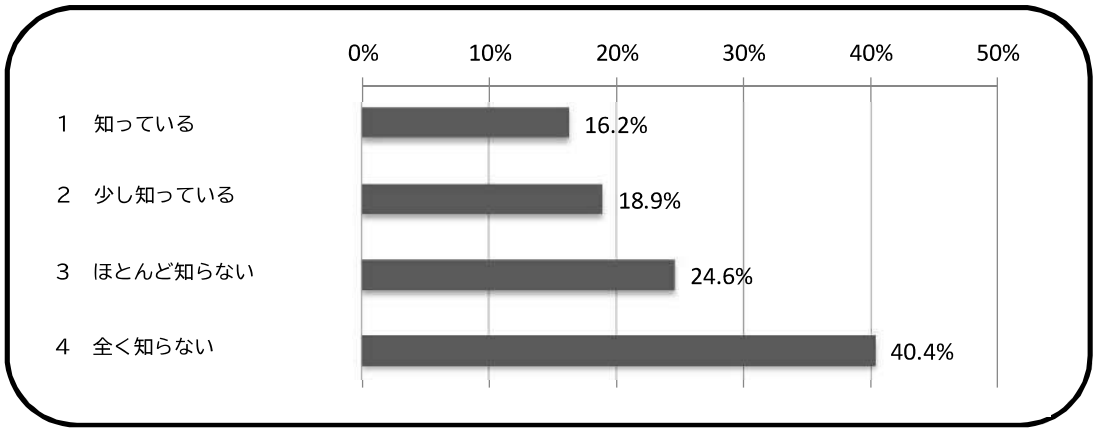
問１０　令和５年度から市内小中学校に導入した「小中一貫教育」について、知っている取組や効果を選択してください。（複数回答可）

区分	人数	割合
１　目指す子ども像を設定している	22	6.5%
２　小学校から中学校まで「一貫した指導」を実施している	68	20.1%
３　小学校から中学校まで「系統的な指導」を実施している	20	5.9%
４　小学校から中学校まで「相乗的・補完的な指導」を実施している	16	4.7%
５　部活動体験や乗り入れ授業を実施している	31	9.2%
６　学習意欲の向上につながる	6	1.8%
７　中１ギャップの緩和につながる	39	11.5%
８　自己肯定感の高揚につながる	5	1.5%
９　地域への誇りや愛情の醸成につながる	7	2.1%
１０　全く知らない	124	36.7%
合計	338	100.0%



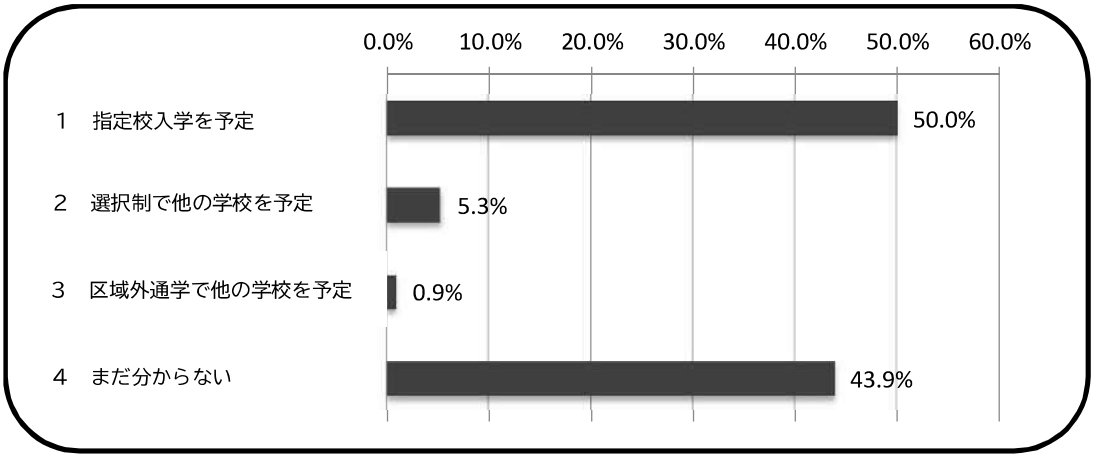
問１１　江別市では、通常お住まいの地域ごとに入学する学校が指定（指定校）されますが、学校選択制とは別に、やむを得ない相当な理由（在学中に転居し指定校が変わったが従前の学校を希望する場合、指定校への就学が精神的に負担となる場合など）があれば、許可を受け校区外の学校へ通学できる制度（区域外通学制度）があることを知っています

区分	人数	割合
1　知っている	37	16.2%
2　少し知っている	43	18.9%
3　ほとんど知らない	56	24.6%
4　全く知らない	92	40.4%
合計	228	100.0%



問１２　お子さんが小学校に入学する際、学校選択制あるいは区域外通学制度を利用して他の学校へ入学する予定はありますか。

区分	人数	割合
1　指定校入学を予定	114	50.0%
2　選択制で他の学校を予定	12	5.3%
3　区域外通学で他の学校を予定	2	0.9%
4　まだ分からない	100	43.9%
合計	228	100.0%



問１３　学校選択制に関するご意見、ご要望等ございましたら、自由に入力してください。

～主な意見～
・選択肢が増えることで、本人や保護者の希望に寄り添える制度である。
・現在のまま継続してほしい。
・その地域の友人や学校とのつながりを大切にしてほしい。
・学校見学や学校選択制に関する情報を早めに知らせてほしい。
・校区の学校近くに学童がない場合にも利用できそうでよい。
・学校の特徴や設備環境の違いを知りたい。
・１番近いはずの校区の中学校ですら遠く、はじめから学校選択できる環境ではない。

1	一年前に引っ越してきました。 その時点で、この地域はどの小学校、中学校に入学するということを前提にして土地探しもしました。これから子供が大きくなるにつれて友達もできてきます。やむを得ない理由がない場合はその友達とのつながりや学校への愛着を大事にしてほしいです。スポーツや勉強が盛んな各々の学校の特徴があると思いますので、そういった理由で学校選択制を活用する場合は、子どもとよく相談しながら本人の意思を尊重します。
2	親としては、よりよい学校へ通わせたいという気持ちがあるため、寄り添ってくれる制度でよいと思う。
3	子供にとってよい環境で学べることが一番なので、人間関係やスポーツ等やりたいことを含め、その時に学校選択制で最良の判断ができるとよいです。
4	選択する小学校の特徴がわかれば選択する理由になります。小学校の特徴をわかりやすく説明できるものがあるのでしょうか。また、選択が偏った場合には教える側の環境として、児童生徒に均一な教育を提供できるのか回答をお願いしたい。
5	学校見学のタイミングをもっと早めに告知して、学校選択の幅を広げさせてほしい。仕事をしながら、見学予定を調整するのが難しかった。 学校の先生と話せる機会も設けてほしい。
6	やむを得ない理由がある場合には、そういった選択肢があるのはよいと思いました。
7	情報を早めに届けて欲しいです。
8	こちらの制度について、詳しい情報はどこで手に入れられるのでしょうか？事前にあらゆる情報を知る術があると助かります。
9	江別市在住ですが、職場が二人ともフルタイムで札幌ですので、帰りが１９時近くなり、学校が早く終わったときの預け先があるのか心配になります。
10	第二中は第二小を卒業してくる子どものみで構成されるため、交友関係の広がりがなく、閉鎖的だと感じます。
11	自分たちの頃とは違う教育制度や環境なので、親側にも不安があるような感じがしますが、制度自体を否定的には捉えてはいません。
12	今回のアンケートを郵送で案内する際に、学校選択制のメリット・デメリットの説明文や参考資料などもつけて欲しかった。
13	医療ケアが必要な障害児はそもそも選択肢が限られるため、自分にはあまり関係のない話に感じました。
14	学校の特色がわかるようにして欲しい。
15	自力で通学することも学びの一貫としているなら話は別ですが、小規模特認校の野幌小学校がとても魅力的に感じています。自宅からでは通学が不便なので、スクールバスなどがあるとさらに前向きに検討できる気がします。
16	共働きで帰りが夕方になるが、指定校だと学童がなく、学童が隣接している小学校を検討している。近所の子どもたちと違う小学校になってしまうのが不安である。全小学校の付近に学童のような広場があると安心できる。
17	学校選択の以前に、ミニ児が札幌と異なり存在せず、民間の有料学童に行かせなければならないことのほうが重要な案件な気がします。
18	たくさん学校があるのだから行きたいところに行けばよい。

19	学校の特色や力を入れていることなど、学校によって違う部分があれば知りたい。また、学校内の設備環境の違いも知りたい。
20	このような制度があることを全然知らず、どこにそのようなことが書いてあるのか、もっとわかりやすい資料や説明、お知らせのようなものがあるとよいなと思いました。知らされるまで全然知らない人も多いのではないでしょうか。
21	申請場所が教育委員会だと普段行く場所ではないのでわかりにくい。市役所などにも窓口があると行きやすい。申請は郵便でも可能となってるが、わざわざ郵送する距離でもないので。
22	選ぶ選ばないは別として、子育てに力を入れている市としては、この制度は必須だと思います。仮に廃止を検討するならその理由が知りたいです。
23	有意義な制度だと思います。部活動が強い、自然が近い等の理由で決められるし、子どもにも選択肢を与えられる点は今までにないなと感じます。ただ、運用されている制度なのに、内容をほぼ知らない。入学予定の保護者への簡単な説明資料(メリットやフロー)などがあると嬉しいなと思いました。
24	就業の都合上、自宅のある区域では通学困難な可能性が高く、また通っている幼稚園での子ども同士の関係性も鑑みて、学校選択制には賛成です。
25	いじめなどがあった場合に、すぐに転校できるよう融通をきかせてほしい。
26	アンケートの回答率をあげるためには、学校選択制とはなんなのか、特認校制度とはなんなのかの記載がないとそこから調べなければならないためアンケート回答が億劫になります。次回以降、このようなアンケートがある場合は改善して欲しいです。
27	保育園や幼稚園の掲示板等で周知してほしいです。
28	現在のまま継続してほしい。
29	学校選択制とてもよいと思います。
30	中学校が少なく、現在住んでいる区域の中学校まで片道３０～４０分かかってしまう。冬は今年のように豪雪になると、親の送迎が必要になるなど負担となる。バスも少なく、隣接する区域も更に距離が伸びることとなり、学校選択以前の問題である。中学校を増やすなど何かしらの対策を行なって欲しい。
31	選択しやすいよう、各学校の評価や治安など知ることができる場があれば嬉しいです。既にあるのでしょうか。昨今、学校という狭い社会の中でのいじめや暴行被害、各学校の教育方針などを重要視したいので…。
32	学校選択制は選択肢が広がるため、引き続き導入すべきかと思います。
33	とても良い取り組みだと思います。
34	良いと思います。
35	選択肢が増えることは大切だと思います。
36	継続をお願いします。
37	そもそもの問題は、住んでいる場所によって指定校への通学時間が長くなることだと思っております。(特に中学校) 通学に際し、自転車や公共交通機関の使用が許可されていれば、学校選択制の必要は乏しいのではないかと考えます。

学校選択制に関する学校アンケート調査結果

令和８年２月実施

【本アンケートについて】

◇目　　的

学校選択制について、各学校の意見や学校運営への影響等についてアンケート調査を実施し、今後の制度の在り方について検証を行う。

◇調査対象

市立小中学校全２５校の教職員

◇回答数

２５校（各学校につき、１回答）

問１　学校現場における学校選択制のメリット、デメリットについて、どのようにお考えですか。

（１）メリット

～主な意見～

・児童生徒と保護者の意思や個性を尊重できること。
・人間関係をリセットできる機会があること。
・希望して入学するため、児童生徒・保護者と学校が良好な関係を築きやすいこと。
・部活動選択の幅が広がること。
・不登校、いじめ、トラブルの解消につながる可能性があること。
・通学距離が短い学校を選択すると、より安全に学校へ通うことができること。
・学校側が特色や強みを打ち出しやすいこと。

以下、全回答内容

1	保護者の学校教育への関心が高まること。
2	児童生徒並びに保護者が、興味関心や希望する活動に応じて学校を選択できること。「子どもが主役」と謳う江別市の施策に一致する取組である。
3	より児童生徒にあった学校を選ぶことができる。
4	中学校入学を機に、様々な人間関係等をリセットして、気持ちを切り替える機会になる。
5	児童生徒と保護者が希望して入学することで、学校との関係がよくなると考える。
6	子どもたちの人間関係や希望する部活動の有無によって選択できること。
7	自分で行きたい学校のことを調べて選択できるという児童生徒の意思を尊重できる。
8	各保護者が学校の活動に対して、積極的に興味を持つことにより、お互いに良い緊張感の中、学校としての活動を行うことができる。
9	選択制により好きな部活動のある学校へ入学できること、人間関係のやり直しができることなど、子どもたちのモチベーションを向上させるメリットが一定程度あると考える。
10	特別支援学級では、特にハード面で配慮が必要な子どもに対して、より実態に即した環境を考え、選択できるというメリットがある。
11	部活動による学校選択ができることや、人間関係において選択肢が増えること。
12	子どもが自分で選択できる機会があること。
13	自分の個性や能力を試せる部活動などにおいて、選択肢があること。人間関係によって不登校になっている子の新たな学びの場となる可能性がある。
14	児童生徒の安全・安心を守るうえで、学校選択が寄与する部分があること。
15	保護者は幼稚園やこども園などとのつながりを考慮して学校を選択できること。
16	自宅から近い学校を選択できる場合があること。
17	自校の強みを意識して教育活動を組み立てるため、教育課程の見直しや改善、教科指導等の改善や工夫が進むこと。
18	児童生徒や保護者が（地理的に）通いやすいと判断する学校へ通学できること。
19	中学校の部活動選択において、幅が広がること。
20	お子さんが新１年生となる保護者の方が、市内一斉学校公開等を活用し、学校の様子をお子さんと一緒であったり、ご自身で確認し、学校を選択できること。
21	人間関係等に悩んでいる場合、環境をリセットできること。
22	あらゆる選択肢が広がること。
23	部活動を含め、個性に合った教育(学校)が選べること。
24	人間関係(いじめやトラブルなど)の回避ができること。
25	学校の独自性をアピールしやすいこと。

26	学びの多様性の確保、各学校の個性化と魅力向上を出しやすいこと。
27	保護者が教育方針や少人数での学習、仲のよい友達と同じ学校へ行きたいなど、希望して入学させることから、学校への理解や協力が得られやすいと考えられる。
28	小規模校においては、児童生徒数増の可能性があり、学級単位での活動に選択肢が増えること。
29	各家庭が主体的に学校を選べることや、子どもの個性や部活動の希望に合った環境を提供できること。
30	それぞれの学校の教育活動、特色を見て、子どもの個性に合わせて学校を選択できること（小規模特認校への入学など）。
31	様々な事情を抱える児童生徒・保護者にとって、選択の幅が広がること。
32	部活動の地域展開の進捗にもよるが、校区の学校に希望する部活動がなく、隣接校区の学校に希望する部活動がある児童生徒にとってはメリットとなる。
33	部活動の拠点校化が進むことが予想される中で、各学校での部活動の整理につながる可能性があること。一方で、競技人口の減少（初心者から始める生徒、レギュラーになれる生徒が減る）につながる可能性もある。
34	特色に応じた教育活動が行えること。人間関係をリセットできること。個々の多様なニーズに応じた最善の選択ができること。
35	家庭が子どもの良さを伸ばすために選択できること。教師が地域に期待される学校を目指すうえででメリットがある。
36	中学校の場合は、部活動の選択肢が増えること。ただし、今後の部活動の地域展開と合わせて考えていく必要がある。
37	人間関係に悩みを抱えた子どもには、良い機会であること。
38	子どもまんなか社会、子どもの権利が重要視される時代に、学校選択はとても良い。
39	より自分のニーズに合わせられること。
40	人間関係でリセットが必要な児童生徒への安心感の提供、希望する部活動への入部、自分に合った雰囲気・学習環境の中で学習できる機会が得られること。
41	特別支援学級に通う子の場合、保護者の立場から考えると、学校選択の幅が広がる大きなメリットがある。
42	学校の施設面、部活動の有無等、児童生徒・保護者の希望に応えられることになり、学校への期待や関心も高く、協力も得やすいと考えられる。
43	幅広い選択肢を子どもと保護者が選べること、小学校までの人間関係をリセットできること、部活動が選択できること。

（２）デメリット

～主な意見～

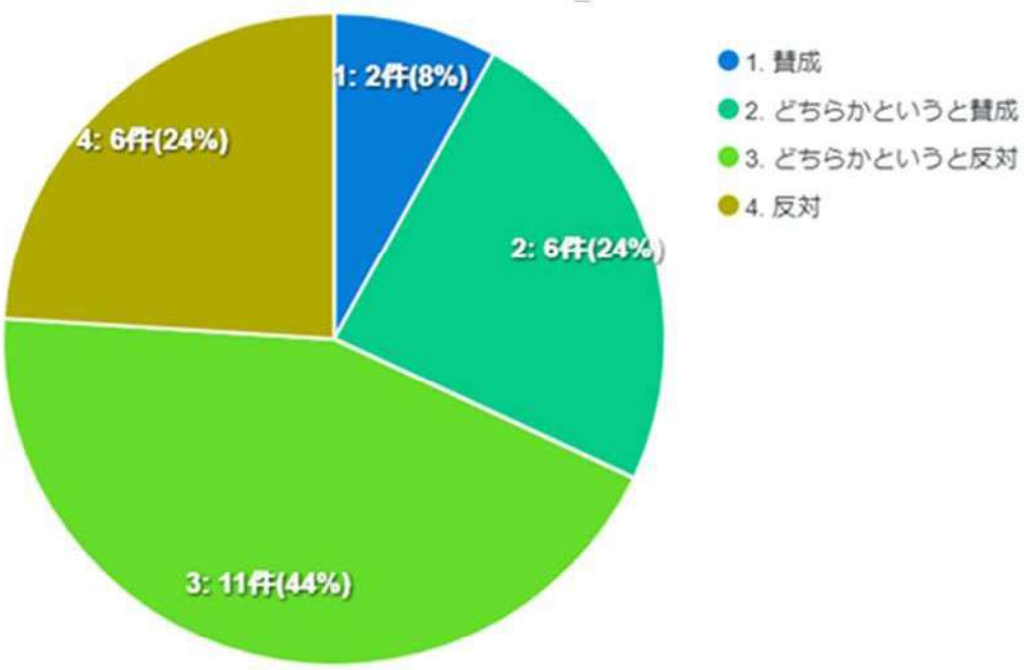
・学校間の格差が明確になること。学校の存続に関わる場合がある。
・年度により、学級編制（学級数、教職員数）に大きな差が出る場合があること。
・友人関係を含め、地域との連携が取りにくいこと。
・緊急時（災害、不審者等）の対応範囲が広く、集団下校などの対応が難しくなる。
・小中一貫教育の内容と反する部分があること。
・通学時間が長く、安全面に不安が増える。送迎による懸念（混雑、事故）が生じる。
・学校間の引継ぎにおける対象校が増えることで、煩雑となること。
・利用場面が入学時（転入時）のみであること。
・部活動を理由に入学することで、学習面がおろそかになること。

以下、全回答内容

1	欠席時の配付物対応、不登校時の対応（家庭訪問等）、非常災害時の集団下校等の対応が煩雑になり、手が行き届かないこと。
2	学校のキャパシティの過不足、学級編成の不安定化。
3	学校間の格差ができてしまうこと。
4	地域との連携がとりにくくなること。
5	いろいろな地域から登校してくることで、登下校に関わる指導や緊急時（悪天候・不審者・自然災害）の対応が不安である。
6	小中一貫教育により中学校区で取り組みを進める中、（その良さは十分ご理解のうえでの選択といっているが）、実際にはそのようなことを考えずとも、気軽に自由に選択できてしまうこと。
7	「地域」単位で考えられている江別型コミュニティスクールへの今後の影響、児童生徒数によって決まる職員定数への影響が大きいこと。「広げてほしい」という声が一部の保護者からあがっているということですが、「地域」単位の意識を共有できるとよいと思います。
8	地域の人が、朝や帰りの通学路で子どもたちの登校を見守ってくれています。地域の子以外が増えたときに、そのコミュニティを壊してしまう危険性があること。また、通学時間が長くなることによる、児童生徒の放課後の過ごし方に変化があり、地域で過ごす子どもが減ること。さらには、トラブルがあった際の即時対応が難しくなること。
9	学校間の引継ぎや、同日に行われる学校説明会が多岐に渡ることで、対応が煩雑になること。
10	入学時または転入時にしか学校選択できないこと。
11	設置されている部活動や学校の特色などによって、偏りが生じること。
12	通学距離や安全面で不安が残ること。
13	校区外から通学する児童生徒が増え、悪天候等による集団下校時の対応が難しい。
14	「選ばれる学校」「選ばれない学校」が明確になり、児童生徒数減少につながると学級減や教員定数が減少し、さらに魅力が低下すること。
15	学級数や教職員定数に影響が出ること。
16	小中一貫教育と整合性が取れない場面、不都合が出る場面があること。例えば、部活動見学の日程が２校で違う部分があり（違って当然なのですが）、先生方が対応に苦慮していることがありました。
17	お子さんが校区内の学校を選択しないことで、地域の友達とは疎遠になること。
18	学校間の格差が広がること。登下校時の安全確保に懸念があること。
19	小中一貫教育との親和性が低いこと。
20	地域コミュニティーとの関係が希薄化すること。

21	通学時間や距離が長くなり、安全性に不安が生じること。
22	対応する地域が広がることで、家庭訪問や地域行事参加が難しくなり、学校全体の動きがとりにくくなること。校区外からの保護者による登下校手段と連携、非常時の保護者対応も難しい。次年度に入学予定の児童生徒数の把握の難しさや、小中連携という視点で引き継ぎすべき学校が多岐にわたることになる。また、地域の児童生徒が他校へ流出することで、特定の学校への偏りや小規模校における学級編成への影響が大きいこと。
23	特定の学校へ児童生徒が集中することによる学校間格差が生じる恐れがあること。安全面（登下校）への不安、正確な新入学児童生徒数の把握が困難になること。
24	校区外からの通学となるため、登下校の距離が長くなること。校区内であれば、複数人で下校できるが、校区外となると、自宅までの間、一人になる時間があり、一番の心配はやはり安全面です。
25	学校から自宅までの距離があることで、車での送迎率が高くなること。このまま校区外からの児童生徒が増えると、さらに送迎数が増え、学校前の道路や駐車場が混雑することが予想される。子どもたちの安全が確保できなくなることを懸念している。
26	保護者側のメリットは理解しているが、学校運営上のメリットはない。本校では児童生徒の安全面や駐車スペースの確保の面から、保護者は徒歩で来校することを基本としているが、校区外の家庭には配慮が必要になる。また、見守り隊をはじめとした近隣住民の方々との繋がりを重視するうえでは、課題が多いと感じる。
27	地域コミュニティの希薄化が懸念されること。近所の友達と異なる学校になることで、放課後の遊びや地域の行事に参加しにくくなる可能性がある。
28	通学時の安全と負担が懸念される。通学距離が長くなることで、交通事故や不審者への不安、悪天候時の負担が増すこと。
29	部活動を理由に選択する児童生徒が多いが、部活動以外（学習面等）への意識が低くなることや、登下校の負担、環境の変化に対応ができなくなる子どもがいること。
30	設備の新旧や設置している部活動によって学校は選ばれている要素が強いと感じる。古く寒い校舎は選ばれず、校区内からの流出数が流入数を大きく上回っている（２０名程度）など、学校運営に支障をきたすこと。
31	教員数の計算ができない。夏休み明けくらいが締め切りとなると、学校としては大変助かる。
32	選択するかを悩んでしまう家庭があるとすれば、デメリットといえる。
33	通学距離が遠くなる場合、負担が大きいこと。
34	部活動という教育課程外の部分で学校を選択する場合があり、それが学級編成に影響が出ること。
35	現在取り組んでいる小中一貫教育の良さが薄れてしまうこと。
36	学級編成で想定より児童生徒が少なくなる場合があること(学校選択によって学級減になった例もある)。部活動の有無によって生徒数が増減すること。
37	特別支援学級の場合、校区の学校に就学させたい希望がありながら、障害の状況によって自宅から遠方の学校を選択する場合もある（通学の負担がある）。
38	期待通り、思い通りにならなかったときの学校への要求や不満等、反動が大きい可能性があること。
39	遠距離通学する児童生徒の登下校時の安全確保、入学予定者数が把握しにくいこと。

問２　選択できる学校の範囲を今の隣接校方式から、範囲を「広げてほしい」という声が一部の保護者からありますが、そのことについてどのようにお考えですか。



①【賛成、どちらかというと賛成】８校／２５校中

1	児童生徒並びに保護者が、興味関心や希望する活動に応じて学校を選択できるようにすべきと考えるため。
2	デメリットをクリアできれば可能であるが、現在の状態がベストだと考える。
3	「不登校の経験がある子」「発達特性のある子」「得意分野が明確な子」など、それぞれに合った教育を提供できる学校を選択しやすくなる。また、子どもの学校適応がスムーズになることが考えられるため。
4	学級人数が僅少差になるかによって、メリット・デメリットを抱えることになるが、保護者の視点で考えると、日常の送迎や緊急時の一斉下校時に保護者負担はあるが、我が子に合った（通級利用など特性に合う）学校を入学の段階で選択できることは良いことであると考えるため。
5	選択肢の幅を広げることにより、可能性の幅が広がるため。ただし、距離や地域性などのデメリットも考えられる。
6	実際に通えるのであれば問題ない。子どもまんなか社会など、子どもの権利保護、子どもの意見を尊重し、より良い選択を子ども自身がしていく時代には可能と考える。親族の家に住所異動して通学するようなケースは減る。
7	本人、保護者のニーズにより近い学校の選択肢を増やすことができるため。 学校選択制を利用することは、ほとんどが部活動関係や人間関係だと思われる。部活動については地域展開がすすみ、住んでいる地域の範囲でやりたい部活・クラブができるのであれば、遠くへ通う必要はなくなると考えている。 部活動等で学校を選択する場合、隣接校のみでは希望する活動があるとは限らないため。選択肢の広がりを保障するため。
8	保護者の意向に寄り添うことが大切であると考えるため。隣接する学校の区切りが分かりにくいので、いっそのこと範囲をなくすのも一つの方法だと考える。

②【反対、どちらかというと反対】１８校／２５校中

1	欠席時の配付物対応、不登校になった場合の対応、非常災害時の集団下校等の対応が煩雑になるため。 家庭環境が脆弱である場合、登下校時に保護者が車で送迎できずに欠席ということが想定されるため。 連絡なく欠席する場合、最終的に家庭訪問が必要で、安否確認に時間がかかるため。 学校現場としては、今よりもさらに対応が難しくなるため。
2	通学路の安全確保、登下校時の見守り、緊急時の一斉下校時の対応などの難しさがあるため。
3	メリットがあることを認識したうえで、デメリットの方が重い考えるため。 バスや車で毎日登下校する場合を除くと、通学距離と時間が長くなり、児童生徒の安全確保がより難しくなるため。隣接校区を超えることで、より顕著になると考えられる。現状の「徒歩通学が原則」を変更し、全域から学校を選択できるようになったとしても、より遠い校区に通学する場合には、経済的にも負担がかかり、家庭環境によって難しい場合がある。経済力や家庭環境によって、学校選択の権利を行使できることは問題である。拡大する場合には、スクールバスなどの通学手段・安全性の保障が必要であると考える。保護者負担による通学が前提であれば、広げるべきではない。送迎の負担を市が肩代わりできるのであれば、どちらかというと賛成という意見があった。 また、学校施設や設備の差、所在地、全国学力テストの成績、部活動が地域内で維持できるかなどの視点から学校ごとに大きな差が必然的に発生し、結果として、ニーズの少ない学校が維持できず、特定に地域から学校がなくなることにつながることが考えられる。 その他に、これまでの経験から、小規模校ではＰＴＡ役員の選出に苦労することが多い。校区に住んでいない保護者にはお願いしにくく、「校区内在住ではない」ことを理由として、役員をやりたがらない方もいます。校区外からの登下校は、校区内の児童生徒と登下校にかかる時間などが異なるため、学校単位で考えられている危機管理に関することへの対応（特に自然災害について）が、現在よりも難しくなるのではないかと考えられるため。
4	学校選択の範囲が広がり、通学距離が長くなることで、熱中症や暴風雪等、登下校時・集団下校時の安全確保が難しくなるため。
5	児童生徒数がこれまで以上に増減することで、学級数の見通しに影響があるため。
6	選択肢が多いことは悪いことではないが、地域の子どもたちは、基本的には地域の学校に通うという前提に考えられているのが小中一貫教育でもあり、地域の学校へ通うことで安心を感じられる小中一貫教育を中学校区で推進すべきであると考えるため。
7	児童生徒数のバランスが保てず、教育活動に支障をきたす恐れがあるため。登下校の安全確保が担保できないため。
8	保護者が基本的なことに対応することが前提としても、あまりメリットを感じないため。
9	通学距離が長くなり、登下校時の交通事故や不審者対応、臨時休校などの連絡や送迎の心配など安全管理上の問題が大きくなるため。また、学校選択制を推し進めるのであれば、小中一貫教育を中学校区で区切らずに江別市全体で統一したものに変更する必要があると考える。 ただし、保護者が送迎等しっかり対応できるので広げてもよいという意見も根強いと感じる。小規模校としては、選択できる範囲が広がることにより、学校存続につながる可能性があると考えている。
10	隣接校方式からさらに範囲を広げることについて、校内では慎重な立場の意見が多くありました。徒歩や自転車での自立登校が困難になる児童生徒が増えることへの懸念と特定の学校に希望が集中してしまうこと、地域コミュニティの希薄化を招く恐れがあることが考えられます。
11	デメリットが解消された状態であれば広げてもよいと考える。保護者の「広げてほしい理由」を聞かせていただけるとありがたいです。
12	デメリットがより顕著になると思われるため。
13	通学の安全確保への不安と負担が増大するため。 入学者数の予測が難しく、学級編成や教員定数の確保、準備などの見通しが立ちにくいため。 入学に関係する案内、引継ぎの負担が増大するため。

14	登下校の負担が増えるため。交通事故の可能性が高くなるなど安全面への不安が大きくなるため。
15	子どもの発達発育段階を考えると、登下校に時間を割くことで時間や余裕、ゆとりのない状況はマイナスではないだろうか。
16	選択肢が多くなりすぎることで、判断が難しくなるため。
17	児童生徒・保護者により多くの選択肢があることは良い面もあると思うが、何でも許されるという風潮になる恐れがある。施設の老朽化など、学校側ではどうしようもない部分で選択されない場面が発生すると考えられるため。

問３　現在、学校選択は翌年度小学校あるいは中学校に入学する新１年生、または市外からの転入時のみ可能としていますが、「他の機会（進級時や市内転居時等）でも選択したい」という児童生徒と保護者の意見もあります。このことについてご意見をお聞かせください。



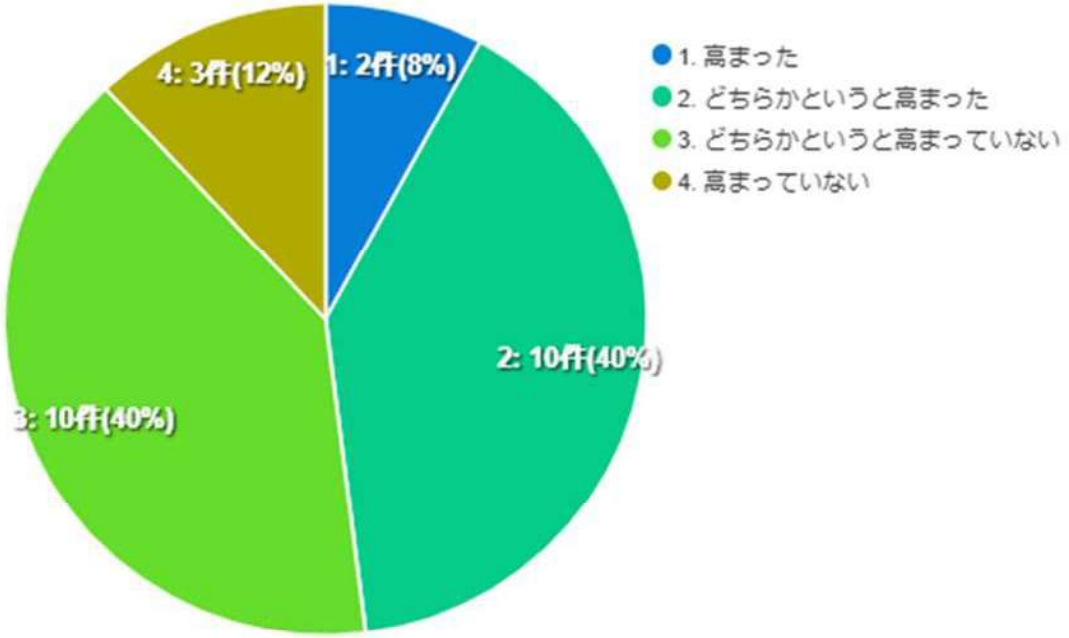
①【賛成、どちらかというと賛成】７校／２５校中

1	児童生徒並びに保護者が、興味関心や希望する活動に応じて学校を選択できるようにすべきであると考えるため。
2	不登校などの児童生徒が安心する可能性があるため。
3	これまでとは他の機会に学校選択できることは、様々な可能性の広がりが増えることであると考えるため。
4	市内転居時はもちろんのこと、いじめや人間関係などのトラブル、不登校など、環境を変えることが子どもたちの救済につながる場合には柔軟に認めるべきと考えるため。
5	不登校の子どもに学ぶ機会を与えるきっかけになる可能性があるため。
6	児童生徒や保護者に様々な事情があると感じるため、どちらかと言えば賛成です。
7	年度途中に市外からの転入する場合、居住地決定後に、学校選択制が適用できないことを知る家庭もあるかもしれないため。 本人と保護者のニーズにより近い学校の選択肢を増やすことができるため。 気軽に転校をしたいという人はほとんどいないため、市内転居時には適用してもよいと考える。

②【反対、どちらかというと反対】１８校／２５校中

1	学級編成や教員数の増減対応など、業務への影響が大きいため。
2	進級時の学校選択は、学級単位での児童生徒数の見通しが立たなくなり、常に学級増減が危惧される状況となる。安定した教育環境の確保が難しくなることが想定されるため。
3	児童生徒・保護者目線だけで考えると、自分に合った学校へ通うほうが成長に繋がり、進級時や市内転居時に利用したいという希望があることは理解できる。ただし、学級数への影響が大きく、学級編成等が難しくなり、周りの児童生徒への影響が大きいため反対です。市内転居時に関しては、転入時と同様に考えて良いのではという意見もあった。 選択される学校に偏りが発生する可能性が高く、児童生徒数が増えた場合に、教室数や教職員数の確保が困難であり、安定した教育が行き届かない可能性がある。 拡大する場合にも、保護者の負担が大きくなることを踏まえたうえで、簡単に決定するのではなく、面談など話し合いを踏まえるべきである。転入学した先の学校も、従前校も急な変更では潤滑な教育活動が行えない。
4	煩雑になることが多岐にわたると懸念される。不登校対応のうち、転校希望がある事案など特殊なケースに限って、学校選択を認めるなどの対応にとどめるべきである。
5	学校でトラブルがあった場合に、「何かあれば転校すればよい」という安易な考えになり、問題解決力や困難を乗り越えようと努力する気持ちが育たなくなることが懸念されるため。 進級時の転出入が多くなることで、学級編成が難しくなることに加え、学習規律や生徒指導の積み上げが難しく、指導事項が多くなり、学級・学年経営に支障をきたすことが予想されるため。
6	学校を容易に変更できるようになることで、人間関係の不安や不満といった本来学校内で解決すべき課題を避ける手段として転校が選ばれ、安易な環境の変化が繰り返される可能性があるためです。また、頻繁な転出入は学級編制や教育活動の安定性にも影響を与えます。特別な事情がある場合の柔軟な対応は必要と考えますが、一般的な運用としての拡大には慎重であるべきだと考えます。
7	児童生徒数が増減することにより、学級数の見通しに影響するため。
8	小中一貫教育の推進に反する部分があると考えるため。
9	学級編制に影響が大きいため。
10	学級編制の見通しが持てず、教育活動の不安定さにつながるため。
11	幅広く選択できることで、人間関係のトラブルやいじめなどにより不登校になった児童生徒の次なる場所が保障できる可能性がある。不登校傾向の児童生徒にとって、通学への可能性を広げる場合もあり、嫌々学校に通うよりは、様々な選択肢があっても良いよいのではないかと考える。 一方で、学校現場における対応が煩雑になる。途中で転校したいと考える理由が前向きなものであれば否定はしないが、「合わない」「思っていたのと違う」など安易に転校を繰り返すことにつながらないか懸念される。頻繁な転校が可能になることで、人間関係にも影響が出る恐れがある。学級経営で教師側の心理的時間的な負担が増大されることが予想されるため。
12	「広げてほしい理由」を聞かせていただけるとありがたいです。
13	学籍に関する事務作業が、煩雑になることが予想されるため。
14	「人間関係が上手くいかない」「不登校になった」などを理由として、安易に学校選択（転校）を希望する生徒が増加することが容易に予想される。自ら調整を図り、課題を乗り越える力の育成に支障が出るため。
15	児童生徒数の偏りが生じ、他の子どもに不利益が生じる可能性があるため。選択機会を増やすことで小中一貫教育のねらい、取組自体の意義に疑問が生じるため。
16	小中一貫教育を掲げる限り、反対です。
17	保護者の都合で何でもありといった状況は避けるべきである。
18	市内での転校が頻繁に認められると、対応する学校の負担が増えることが予想されるため。家庭内の問題やいじめ・不登校など個々の問題についての対応であれば必要であるが、ある程度の制限は設ける必要がある。

問４　学校選択制により、「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」との関連で、これらを進めようという教職員の意識が高まったかどうか、ご意見をお聞かせください。



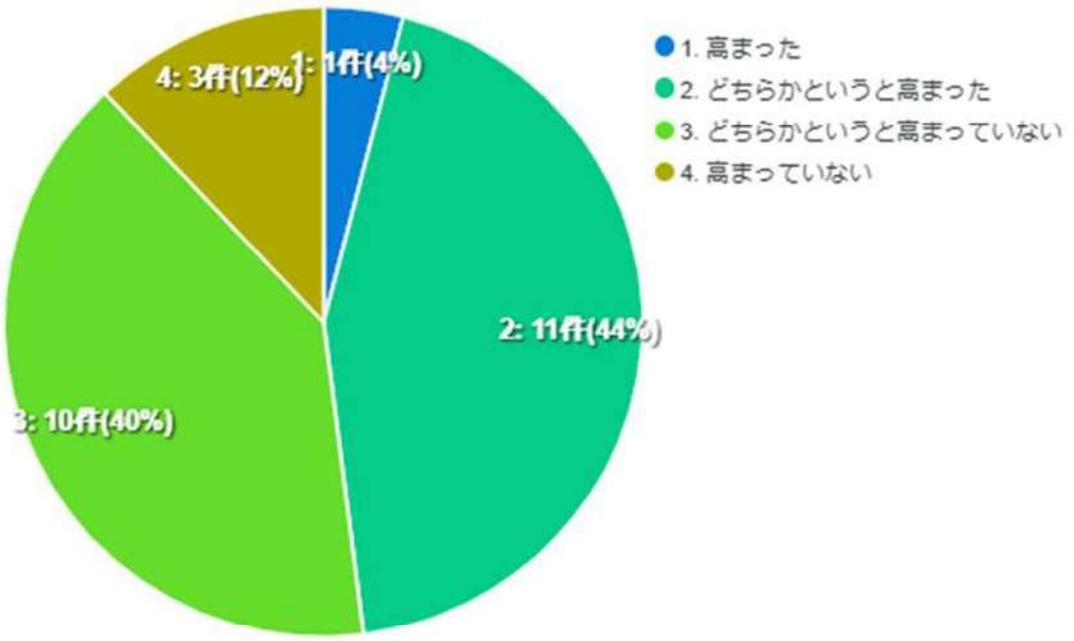
①【高まった、どちらかというと高まった】１２校／２５校中

1	教職員に「●●小／中として何を頑張っていくか」という共通意識があると感じる。
2	選択される学校の要因として、「自校の強みは何か」について教職員で考える機会となっている。
3	日々の業務では多忙感があり、さらなる新しい取組を広げることが難しいと感じる場面もあります。しかしながら、学校をより魅力あるものにするために、既存の活動の精選や見直し・改善を意識するきっかけにはなっており、学校づくりに対する意識の向上には一定の効果があると考えています。
4	先生方は、特色ある学校づくりを進めようと日々努力しています。そういった気持ちが、「地域とかかわる」「地域から評価される」ことで、より高まっているのではないかと感じています。
5	公立学校とはいえ、学校としての取組をホームページや学校運営委員会等々を活用して、積極的に情報発信を行うようになったと感じる。
6	学校が地域と連携して、その良さを活かそうとする活動は、結果として、いま必要とされている地域に根付いた教育活動につながるものであると思います。
7	自校の特徴を生かした教育活動を意識するきっかけになっている。
8	参観人数の多さや「感想」に書かれている意見について、肯定的な内容が多いため、教職員の意識は高いと感じます。
9	地域一体型という意識の高まり、小中一貫教育への取組意識の高まりを感じる。
10	誰が学校選択制で入学したかという点について、教職員は意識していない。 特認校の様子を見ていると、一定の効果は感じる。
11	学校の顔づくり事業により、特色・伝統ができました。今後もずっと継続していかないといけないという認識と責任感が強いです。
12	小中で連携している取組は、地域一体型・学校の顔づくり事業としては効果がある。

②【高まってない、どちらかというと高まってない】１３校／２５校中

1	義務教育の学校現場には、私学のような「より多くの児童生徒を獲得する」という考えはなく、学校選択制度を活用して校区外からの児童生徒を多く受け入れようという経営方針等も示されていないため。学校選択とは関係なく、地域の実態や児童生徒・保護者にとってのよりよい学校づくりの延長で、「特色ある学校づくり」に取り組んでいる。
2	学校選択制を理由とはせず、これまでの教育活動を振り返りながら「特色ある学校づくり」「地域一体型・学校の顔づくり事業」をすすめていこうという意識が強いため。 「特色ある教育活動」という響きは良く聞こえるが、学習指導要領上にいろいろな制限があり、各学校では学力向上に重点を置き、クラブ活動レベルで「特色」があるだけで、「特色ある教育活動」ではないと考えるため。 教職員としては、子どもたちをいかに伸ばしていくかに重きを置いている方が多いと思うが、特色ある学校づくりを進め、それに魅力を感じて学校選択制を利用して子どもが集まるということは考えていない。特色のある学校作りを否定しているわけではなく、それと学校選択制は結びついていないと考えている。
3	学校選択制により意識が高まったとは考えていないため。
4	学校選択制はすでに定着しており、その意識からではなく、児童生徒や地域の実態、課題、求められている教育、重点目標などを意識して学校づくりを進めるため。
5	学校選択制が関連しているとは考えていないため。
6	学校の特色や伝統、良さを意識しながら教育活動を進めていることに違いないが、「学校選択制」は必ずしも関連していない。
7	学校選択制に関連した意識の高まりは感じていません。
8	教育機会の均等という意味では、学校選択制に関係なく設問のような事項に意識的に取り組むべきである。小規模校の場合は特に、児童生徒の多面的多角的視点を育む関係上、どうしても人数の確保が必要である。そのため、「特色ある学校づくり」が特に大切になってくるので、教職員一同そのような意識の高まりがある。 学校選択制によって校区外の学校へ流出する児童生徒が毎年数名存在していることが、地域課題の一つになっており、学校選択制そのものに異議を唱える住民も存在する。そのような中、やはり地域からの流出を防ぎたい！行きたくなるような学校でありたい！という思いがあり、「まずは『地域の学校として選ばれる』ために、本校ならではの教育を進めていく」という意識は高まってきている。
9	意識の高まりはあるが、学校選択制というよりは、「顔づくり事業」や中学校区の小中一貫教育を進めようとする意識によるものであると考えます。
10	どのような学校を目指すか、どんな学校にしていきたいか、どんな児童生徒を育成していきたいか等について、学校評価等により協議しているが、「学校選択を増やすため」という理由ではなく、教職員もそのような観点で考えていない。
11	施設の古さ、部活動の種類や強さが、学校選択基準の一つとなっている、という話を地域の人から聞く。学校選択制は「特色ある学校づくり」の意識向上とは関係ないと考える。
12	学校選択制とは関係なく、特色ある学校づくりを進めている。
13	学校選択制とは関係していないため。

問５　学校選択制により、保護者の学校運営に対する関心が高まったかどうかについて、感想やご意見がありましたらお聞かせください。



①【高まった、どちらかというと高まった】１２校／２５校中

1	学校選択制により入学した児童生徒の保護者は、学校への期待も大きい。
2	児童生徒並びに保護者が、希望する校風や活動の有無等によって複数の学校を比較し、学校を選択する制度であることから、必然的に学校経営方針や実際の校内の様子に、関心が高まっていると感じる。
3	学校選択制があることで、小学校入学前と卒業前に学校に関心をもつ機会があるため。
4	学校を選択する際は、学校経営のグランドデザイン等も精読したうえで判断するものと考えているため。
5	学校運営そのものに直接関心が向けられているとは言えないものの、学校ごとの特色ある活動を比較したり、知ろうとしたりするきっかけにはなっており、保護者が学校に興味を持つ機会が増えていると感じています。
6	ＰＴＡ総会の出席率の高さ、ＰＴＡ活動に全員が必ず参加して取り組んでいただけることは関心の高まりと考える。
7	学校選択するうえで、各校の教育活動が判断材料の１つになるという点から、意識は高まったといえる。
8	学校選択制が可能であるがゆえ、学校への距離の近さや部活動、そして人間関係などに関する問い合わせがあったため。
9	学校の特色を理解したうえで選択した保護者については、関心が高まっていると感じられる。自分の子どもに合った学校を主体的に選ぶプロセスが、結果として学校への理解や地域・学校の連携を深める一助になっている。
10	学校一斉公開することで、子どもたちの様子を参観する保護者が増えたと感じます。
11	地域への学校開放時に、他の校区からの見学者が一定数いる。
12	各学校の特色や市内一斉公開日等で各学校の雰囲気などを調べる保護者が増えた。

②【高まっていない、どちらかというと高まっていない】１３校／２５校中

1	学校選択をした保護者は高まったと考えられるが、大多数が校区内から入学するため、特段きっかけになったとは感じていない。
2	隣接する学校の話題が保護者から出てくることはあるが、今まで自分が関わった学校選択を希望した児童生徒は「部活動」か「人間関係」が理由であり、学校運営についての意見を聞いたことはない。そもそも、学校選択制で本校を選んだ保護者が少ない。学校運営に直結しているとは思えないため。
3	そういった声を聞いたことがないため。
4	学校選択制を利用している保護者の実態から高まっていないと感じる。
5	学校選択を利用して入学する児童生徒が少ない。
6	「どちらかと言えば高まっていない」と回答するが、回答が難しい。保護者は、学校に対して非常に協力的である。そして、地域住民の多くは、子どもが地域の学校で過ごせることを望んでいる。その一方、学校選択制の趣旨から現実的に「むしろ校区外」という選択をする家庭も多い。そのような現状から、本校としても学校存続は課題の一つと認識している。しかし、保護者に「学校選択に対する関心」が入学前にあることは感じるが、「学校運営に対する関心」が選択制やその運用によって変化しているかは図りかねる部分が多いと感じる。 地域の要望・悲願から保育園が整備され、放課後児童クラブも設置されることになった経緯があるが、現在は「存在するのがあたりまえ」のように思っている保護者も多くなっており、保育園・放課後児童クラブ・学校に対する保護者の姿勢・在り方が学校運営委員会で話題にあがってきている状況である。各施設の運営に対して依存的で無関心に感じる場面が多々見られ、「関心が高まっている」とは思えない現状である。
7	明確にはわかりかねるが、学校選択制が保護者の関心を高めている様子は見られない。本学校区では、学校選択により校区外へ通学する家庭は極めて限定的ととらえております。
8	ここ数年間、小学校との引継ぎを行うなかで、学校選択制を利用した理由の主なものは、部活動、小学校時代の人間関係の解消がほとんどであるため。
9	部活動への関心、熱量の高まりは感じるが、学校運営に対する関心の高まりを感じる場面は少ない。
10	保護者アンケートでは、毎回のように設備の古さや寒さについて、近隣の学校と比較して指摘があるだけで、学校運営に対する関心の高まりではない。
11	学校選択制と保護者の意識については、あまり関係ないと感じる。
12	選択制により隣接校に入学した保護者へのアンケートがあればよいが、保護者の意見を聞く場がないため判断しかねる。
13	学校選択制で本校に希望する児童生徒が少ない地域であるため、正直わからない。

問６　学校選択制により、どのような変化（教職員、児童生徒、保護者など）が見られたか
ご自由にお書き下さい。

1	学校現場の感覚としては、大きな変化は見られない。居住地が遠い児童生徒が不登校になった場合には対応が難しい。
2	学校だよりやホームページなど、学校の情報を積極的に発信し、「開かれた学校」を意識した構成になった。
3	毎年、本校区から校区外の学校に入学を希望する家庭があるが、大きな影響・変化はないように感じる。
4	保護者の中には、一斉公開日等を活用しながら、学校の様子等をもとに選択するようになってきていると感じる。 希望の部活動に参加できる、人間関係をリセットして中学校をスタートできるなどプラスの変化と、特に理由もなく新しい出会いがほしいから、仲の良い友達がいるからなど、中学校生活の見通しもなく、学校選択を希望する子どもが増えたと感じている（気軽に学校選択することを批判するものではない）。 学校選択制が導入された頃の教職員にもう一度アンケートを実施し、いまの江別の教育がどのように変わってきたかを聞いてみたほうが良いのではないだろうか。変化に関しては、現在の教職員だけに聞いても分からない部分がある。
5	選択の幅が広がっていることには、好意的な意見が多い。しかし、全ての面で良いかというわけでなく、特に安全面では留意していく必要がある。
6	「幼保こ」のつながりや友人関係を重視した学校選択が行われており、小学校１年生の円滑な学校生活のスタート（小１プロブレムの防止等）に寄与している。
7	各学校の特色や違いに目を向けるきっかけになっている。他校の取組を知ることで自校を見つめ直し、より良い方向へ改善しようとする意識につながっています。
8	家庭の事情による学校選択の状況を耳にします。学校の特色等を理由とした学校選択の声を聞いたことがないため、今後は積極的に学校選択制により本校を選択した保護者にも話を聞かなくてはと思いました。
9	小学校ではあまり変化は感じられません。中学校では部活動による学校選択が一定数いるのではないかと思います。
10	児童生徒に関しては、自らが選んだ学校という意識が、学習意欲や学校生活への満足度につながっている。
11	本校自体には変化はない。一方で、地域住民による考え方の違いは感じている。「学校は存続希望のため、児童生徒の流出を防ぎたい」。その一方で「大規模校で子どもを育てたい」と校区外へ通学する子どもが一定数いる状況。それが地域の中でどのように作用しているのか実感はできないが、地域行事などへ顔を出すと、本校に在籍していない子どもがたくさんいることを痛感する。その中で、教職員が地域の学校としてのあり方を考えてしまうことがあるのも、事実である。
12	児童数および学級数の減少にともない、職員のモチベーション低下や学校運営上の課題が生じました。地域の方々からも、本校が選ばれなかったことを惜しむ声が寄せられていました。その背景には、単学級（１学級）であった時期に、どうしても敬遠されてしまったという経緯があります。
13	参観日にいらっしゃる保護者数の多さや、アンケートに書かれている意見に肯定的な内容が多いことで、教職員の意識は高くなっていると感じます。保護者からは、休み時間の様子を見ることができるのも好評でした。子どもたちにも嬉しい様子が見られました。
14	行事等における駐車場の配慮が必要になりました。
15	特に変化は感じられていません。

16	保護者や児童生徒が自ら選択したことにより、部活動については関心の高まりを感じる。 ただ、保護者からの要求が高くなってきており、対応する教職員の負担が増えている。
17	教職員の中には、本校が選ばれない劣等感に似た感情を抱く者もいる。
18	学校選択制を利用し、部活動に励む子どもにとっては、効果が見られている。 特認校出身の子どもたちにとって、居住区の中学校へ進学せず、小学校の友人と一緒に学校生活を送ることができるため、人間関係構築にそれほど不安を感じていない様子である。
19	生徒が抱える小学校時代の人間関係への負担感が解消されていると感じる。
20	学校選択制とは関係ないかもしれないが、年々、施設が古い、〇〇をなおしてほしい等、学校としてはどうにもならない要望が多くなってきていると聞いています。
21	保護者には、市内の小中学校についての興味・関心を高める効果があったと考える。

問７　学校のＰＲなど情報発信の部分で学校における課題あるいは市教委に何か要望がありましたら、お聞かせください。

1	学校の顔が見えるような学校づくりをするならば、学校裁量で特色ある教育を考えられる部分が増える必要があると感じる。 千歳市では市の広報誌に学校の名物先生を取り上げるようなコーナーがあり、魅力の発信につながっていたと感じる。
2	ＨＰの充実が課題である。保護者は、まずインターネット等で情報を探すため、学校の特色をＨＰ上でも展開する必要がある。
3	ＰＲについては、ホームページによって発信する以外のＰＲ方法がないのが課題である。 他校で何か良いＰＲをしていたら教えていただきたい。
4	学校の施設・設備の古さという課題を解決していただきたい。
5	学校独自の特色に魅力が感じられるよう学校として取り組んでいきたい。

問８　その他、学校選択制に関するご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

1	ＨＰでは「通学距離や友達関係など様々な理由で、子どもが行きたい、保護者が行かせたい学校を希望できる制度」となっているが、大切なのはその理由だと思う。あまりにも気軽に変更できるような制度にしていくことには反対である（声を上げている保護者の希望に沿い続けるとそのような方向へ変更していく可能性があると感じたため）。 保護者へのアンケート結果を共有してほしい。この制度を評価するうえで、一番大切なことだと思う。 学校選択制でうまくいく事例は、各学校に裁量権があるのと同時に、地域間の交流が盛んな地域であると思う。江別市内で、学校間での話し合いが活発になっているのだろうか。お互いに高め合う教育環境になっているのだろうか。他市町村から異動してきたばかりであるが、現在のところそのような環境であるとは感じていない。学校は、保護者と地域と教職員がともに作り上げるものであり、地域から学校がなくなるとそのコミュニティーは壊れてしまう。そこまでの危機感を持ちながら、学校選択制を考えられているのか心配がある。
2	小中一貫教育が充実してきたため、学校選択制については、様々な意見があると思いますが、将来的には終えることを見据えて、縮小していくのが良いのではないか。
3	小中一貫教育との整合性が必要（例：学校選択可能な時期は小学校入学のみとする）
4	保護者の視点に立つと、隣接校に見学に行って入学先を検討できる現在の制度は「自由度がある良い制度」だと考えられる。
5	児童生徒にとって、より良い学校生活につながる学校選択は否定はしないが、安易に部活動や人間関係を理由に学校選択をしても、児童生徒にとって良い選択にならない可能性も十分にあることを、それぞれの立場で保護者・児童生徒に伝えていく必要がある。
6	本校は職員が協力し、魅力ある学校づくりに力を尽くし、小中一貫教育も前進させてきたが、隣接する学校へ毎年かなりの子どもが選択して進学していく。その結果、定数減などの課題に直面してきた。本校の職員の中には、諦めや定数減の恐怖を感じること、学校選択制の意義に疑問を抱く職員が一定数いる。
7	学校選択制の締め切りがもう少し早ければ、学校としても見通しをもって取り組めると思いますが、選択する保護者・子どもにとっては、考える時間も必要だと思うため、難しい部分であると感じます。
8	小中一貫教育の取組と学校選択制について考えたとき、少し違和感を覚えることがあります。中学校側としては、校区の小学生に少しでも笑顔が多くなるような教育課程の計画や小中一貫教育の取組推進に力を入れていきたいと思います。
9	部活動の地域展開と関連させて、変更を含めた制度の運用を進めたら良いと考える。

問９　江別第一小学校が市内で唯一分散進学となっています。このことについてご意見をお聞かせください。（※江別第一小、江別第一中、江別第三中のみ回答）

1	日常的な連携・交流や体験入学など、二校が相手だと教職員も分散され、対応に難しい場面があった。可能であれば、分散進学でないほうが望ましい。
2	本校にとっては全く問題はありませんが、子どもたちや保護者にとっては、進学先を考える負担などがあるかもしれない。
3	小中一貫教育に関しては当初、第一中学校区と第三中学校区の２つの目指す子ども像があったため、小学校のことを考えると推進できないこと、中学校同士で足並みを揃えなければならないことなど、本校の学校運営上制約があった。